

多摩川中流部（本流）における 子供の川遊びと水辺行動についての実態調査

2002年

上田大志

多摩川センター

はじめに

現在、「多自然型川づくり」や「水辺の楽校プロジェクト」など、人といきものにやさしい川づくりが活発になってきており、子どもたちにもっと川に親しんでもらおうとする動きが全国的に広まってきている。しかし、今なお都市部の多くの子どもたちは、両親や学校から、川は危険な場所であるとして、同伴者なく子どもたちだけで川遊びに行くことを禁止されている現状がある。

では、実際に多摩川で子どもたちが川遊びをしている例はどの程度あるのだろうか。子どもたちは川のどのような場所でどのように遊んでいるのだろうか。子どもたちの生活環境や川に対する意識はどのようなのだろうか。多摩川中流部をフィールドとして調査することとした。

本研究では、子どもたちの川遊びの実態を調査することによって、魅力的な川について考えるきっかけとしたい。

目次

はじめに

この研究の目指すもの.....	3
調査計画.....	3
調査の実施方法・調査用紙について.....	4
A 区間（上流側／羽村堰～関戸橋）の調査結果.....	5
・第1回ラインセンサス調査.....	6
・第2回ラインセンサス調査.....	13
・ヒアリング（アンケート）調査.....	20
B 区間（下流側／関戸橋～丸子橋）の調査結果.....	43
・第1回ラインセンサス調査.....	47
・第2回ラインセンサス調査.....	56
・ヒアリング（アンケート）調査.....	65
今後に向けて.....	91
参考資料1『多摩川の将来像』.....	95
参考資料2『多摩川散策日記』から.....	100

この研究の目指すもの

私の所属する多摩川センターは、多摩川流域における、市民・行政・企業・学識経験者等のパートナーシップによる“いい川づくり”のコーディネーターを目指している。

この研究によって、子どもたちの川遊びの場として魅力的な川について考えることで、『多摩川河川環境管理計画』の見直しにつなげるなど、より良い川づくりを進めていく上での問題提起としたい。また、当センターで行っている「多摩川ふれあい教室」では、子どもたちに多摩川に親しんでもらうために様々な活動を行っている。この研究の成果を活かし、子どもたちにとってより魅力的な教室にしていきたい。さらに、子どもたちの立場から「水辺の楽校プロジェクト」を見つめる手がかりとしたい。

調査計画

1. 場所

川遊び調査の場所は、多摩川の中流部（羽村堰～丸子橋）とした。調査にあたっては、本川のみならず、河川敷内の細流やワンド、残留池などの水辺空間全般において、川遊びをしている子どもたちを対象とした。また、調査区間内に20箇所程度の定点観察地点を設けた。この選定にあたっては、多摩川中流部の多様な河川環境を活かし、豊かな自然環境の残されている場所、多自然型川づくりの実施場所、人工的な区間等を配分する。

なお、調査区間が約40kmと長く、河川環境もその上流側と下流側とではかなり異なるため、調査区間をA区間（上流側／羽村堰～関戸橋）とB区間（下流側／関戸橋～丸子橋）に分け、2年間に亘り、調査・研究することとした。

2. 方法

子どもたちで川遊びをしているグループを対象として調査を行った。子どもたちだけの事例のほか、親子連れなども調査の対象に含めた。

◇人数およびどのような場所でどのように遊んでいるのかについての調査

(1) ラインセンサス調査

ある一定の区間内において、どれだけ的人数が何をして遊んでいるのかを知ることができる。夏季に2度（夏休み／平日の午後）実施した。

◇子どもたちの生活環境および川に対する意識調査

(2) ヒアリング調査

定点において、実際に川遊びをしている子どもたち（親子連れなどを含む）に対して、アンケート方式によるヒアリング調査を行う。夏季1度実施した。

「ライセンス調査」および「ヒアリング(アンケート)調査」

調査の実施方法・調査用紙について

- 「ライセンス調査」(1999年度第1、2回、2000年度第2回)については、2000年度第1回ライセンス調査結果の47～49ページを参考にしてください。
- 「ヒアリング(アンケート)調査」(1999年度)については、2000年度ヒアリング(アンケート)調査結果の70～72ページを参考にしてください。

多摩川中流部（本流）における子どもの川遊びと水辺行動についての実態調査

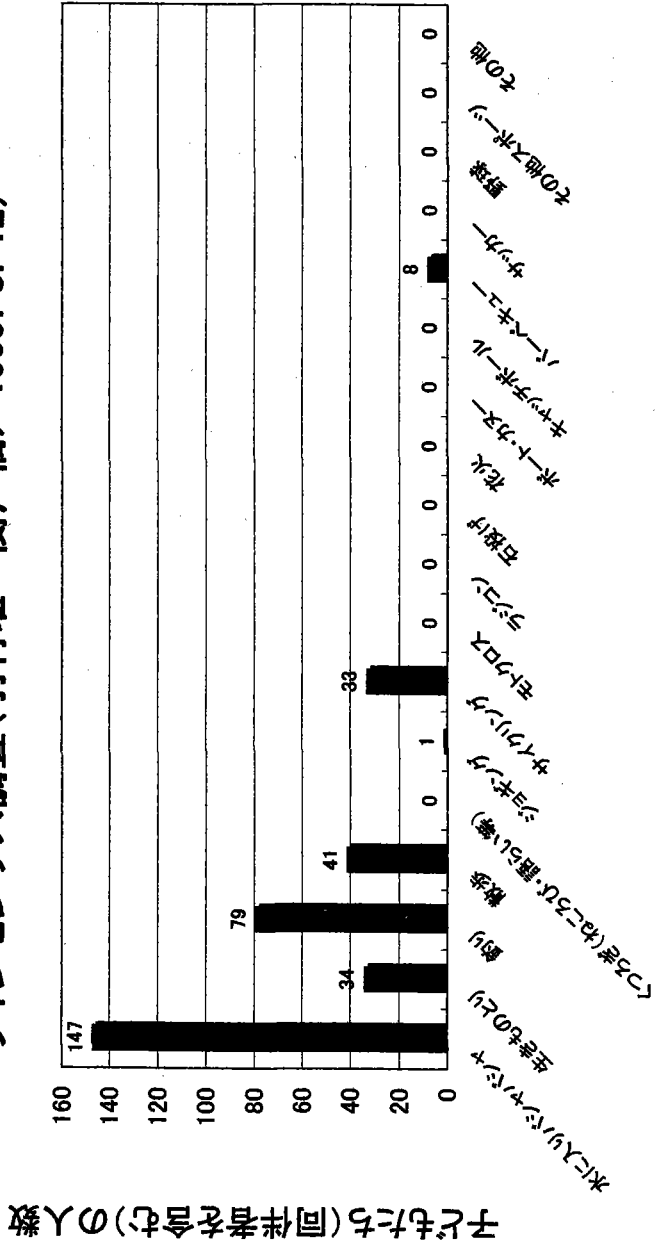
A 区間（上流側／羽村堰～関戸橋）の調査結果

1. 第 1 回ラインセンサス調査（1999 年 8 月 12 日）
2. 第 2 回ラインセンサス調査（1999 年 9 月 9 日）
3. ヒアリング（アンケート）調査（1999 年 8 月 22 日）

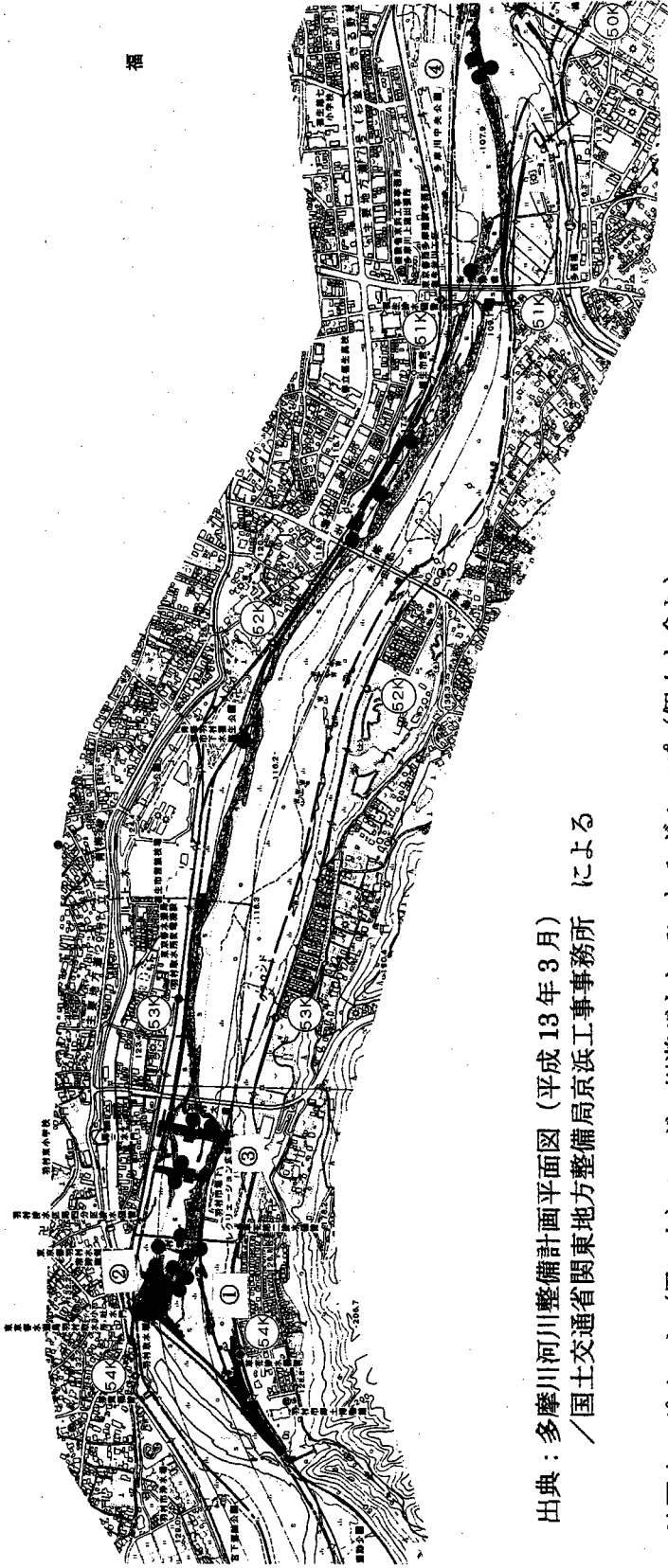
第1回ラインセンサス調査(羽村堰～関戸橋)

調査地区\遊びかた	1999年8月12日(木)実施 単位:人																	
	水に入りパ ンヤパンヤ	生きも のどり	釣り	散歩	くつろぎ(ねこ び・籠(い等)	ジョギ ング	サイク リング	モトク ロス	ラジコ	石投げ	花火	ボート カヌー	キャッチ ボール	バーベ キュー	サッカー	野球	その他ス ポーツ	その他
合計 (343)	147	34	79	41	0	1	33	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0
羽村堰～多摩橋		19	6										8					
多摩橋～昭和水堰	78																	
昭和水堰～多摩大橋	38	4	16															
多摩大橋～日野橋	21	9	19															
日野橋～関戸橋	5	5	34	41		1	33											

ラインセンサス調査(羽村堰～関戸橋/1999. 8. 12)



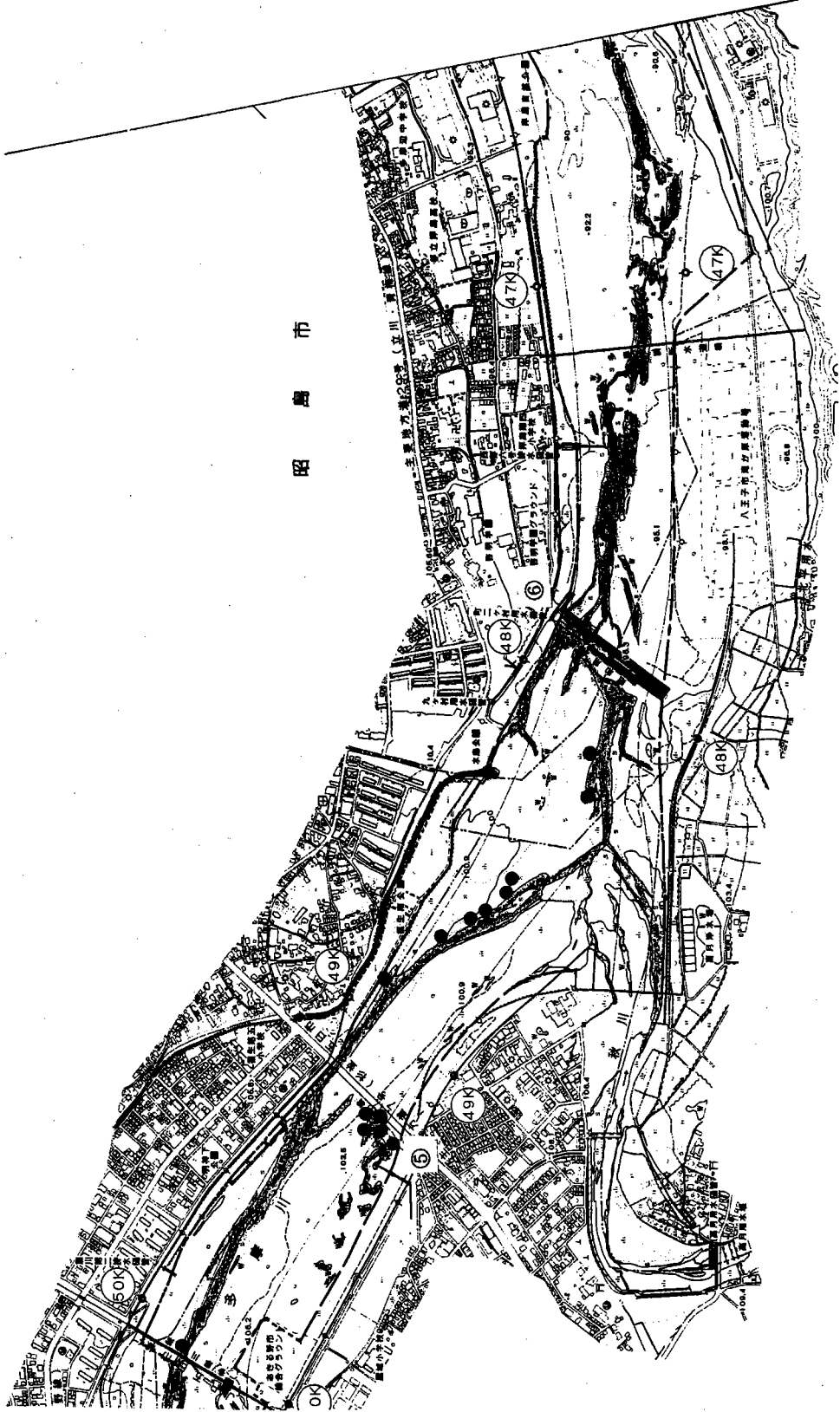
遊びかた



出典：多摩川河川整備計画平面図（平成13年3月）
 / 国土交通省関東地方整備局京浜工事事務所 による

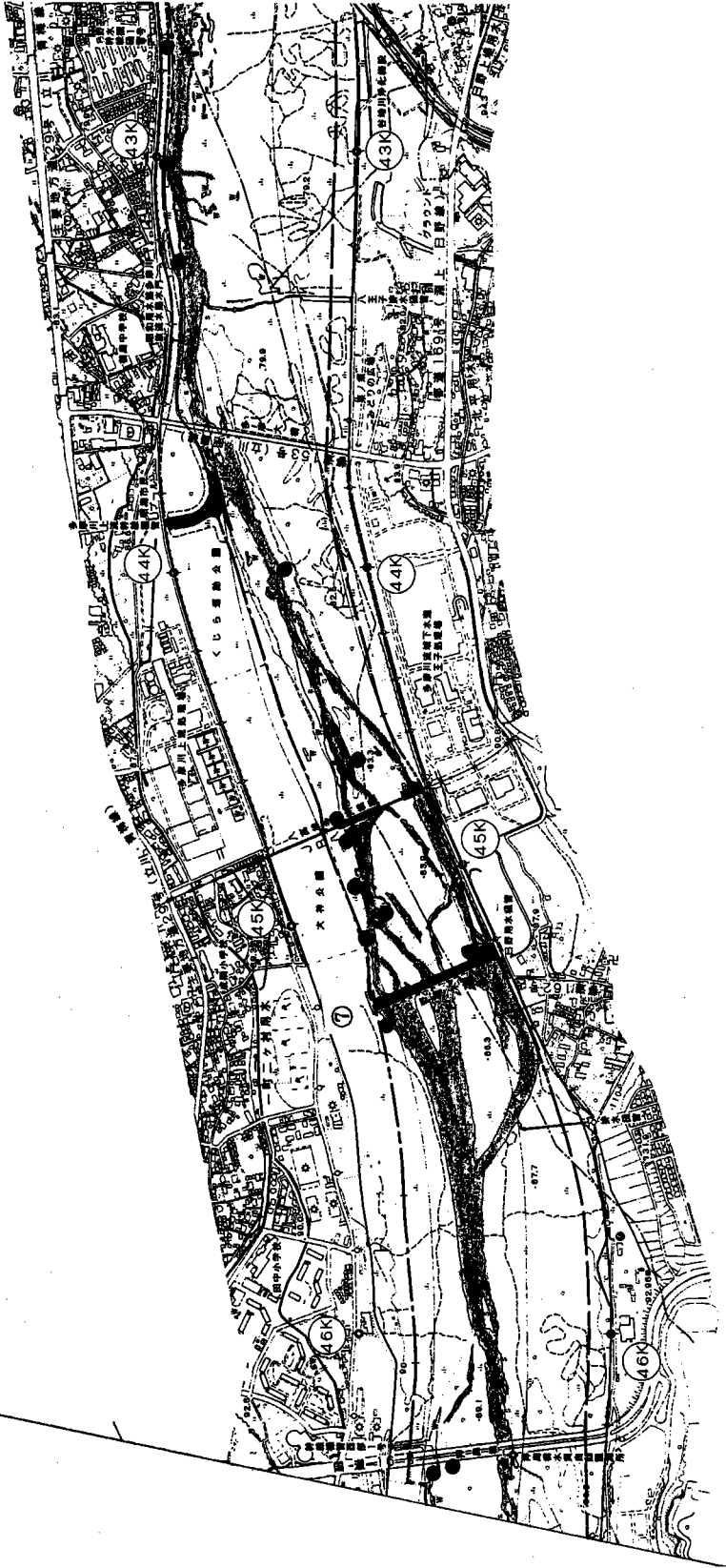
地図中のポイント（黒い丸）1つが、川遊びをしていた1グループ（個人も含む）

昭島市



八王子市

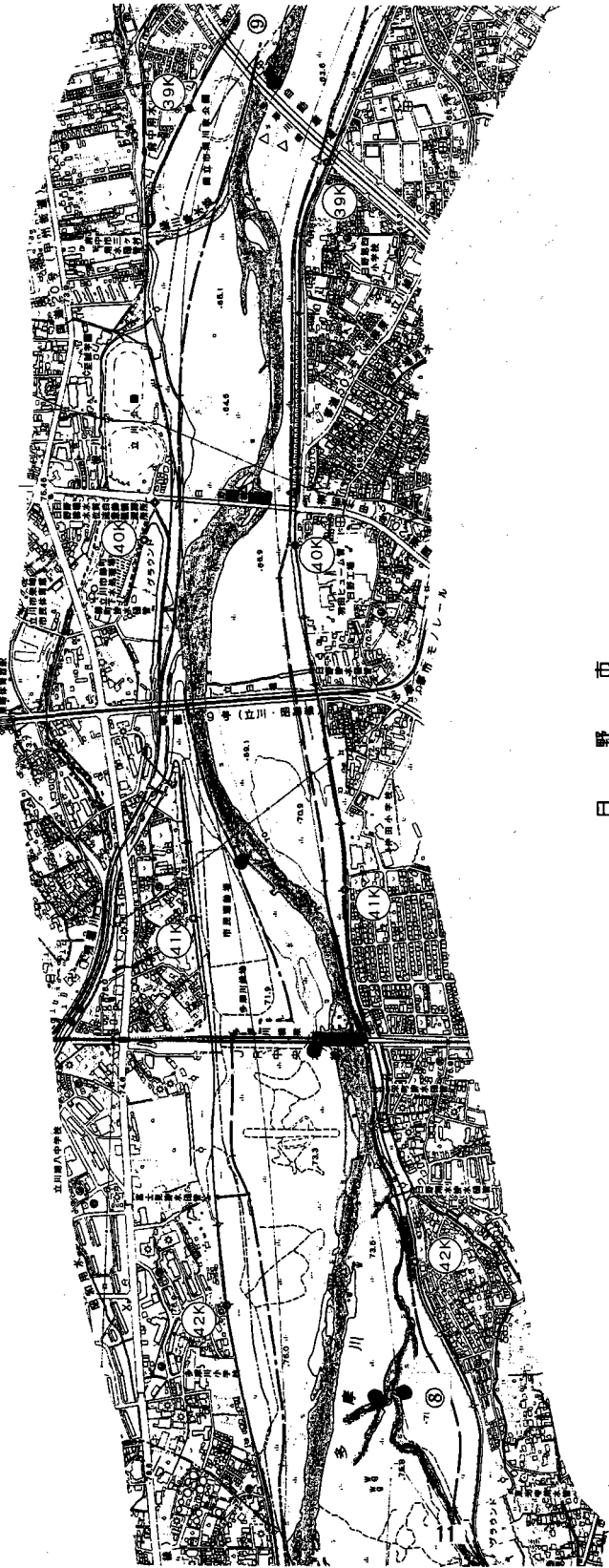
昭 島 市



八 王 子 市

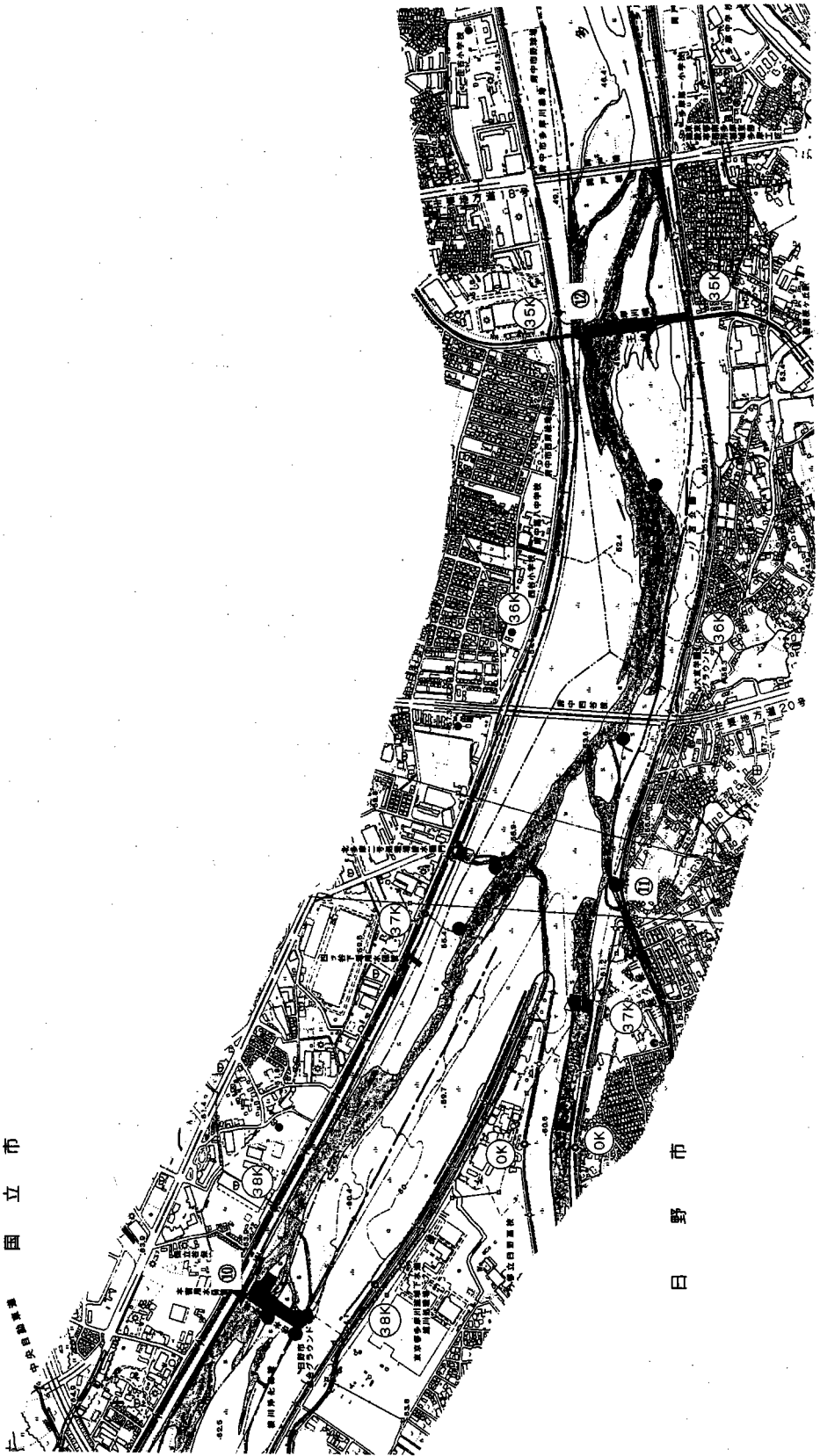
立川市

立川市立川区
立川市立川区
立川市立川区
立川市立川区
立川市立川区



市野日

國立市



日野市

調査結果からわかること

◇第1回ラインセンサス調査

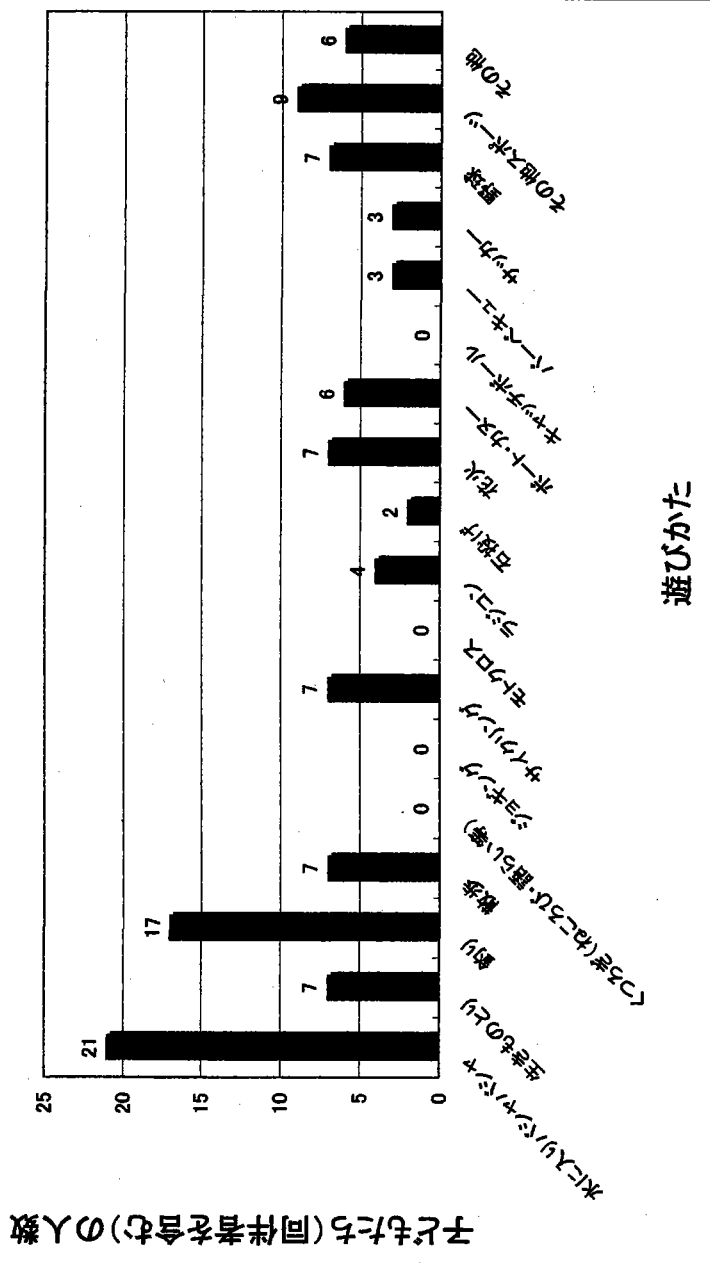
…A 区間（羽村堰～関戸橋）・1999年8月12日実施

- ・平日（木曜日）ではあるが、夏休みの午後でお盆休みということもあり、親子連れを含め、大勢の子どもたちが遊んでいた（343人）。晴れて非常に暑い日だった。調査地区はすべて左岸（東京）側で行った。これは、右岸側は本川に合流する支川が多く川通しに歩きにくいのと、これまでの経験から左岸側の方が人出が多いと思われたからである。
- ・「川遊び」の概念を、「水に入りバシャバシャ」、「生き物とり」、「釣り」に代表されるように、基本的に川の水と直接ふれあう遊びとした。このため、調査結果はいわゆる「水遊び」をしている子どもたちおよび同伴者の人数となっている。例えば、実際に水に入って遊んでいる人と、河原でバーベキューをしている人の数やその割合などはわからない。
- ・調査地区のうち、最上流部（羽村堰～多摩橋）において、「水に入りバシャバシャ」している人数が非常に多い（78人）。地図で見ても、羽村堰下で遊んでいる人は多い。また、下流に行くにしたがって、「水に入りバシャバシャ」は減り、「釣り」をしている人が増えてくる。これは、水質の良し悪しとも関係があるのではないだろうか。夏、子どもたちは川に行けば、まず飛び込んで水と戯れたいと思うだろうし、おとなたちも、「水のきれいなところだから…」という思いで、一緒に遊んでいるのではないだろうか。

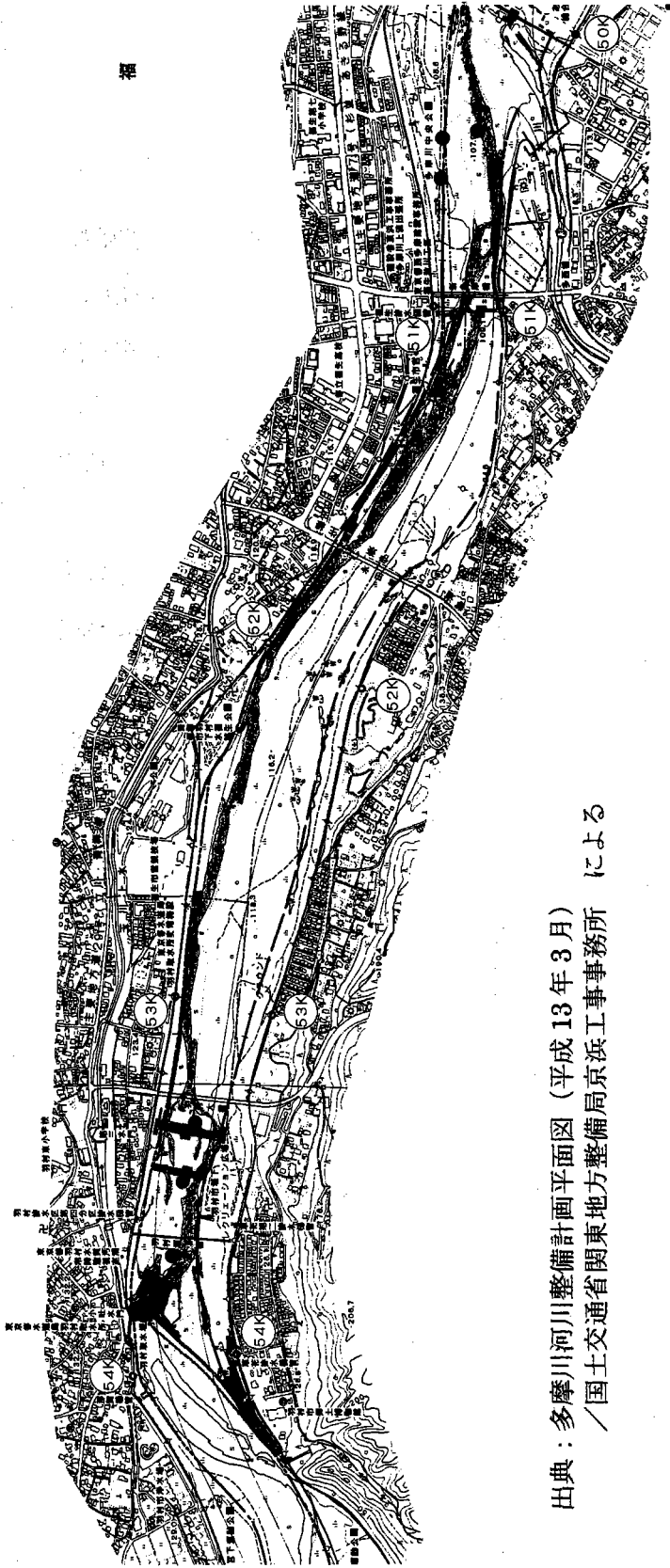
第2回ライセンサス調査(羽村堰～関戸橋)

調査地点、遊びの形態	1999年9月9日(木)実施 単位:人																	
	水に入りパ ンヤパンヤ	生きもの のとり	釣り	散歩	くつろぎ(ねころ び・昼寝)	ジョギ ング	サイク リング	モトク ロス	ラジコ ン	石投げ	花火	ポート・ カヌー	キャッチ ボール	パーベ キュー	サッカー	野球	その他ス ポーツ	その他
合計(106)	21	7	17	7	0	0	7	0	4	2	7	6	0	3	3	7	9	6
羽村堰～多摩橋		3		5										3				
多摩橋～昭和用水堰	6	2	9	2				4	7						3			8
昭和用水堰～多摩大橋	10	5	3	3				2										
多摩大橋～日野橋				2														2
日野橋～関戸橋	2															7	1	

ライセンサス調査(羽村堰～関戸橋) / 1999. 9. 9



遊びかた

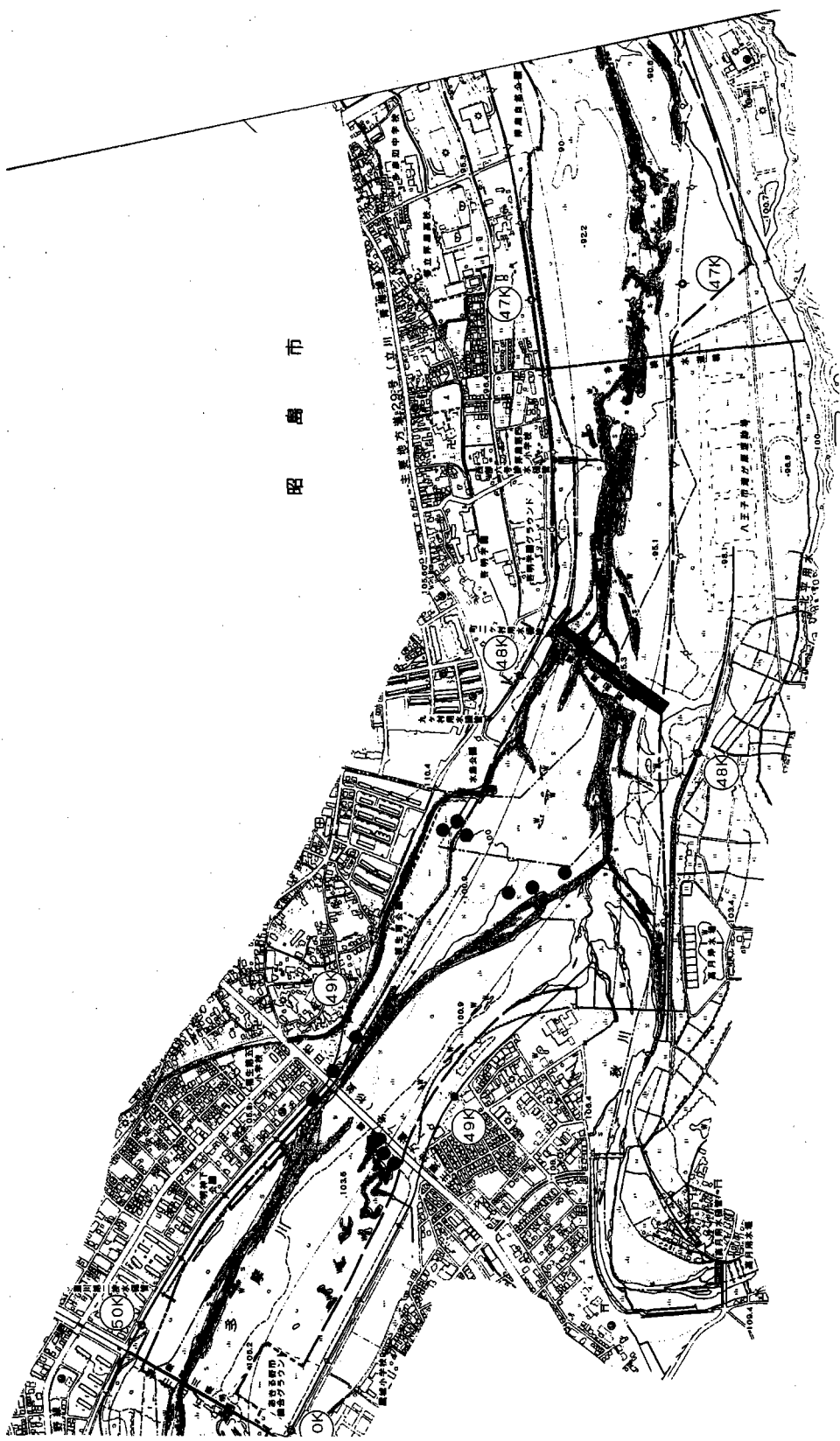


相

出典：多摩川河川整備計画平面図（平成13年3月）
 / 国土交通省関東地方整備局京浜工事事務所 による

地図中のポイント（黒い丸）1つが、川遊びをしていた1グループ（個人も含む）

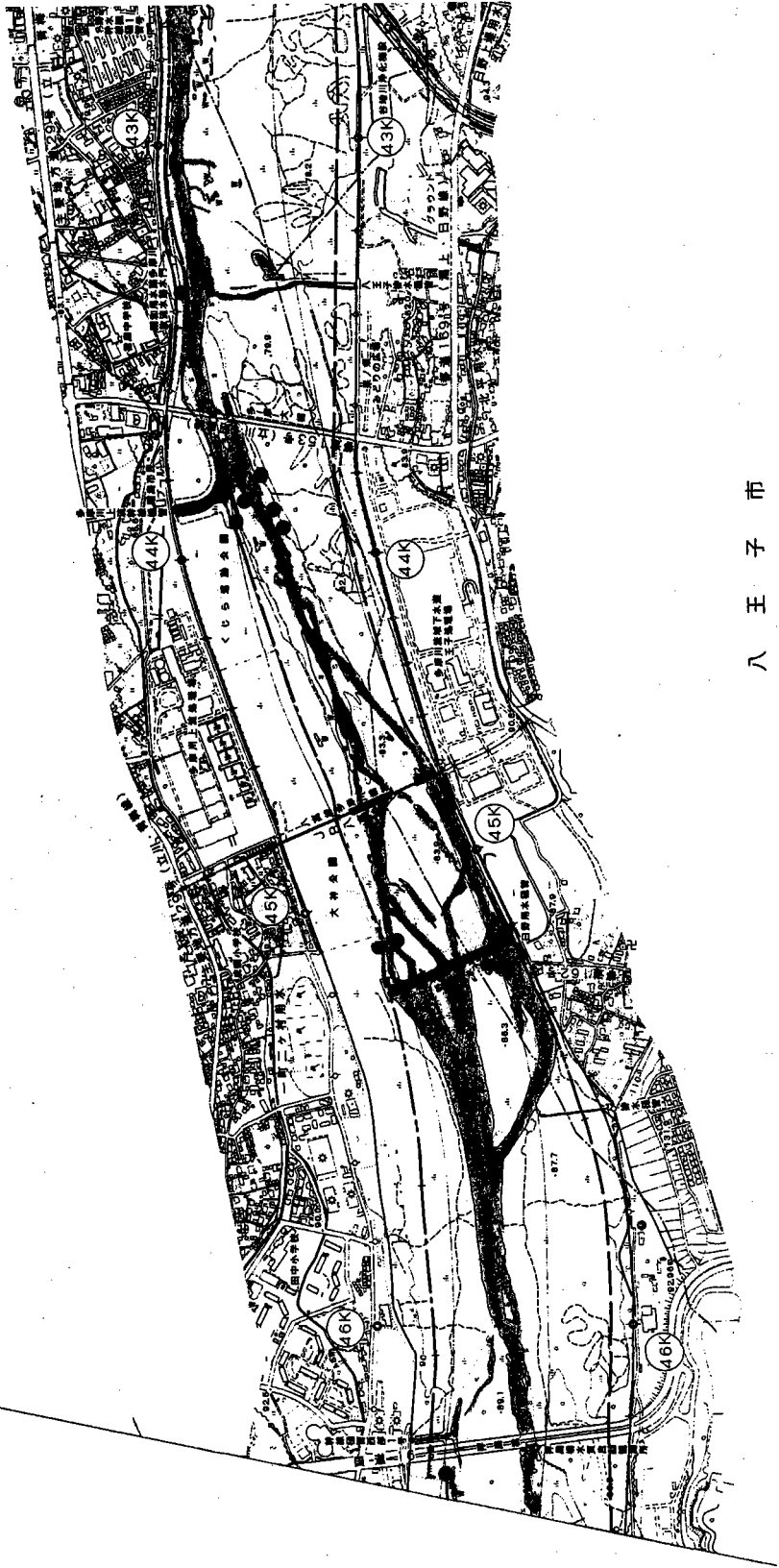
あ さ る 野 市



市 陽 島

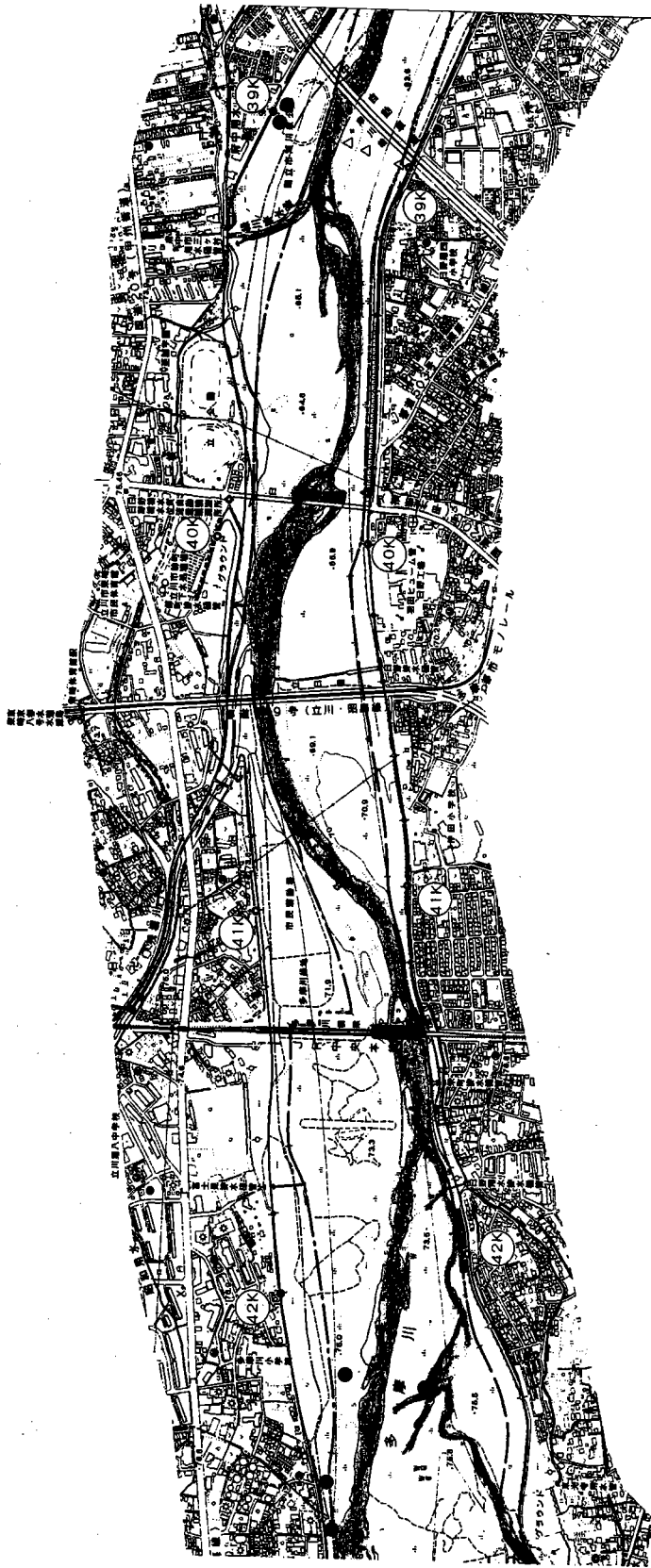
市 子 王 八

昭 島 市



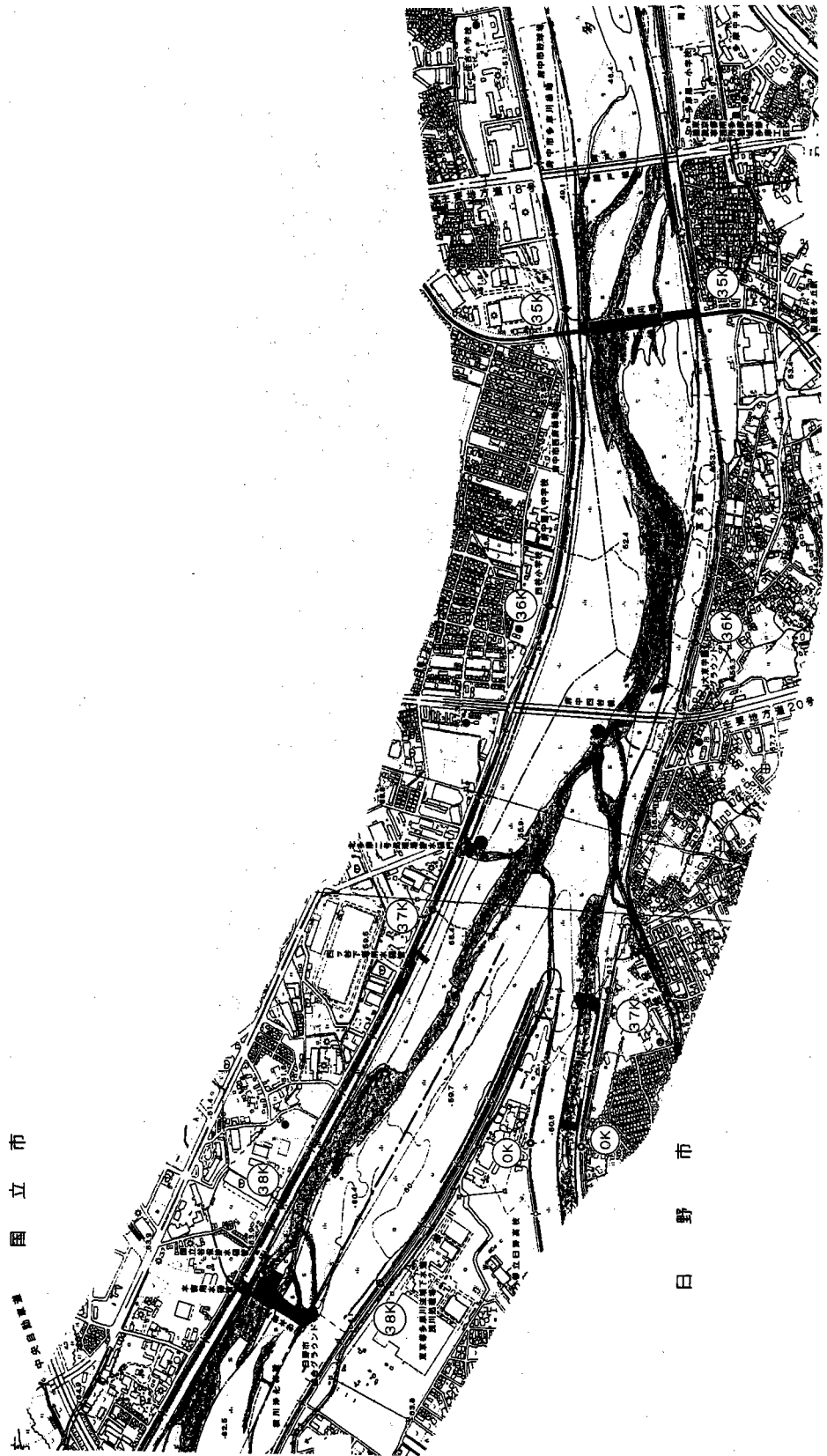
八 王 子 市

立川市



日野市

国立市



日野市

調査結果からわかること

◇第2回ラインセンサス調査

…A区間（羽村堰～関戸橋）・1999年9月9日実施

- ・第1回ラインセンサス調査後、簡単な反省会をし、河川敷で散歩や自然観察をすることも、川が不可欠な「川遊び」に含めようということになった。従って、調査中に遊んでいる子どもたち（同伴者も含む）を見かけたら、すべてカウントすることとした。しかし、二学期に入り、人数は大幅に減った（106人）。
- ・人数が少ないので判断はできないが、第1回調査と比較して、「水に入りバシャバシャ」（21人）と「釣り」（17人）の人数比が近づいた（第1回調査時では「水に入りバシャバシャ」147人：「釣り」79人）。9月に入り、暑さがやわらいだためか。

「多摩川中流部（本流）における子どもの川遊びの実態調査」 アンケート集計報告

調査日時：1999年8月22日 14:00～17:00

区間：関戸橋～羽村取水堰

ポイント数：12

<区間 a (ポイント 9, 10, 12) >

*ポイント 9 (回答 2)

Q.1 どの程度（頻度）きていますか？

- ・毎週
- ・夏休みなど

Q.2 誰と来ることが多いですか？

- ・家族
- ・祖父と

Q.3 何をして川遊びをしますか？

- ・大人はバーベキュー、子どもは水遊び
- ・水晶探し、飛行機飛ばし

Q.4 友だち同志だけで川遊びに行くことに対して、両親や学校は何と言っていますか？（友だち同志だけで川遊びに行くことをどう思いますか？）

- ・大人同伴で、子どもだけは危ないから駄目（2）

Q.5 クラスの他の友だちも川遊びをしていますか？

- ・いない

Q.6 今日はどうしてこの場所に来ましたか？

- ・水晶探しに来た
- ・家が近いのでいつもこの辺で遊んでいる

Q.7 1日の遊び時間はどれ位ですか？

- ・夏休み中は、宿題をやっている時間以外は全部

Q.8 何をして遊びますか？

- ・虫捕り、工作（公園で）

Q.9 家（学校）からここまでの距離は？

- ・家は国立、今は祖父の家から来ている（府中市富士見町／自転車で10分）
- ・すぐ近く

*ポイント 9 のその他の意見

- ・水が少ないので柵の開放を
- ・車も入れたい
- ・遠くからたまに来る人がゴミを捨てる
- ・公園やグラウンドの近くはゴミが多い

*ポイント 10 (回答 3)

Q.1 どの程度（頻度）きていますか？

- ・時々（2）
- ・1ヶ月に2～3回

Q.2 誰と来ることが多いですか？

- ・友達と
- ・家族で（祖父がいつも釣りをしている）
- ・お父さんと

Q.3 何をして川遊びをしますか？

- ・釣り（3）

Q.4 友だち同志だけで川遊びに行くことに対して、両親や学校は何と言って
いますか？（友だち同志だけで川遊びに行くことをどう思いますか？）

- ・まだ小さいのでダメ
- ・行ってはいけない
- ・何も言わない

Q.5 クラスの他の友だちも川遊びをしていますか？

- ・行く、学校に水槽があるので魚を入れる
- ・小学校のすぐ前、幼稚園生は小さいのでまだ行かない

Q.6 今日はどうしてこの場所に来ましたか？

- ・見に来た
- ・釣りにいつも来るが、良いポイントには人が入っていたので
- ・遊びに

Q.7 1日の遊び時間はどれ位ですか？

- ・10時間位
- ・夏休みは1日中

Q.8 何をして遊びますか？

- ・家で（女兒）、ジャングルジム（男児）
- ・ゲーム、野球

Q.9 家（学校）からここまでの距離は？

- ・自転車で20分
- ・国立の3中、7小、自転車で来ている
- ・10分位

*ポイント12（回答4）

Q.1 どの程度（頻度）きていますか？

- ・久しぶりに来た
- ・たまに
- ・1ヶ月に2~3回
- ・週に1回位

Q.2 誰と来ることが多いですか？

- ・両親と
- ・祖父やお母さん
- ・お父さんと（2）

Q.3 何をして川遊びをしますか？

- ・電車を見に
- ・散歩
- ・魚捕り
- ・鳥を観に

Q.4 友だち同志だけで川遊びに行くことに対して、両親や学校は何と言っていますか？（友だち同志だけで川遊びに行くことをどう思いますか？）

- ・ない
- ・まだ子どもが小さいのでそんなことはない

Q.5 クラスの他の友だちも川遊びをしていますか？

- ・していない
- ・小さいからやらない

Q.6 今日はどうしてこの場所に来ましたか？

- ・いつも来ているので
- ・ここは初めて、珍しい鳥がいると言うので来た、いつもは1km位上流に行く

Q.7 1日の遊び時間はどれ位ですか？

- ・ほとんど1日中
- ・3時間

Q.8 何をして遊びますか？

- ・ゲーム
- ・トランプ、パソコン
- ・水遊び、散歩

Q.9 家（学校）からここまでの距離は？

- ・車で15分
- ・歩いて5分
- ・1.5km

*区間aの感想

- ・川に来ているのは、大人の方が圧倒的に多い
- ・サイクリングは子どもも多かったが、多くは大人と一緒に
- ・アンケートは就学前の子どもが多かったので、保護者が回答した場面が多かった
- ・4:35に雨が降り出した

<区間b（ポイント7）>

*ポイント7（回答8）

Q.1 どの程度（頻度）きていますか？

- ・夏は週に3回、普通は月に1~2度
- ・夏に月1~2度、普段は来ない
- ・年に2~3回
- ・年に4~5回（2）
- ・年に1~2回
- ・年に3~4回
- ・初めて来た

Q.2 誰と来ることが多いですか？

- ・家族（3）
- ・友人
- ・中学校で同級の部活メンバー
- ・同級生

Q.3 何をして川遊びをしますか？

- ・話し、涼み
- ・アウトドアクッキング、釣り (3)
- ・泳ぎ (2)
- ・ランチ (2)
- ・バーベキュー (3)
- ・水遊び (4)

Q.4 友だち同志だけで川遊びに行くことに対して、両親や学校は何と言っていますか？ (友だち同志だけで川遊びに行くことをどう思いますか？)

- ・行かせない (2)
- ・危険なので親と一緒にないと駄目
- ・心配だ
- ・危険だ (2)
- ・親は知らない、OKだ、気をつけるように、川はこわいと言われる
- ・台風の後などは危険と言われる

Q.5 クラスの他の友だちも川遊びをしていますか？

- ・家が近くの友達も川遊びをしている
- ・している (4)
- ・釣りに行っている
- ・たまにしている
- ・親と行っている

Q.6 今日はどうしてこの場所に来ましたか？

- ・八高線に乗ってこの場所が気になっていたの、一度来てみたかった
- ・泳ぐのに安全な場所だから
- ・野球に来て、その後に寄った
- ・地元で、親に遊んでもらって良く知っている
- ・人が少ない、安全な場所、電車が見える (八高線)
- ・川遊びに良いので
- ・近くて、すいている
- ・雑談をしに来た

Q.7 1日の遊び時間はどれ位ですか？

- ・土日のみ 2~3 時間
- ・2~5 時間
- ・小学生は 4 時間、中学生は部活でほとんど遊べない
- ・1~2 時間 (2)
- ・2 時間
- ・1 時間
- ・5~6 時間

Q.8 何をして遊びますか？

- ・模型電車
- ・ファミコン
- ・公園で遊ぶ (2)
- ・水遊び
- ・ドッチボール

- ・小学生はサッカー、中学生はバスケットボール、テレビゲーム
- ・ゲームセンター、デート、トーク
- ・ほとんど遊ばない

Q.9 家（学校）からここまでの距離は？

- ・バイクでそれぞれ5分、15分、45分
- ・自転車で1時間（8～10kmくらい）
- ・車で時間（東村山から）
- ・車で30分
- ・車で40分
- ・車で20～30分
- ・車で5分
- ・車で10分（昭島）

***ポイント7の感想**

- ・日野用水堰の直上下流は、子どもの川遊びに適した場所が少なく、むしろ少し下流の八高線鉄橋前後が遊び場として適しているようで、人も多い。
- ・15時くらいから帰り支度を始める人が多かったので、この日に調査するなら1～2時間前にした方が良かった。
- ・大人だけのグループもカウントした方が、全体像が掴みやすいと思う
- ・アンケートの質問項目の見直しも必要だ
- ・四季を通じて川遊びの形態や人数の変化が大きいだろう
- ・幼児から友達の状況を聞き出しにくい、親が答えることが多かった
- ・アンケート調査と同時に、サンプル数、行動パターンの調査を行うことになっているが、時間配分の見直しが必要だ
- ・今回は雷雨のため調査が中断したが、調査の目的、理解、解釈、方法の統一のためにもマニュアルを作成した方が良い

<区間c（ポイント4, 6）>

***ポイント4（回答6）**

Q.1 どの程度（頻度）きていますか？

- ・夏は月に4回、年間15回
- ・月3回、年に10回以上
- ・月に2回位（2）
- ・年に2回位
- ・月1回

Q.2 誰と来ることが多いですか？

- ・親または友達…（3）、会社の人とバーベキュー
- ・家族（3）
- ・友人
- ・お母さんと
- ・親

Q.3 何をして川遊びをしますか？

- ・水遊び（5）、釣り（2）
- ・バーベキュー（2）
- ・虫捕り（2）

Q.4 友だち同志だけで川遊びに行くことに対して、両親や学校は何と言っていますか？（友だち同志だけで川遊びに行くことをどう思いますか？）

- ・小さいから悪い
- ・特にない
- ・友達と家族で来ている

Q.5 クラスの他の友だちも川遊びをしていますか？

- ・している
- ・していない
- ・仲が悪い
- ・わからない

Q.6 今日はどうしてこの場所に来ましたか？

- ・車で国立から
- ・車で
- ・車で青梅から、河原が広いので
- ・実家の側なので
- ・団地から

Q.7 1日の遊び時間はどれ位ですか？

- ・3時間
- ・2時間
- ・半日（4）

Q.8 何をして遊びますか？

- ・バーベキュー（3）、虫捕り、水遊び（4）
- ・釣り

Q.9 家（学校）からここまでの距離は？

- ・自転車で3分
- ・数分（堤防の側）
- ・15分（2）
- ・30分
- ・車で15分

*ポイント6（回答2）

Q.1 どの程度（頻度）きていますか？

- ・夏は週に3回、年間20回
- ・月4回

Q.2 誰と来ることが多いですか？

- ・親（2）、友達、孫

Q.3 何をして川遊びをしますか？

- ・水遊び、釣り

Q.4 友だち同志だけで川遊びに行くことに対して、両親や学校は何と言っていますか？（友だち同志だけで川遊びに行くことをどう思いますか？）

- ・ない

Q.5 クラスの他の友だちも川遊びをしていますか？

- ・あまりない

- Q.6 今日はどうしてこの場所に来ましたか？
- ・右岸の平井川の方から
- Q.7 1日の遊び時間はどれ位ですか？
- ・3時間
 - ・2～3時間
- Q.8 何をして遊びますか？
- ・水遊び、釣り
 - ・川遊び、魚すくい
- Q.9 家（学校）からここまでの距離は？
- ・1km
 - ・車で5分（福生市緑町）

<区間d（ポイント5, 8, 11）>

*ポイント5（回答3）

- Q.1 どの程度（頻度）きていますか？
- ・夏休み中はほとんど毎日
 - ・月に2～3回（2）
- Q.2 誰と来ることが多いですか？
- ・友人（2）、仲間
 - ・子ども（親子）
- Q.3 何をして川遊びをしますか？
- ・ルアー釣り（2）
 - ・釣り、水遊び
- Q.4 友だち同志だけで川遊びに行くことに対して、両親や学校は何と言っていますか？（友だち同志だけで川遊びに行くことをどう思いますか？）
- ・危ないから駄目（小学校低学年）
 - ・学校ではいけないと言っているし、親も駄目だと言う
- Q.5 クラスの他の友だちも川遊びをしていますか？
- ・少ない
 - ・かなり多い
 - ・近所の方は奥多摩の方へ行くことが多い
- Q.6 今日はどうしてこの場所に来ましたか？
- ・割と近くて、ブラックバスが良く釣れる
 - ・家から近い（2）、釣りができる
- Q.7 1日の遊び時間はどれ位ですか？
- ・午前中は仕事、夕方子どもと遊ぶ
 - ・5時間
 - ・8時間
- Q.8 何をして遊びますか？
- ・水遊び
 - ・釣り（2）
- Q.9 家（学校）からここまでの距離は？
- ・歩いて2～3分
 - ・歩いて20分

- ・自転車で5～15分

*ポイント8 (回答1)

- Q.1 どの程度(頻度)きていますか?
・1週間に1回
- Q.2 誰と来ることが多いですか?
・友達同志で
- Q.3 何をして川遊びをしますか?
・ルアー釣り
- Q.4 友だち同志だけで川遊びに行くことに対して、両親や学校は何と言っていますか?(友だち同志だけで川遊びに行くことをどう思いますか?)
・何も言わない(親はこの場所を知っている)
- Q.5 クラスの他の友だちも川遊びをしていますか?
・割と多いと思う
- Q.6 今日はどうしてこの場所に来ましたか?
・いい場所を見つけたから
- Q.7 1日の遊び時間はどれ位ですか?
・6時間
- Q.8 何をして遊びますか?
・釣り、サッカー
- Q.9 家(学校)からここまでの距離は?
・自転車で30分位(立川市一番町)

*ポイント11 (回答1)

- Q.1 どの程度(頻度)きていますか?
・1年に1回(孫が来た時)
- Q.2 誰と来ることが多いですか?
・家族で
- Q.3 何をして川遊びをしますか?
・川を渡る、釣り、散歩
- Q.4 友だち同志だけで川遊びに行くことに対して、両親や学校は何と言っていますか?(友だち同志だけで川遊びに行くことをどう思いますか?)
・水が多い時は危険だ、小学校の高学年になったら良い
- Q.5 クラスの他の友だちも川遊びをしていますか?
・泳いでいる子もいる
- Q.6 今日はどうしてこの場所に来ましたか?
・木陰がある、テトラポッドなども足場が良い
- Q.7 1日の遊び時間はどれ位ですか?
・2～3時間
- Q.8 何をして遊びますか?
・石探し、散策、川渡り
- Q.9 家(学校)からここまでの距離は?
・歩いて5分

*ポイント11のその他の意見

- ・桜なども植えて欲しい
- ・今年是小魚なども増えた
- ・草を刈って欲しい
- ・昨年などは悪い水が流れた時があった

<区間e (ポイント1, 2, 3) >

*ポイント1 (回答5)

Q.1 どの程度(頻度)きていますか?

- ・今年5回目くらい
- ・月に3回くらい
- ・月に2回くらい
- ・夏は毎週
- ・今年初めて

Q.2 誰と来ることが多いですか?

- ・家族(2)
- ・友達
- ・親(2)

Q.3 何をして川遊びをしますか?

- ・魚捕まえ(2)、水かけっこ(3)
- ・釣り(3)
- ・水に入る
- ・泳ぐ

Q.4 友だち同志だけで川遊びに行くことに対して、両親や学校は何と言っていますか?(友だち同志だけで川遊びに行くことをどう思いますか?)

- ・学校は禁止している(2)、親は別に何も言わない(2)
- ・危ないと思うが、特に制限はしていない
- ・危なくて行かせられない
- ・危ないから駄目

Q.5 クラスの他の友だちも川遊びをしていますか?

- ・あまりいない
- ・している(4)
- ・かなり多い
- ・友達で遊ぶ

Q.6 今日はどうしてこの場所に来ましたか?

- ・町内会(5)

Q.7 1日の遊び時間はどれ位ですか?

- ・5時間(2)
- ・5~6時間(2)
- ・4時間

Q.8 何をして遊びますか?

- ・テレビゲーム(2)、サッカー(2)
- ・野球(2)
- ・ブロック遊び、自転車、公園

- ・本を読む、買い物

Q.9 家（学校）からここまでの距離は？

- ・10分
- ・15分（3）
- ・自転車で10分

*ポイント2（回答6）

Q.1 どの程度（頻度）きていますか？

- ・今年初めて、あまり来ない
- ・今年4回目
- ・今年2回目（2）
- ・今年3回目
- ・この夏2回目

Q.2 誰と来ることが多いですか？

- ・家族（5）
- ・いとこ

Q.3 何をして川遊びをしますか？

- ・釣り、水に入りバシャバシャ
- ・水遊び（3）
- ・水かけっこ
- ・魚捕り、水浴び、泳ぐ

Q.4 友だち同志だけで川遊びに行くことに対して、両親や学校は何と言っていますか？（友だち同志だけで川遊びに行くことをどう思いますか？）

- ・まだ小さいので考えられない、危ない
- ・親としては怖い（2）
- ・危なくて行かせられない、学校は禁止している（3）
- ・危なくて行かせられない（2）
- ・親は危ないと言う

Q.5 クラスの他の友だちも川遊びをしていますか？

- ・している（5）

Q.6 今日はどうしてこの場所に来ましたか？

- ・毎年恒例だから
- ・以前にここに来たことがあったので、ぶらっと
- ・誘われたので
- ・自由研究で多摩川について調べようと思って、羽村堰の写真を撮りに来た
- ・釣りをするため

Q.7 1日の遊び時間はどれ位ですか？

- ・5時間
- ・3時間
- ・4時間
- ・1日中
- ・4～5時間
- ・1～2時間

Q.8 何をして遊びますか？

- ・外で、自転車
- ・水遊び（プール）、公園（2）
- ・人形遊び
- ・家でゲーム（2）
- ・野球（2）
- ・サッカー

Q.9 家（学校）からここまでの距離は？

- ・30～40分
- ・世田谷から車で
- ・30分
- ・2時間（2）
- ・10分

*ポイント3（回答5）

Q.1 どの程度（頻度）きていますか？

- ・月に1回くらい、夏だけ
- ・今年3回目くらい（2）
- ・今年4回目
- ・夏は毎週

Q.2 誰と来ることが多いですか？

- ・家族（2）
- ・友達（3）

Q.3 何をして川遊びをしますか？

- ・泳ぐ（3）、バーベキュー、魚釣り
- ・日焼け
- ・水に飛び込む、魚釣り（3）
- ・水でバシャバシャ

Q.4 友だち同志だけで川遊びに行くことに対して、両親や学校は何と言っていますか？（友だち同志だけで川遊びに行くことをどう思いますか？）

- ・学校は禁止（3）、親はダメ（2）
- ・親は別に何も言わない（2）
- ・危なくて行かせられない

Q.5 クラスの他の友だちも川遊びをしていますか？

- ・している（4）
- ・あまりしていない、近くに川がない

Q.6 今日はどうしてこの場所に来ましたか？

- ・父親が釣りを教えてくれるので
- ・暑いから、近いから（2）
- ・いつも来ているから
- ・以前に車で通りがかりに見た

Q.7 1日の遊び時間はどれ位ですか？

- ・1日中（3）
- ・3～4時間

- ・4時間

Q.8 何をして遊びますか？

- ・野球 (3)、サッカー (2)
- ・買い物、カラオケ、ゲーム (3)、たまに外へ行く
- ・泳ぐ
- ・外でドッチボール、鬼ごっこ

Q.9 家 (学校) からここまでの距離は？

- ・2時間
- ・10~15分 (2)
- ・10分
- ・20分

A区間(羽村堰～関戸橋)の定点観察地点

*具体的な場所はラインセンス調査地図(7~11ページ)の①~⑫を参照



①羽村取水堰上流右岸の沼沢地



②羽村取水堰下流



③羽村の床固工



④多摩川中央公園の「せせらぎ」



⑤睦橋下右岸の沼沢群



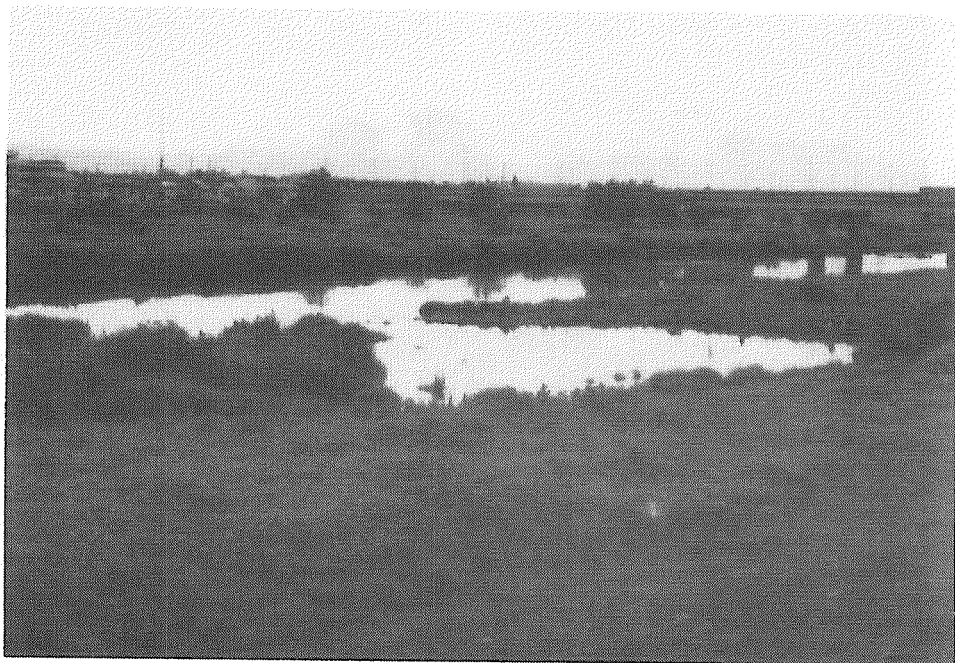
⑥昭和用水堰下流



⑦日野用水堰下流



⑧谷地川合流点上流右岸の旧河道と思われる「ワンド」



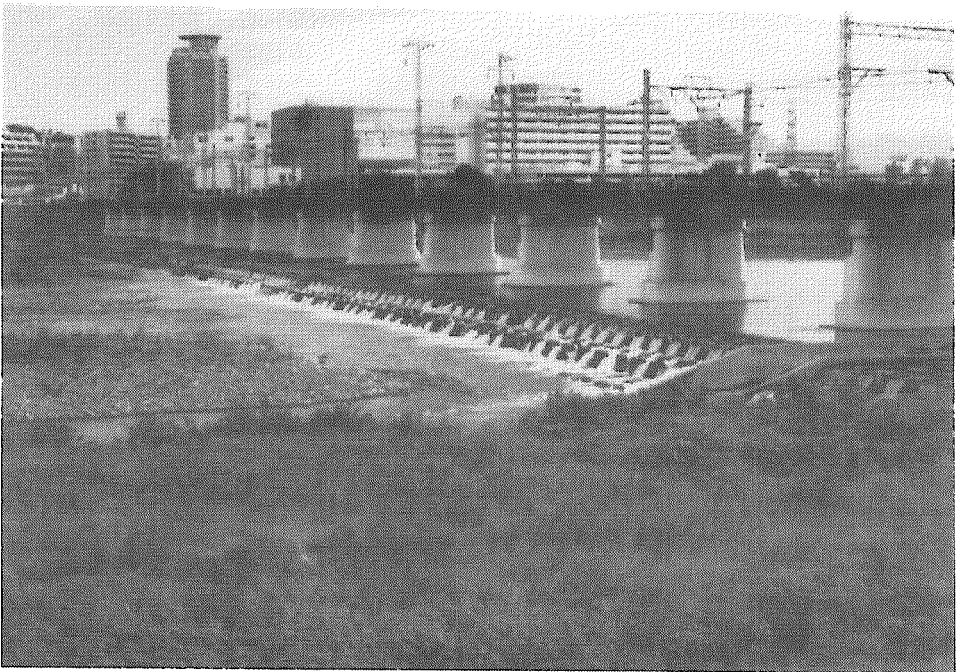
⑨中央高速下流左岸の「ワンド」



⑩四谷本宿用水堰下流

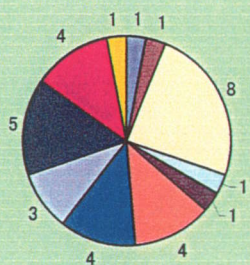


⑪程久保川の再蛇行区間



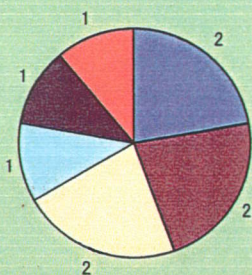
⑫京王線の護床工

Q.1-1 川遊びの頻度(夏季を除く)
単位:人



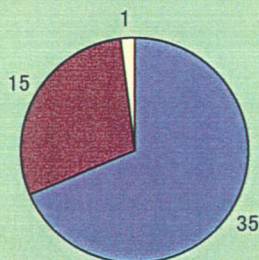
- 週に1回
- 月に1回
- 月に2~3回(1~2回含む)
- 月に4回以上(3~4回含む)
- 年に1回
- 年に2~3回(1~2回含む)
- 年に4~5回(3~4回含む)
- 年に6回以上
- 普段はしない
- 時々
- 毎週

Q.1-2 川遊びの頻度(夏季に限定)
単位:人



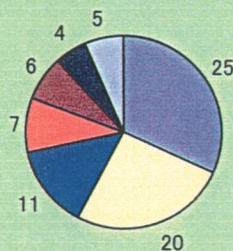
- 夏は毎週
- 夏だけしかしない
- 夏は週に3回
- 夏は月に1~2回
- 夏は月に4回
- この夏2回目

Q.2 川遊びに誰と行くか
単位:人



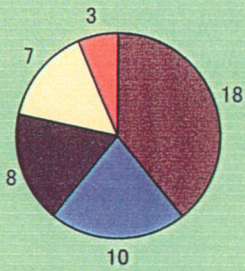
- 家族で
- 友人と
- その他

Q.3 何をして川遊びをするか
単位:人



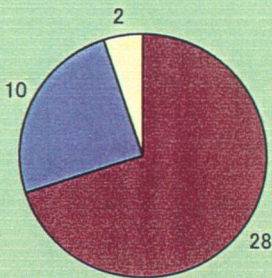
- 水遊び
- 魚釣り
- バーベキュー・野外料理
- 泳ぐ
- 生き物捕り
- 散歩
- その他

Q.4 子どもだけで川遊びに行っても良いか
単位:人



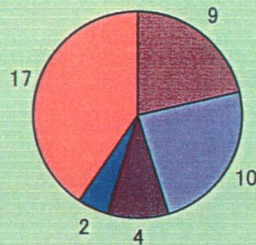
- (親から)子どもだけは駄目
- 親は危険だと言う(禁止しているかは不明)
- 学校は禁止している
- 親は何も言わない
- その他

Q.5 他の子どもも川遊びをしているか
単位:人



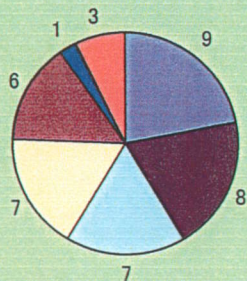
- している
- していない
- その他

Q.6 この場所に来た理由
単位:人



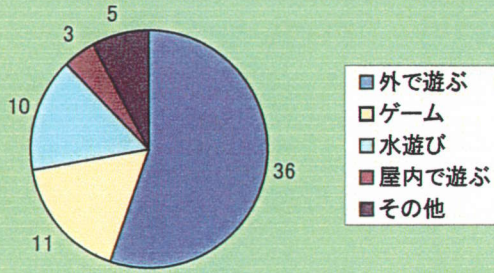
- 近いから
- 川遊びをしに
- いつも来ているので
- 安全だから
- その他

Q.7 一日の遊び時間
単位:人

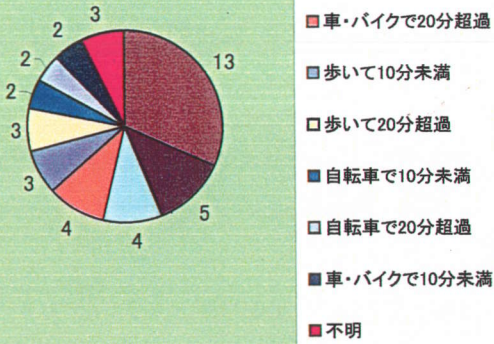


- 3~4時間(2~3時間含む)
- 5~6時間(4~5時間含む)
- 7時間以上
- 一日中
- 1~2時間
- ほとんど遊ばない
- その他

Q.8 普段何をして遊ぶか
単位:人



Q.9 家からの距離
単位:人



調査結果からわかること

◇ヒアリング（アンケート）調査

…1999年8月22日実施・A区間（羽村堰～関戸橋）の下記地点において

- ① 羽村取水堰上流右岸の沼沢地
- ② 羽村取水堰下流
- ③ 羽村の床固工
- ④ 多摩川中央公園の「せせらぎ」
- ⑤ 睦橋下右岸の沼沢群
- ⑥ 昭利用水堰下流
- ⑦ 日野用水堰下流
- ⑧ 谷地川合流点上流右岸の旧河道と思われる「ワンド」
- ⑨ 中央高速下流左岸の「ワンド」
- ⑩ 四谷本宿用水堰下流
- ⑪ 程久保川の再蛇行区間
- ⑫ 京王線の護床工

Q1. 川遊びの頻度

- ・週に3回以上来ている人の割合は3割強。
- ・夏休みだから川遊びをするという回答も多かった。

Q2. 川遊びに誰と行くか

- ・「家族で」が35人と多数派であったが、「友人と」も15人いた。これが、2000年度下流部で調査したときには「家族で」37人：「友人と」5人となった。上流部の方が子どもたちだけで川遊びをしている例が本当に多いのか。もしそうなら、それはどうしてなのか。

Q3. 何をして川遊びをするか

- ・「水遊び」、「釣り」という答えが多かったが、「バーベキュー」も川遊びと考えている人は多いだろう。というのは、ヒアリング調査の対象は、水に入って遊んでいる人が多かったからで、回答は調査の対象者によって変わってくるだろう。

Q4. 子どもだけで川遊びに行っても良いか

- ・親の立場から見ると、否定的な答えがほとんどであった。「子ども」の年齢がまちまちだったので、補足的に「～才（年生）くらいになれば…」という設問が欲しかった。また、実際に「学校は禁止している」と答えた子どもが8人いたことも忘れてはならない。

Q5. 他の子も川遊びをしているか

- ・子どもたちだけで遊んでいるかどうかは別として、「している」が28人と、「していない」10人を大きく上回った。これが下流部の調査では「している」16人:「していない」17人と逆転している。

Q6. この場所に来た理由

- ・いろいろな答え方ができるので、質問のしかたを工夫する必要があったが、この場所（多摩川）が身近だからと考えている人は多いようだった。

Q7. 一日の遊び時間

- ・回答は1~2時間から一日中と様々。夏休み中ということを考慮する必要があった
普通学校があるときの遊び時間も知りたい。ところで、「ほとんど遊ばない」と答えた子が1人いたのがとても気になる。

Q8. 普段何をして遊ぶか

- ・川遊びをしている子どもたちに質問したからだと思うが、外で遊ぶと答えた子が多かった。子どもたち全体ではどうなのだろうか。学校のクラスなどで質問してみたらどういう結果が出るだろうか、興味深い。

Q9. 家からの距離

- ・歩いて10~20分という答えが目立った。10分未満という答えよりかなり多かったが、これは単なる偶然だろうか、サンプル数が少ないので判断できない。

多摩川中流部（本流）における子どもの川遊びと水辺行動についての実態調査

B 区間（下流側／関戸橋～丸子橋）の調査結果

1. 第1回ラインセンサス調査（2000年8月12日）
2. 第2回ラインセンサス調査（2000年9月9日）
3. ヒアリング（アンケート）調査（2000年8月27日）

(ラインセンサス調査の実施方法について)

2000年8月7日

各位様

この度は「多摩川中流部（本流）における子どもの川遊びと水辺行動についての実態調査」－「第1回・ラインセンサス調査」をお手伝い下さり、誠にありがとうございます。

8月12日（土）の予定や注意事項について説明します。

調査方法について

- ・ ラインセンサス調査地図に川遊びをしている子ども及び親子連れのグループの番号を○数字で書き込みます（①というように記録；例を参照／グループとは一緒に来ていると思われる1集団で、1人の場合も複数人の場合も考えられます）。
- ・ ラインセンサス調査表には、そのグループの人数と川遊びの方法を書き込みます（例を参照）。
- ・ 川まで遠かったり、藪等で人が見えにくい範囲がありますが、無理をせず可能な範囲で記録して下さい（双眼鏡を使ったり、見やすい橋の上から記録する等工夫して下さい）。
- ・ 原則として「川遊び」は水遊びや魚捕り等の水が不可欠な遊びとしますが、散策やジョギング、寝転び等も間接的に川が必要な場合も考えられるので、子ども及び親子連れのグループはすべてカウントして下さい。
- ・ 当日は大変暑いと思います。帽子や水分を持参する等、体調管理には各自充分ご注意下さい。
- ・ 当日、小雨なら決行（台風等の荒天時は延期）しますが、実施が微妙と思われる場合は上田までご連絡下さい。
- ・ 調査用紙（ラインセンサス調査地図&ラインセンサス調査表）とクリップボードは、同封の封筒でご返送下さい。

調査区間について

今回の「第1回・ラインセンサス調査」は関戸橋～丸子橋間を5人で担当します。分担する区間は次のようになります。ご希望の区間にならなかった方もいらっしゃると思いますが、ご容赦いただきたくお願い申し上げます。尚、各区間の詳細については別紙をご覧ください。

1. 関戸橋～是政橋間左岸（約3,5km）
2. 是政橋～多摩川原橋間左岸（約4,5km）
3. 多摩川原橋～多摩水道橋間左岸（約5km）
4. 多摩水道橋～二子橋間左岸（約5,5km）
5. 二子橋～丸子橋間左岸（約5km）

調査の時間について

調査は14:00～17:00の間に行ってください（2時間ほどかかると思います）。

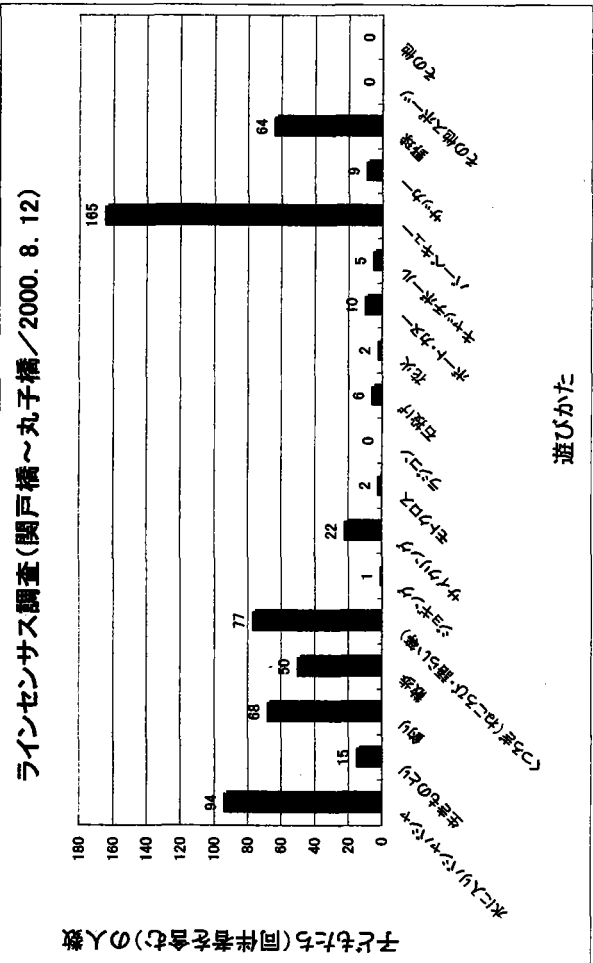
ラインセンサス調査表

調査区間() 調査日(2000年 月 日) 調査時間() ~ ()
 調査者() 備考()
 天候(快晴・晴れ/曇り・曇り・悪天候) 気温(°C)

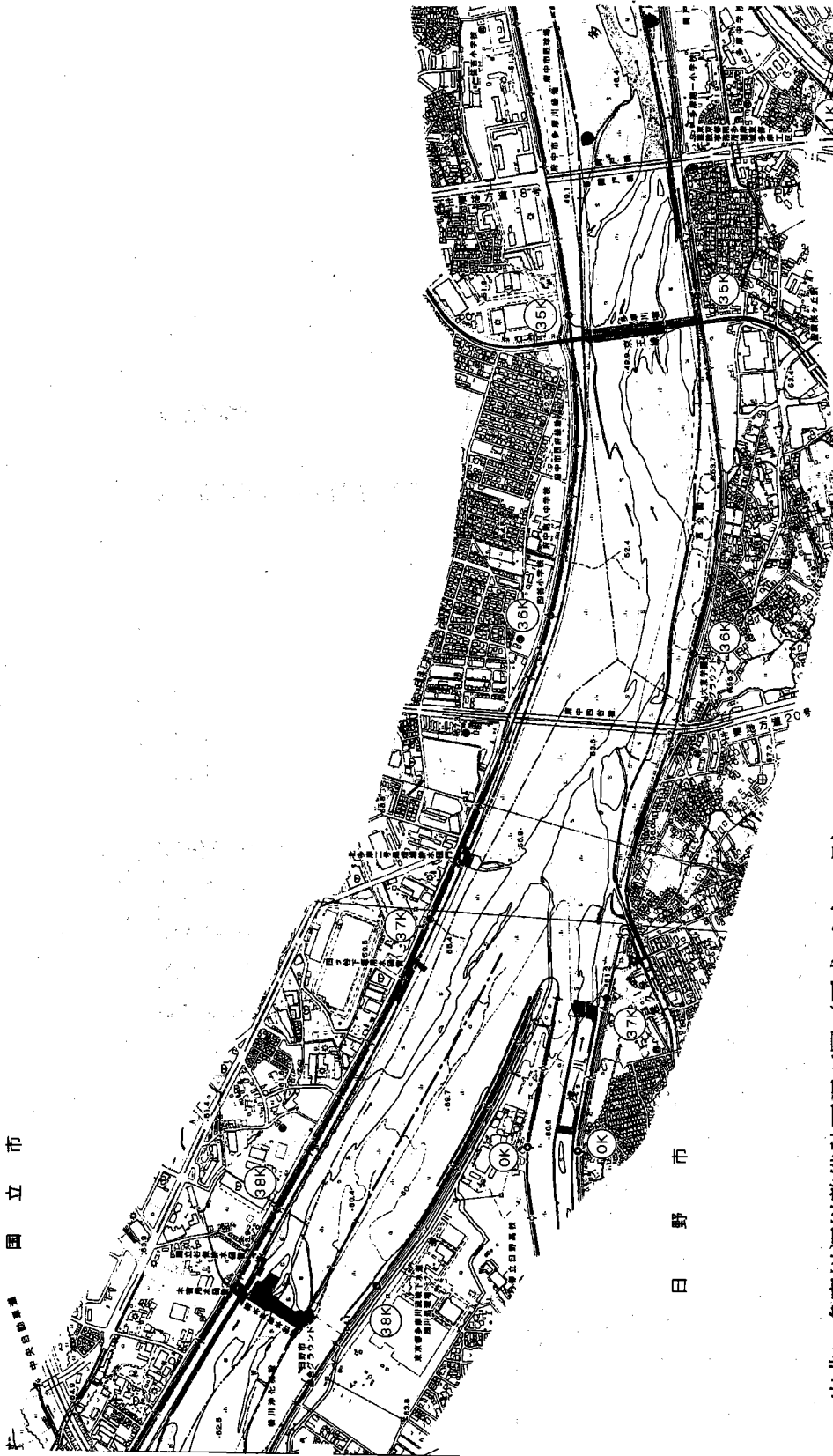
No.	同伴者(若:18~39歳位 中:40~59歳位 壮:60歳位~)												川遊びの内容		その他の内容
	時間	幼男(人数)	幼女(人数)	小男(人数)	小女(人数)	中高男(人数)	中高女(人数)	若男(人数)	若女(人数)	中男(人数)	中女(人数)	壮男(人数)	壮女(人数)	水に入り(人数)	
1401	14:01	幼男	幼女	小男 2	小女	中高男 1	中高女	若男 1	若女	中男 1	中女	壮男	壮女	水に入り(1)	生き物捕り(釣り・その他)
①		幼男	幼女	小男	小女	中高男	中高女	若男	若女	中男	中女	壮男	壮女	水に入り(1)	生き物捕り(釣り・その他)
②		幼男	幼女	小男	小女	中高男	中高女	若男	若女	中男	中女	壮男	壮女	水に入り(1)	生き物捕り(釣り・その他)
③		幼男	幼女	小男	小女	中高男	中高女	若男	若女	中男	中女	壮男	壮女	水に入り(1)	生き物捕り(釣り・その他)
④		幼男	幼女	小男	小女	中高男	中高女	若男	若女	中男	中女	壮男	壮女	水に入り(1)	生き物捕り(釣り・その他)
⑤		幼男	幼女	小男	小女	中高男	中高女	若男	若女	中男	中女	壮男	壮女	水に入り(1)	生き物捕り(釣り・その他)
⑥		幼男	幼女	小男	小女	中高男	中高女	若男	若女	中男	中女	壮男	壮女	水に入り(1)	生き物捕り(釣り・その他)
⑦		幼男	幼女	小男	小女	中高男	中高女	若男	若女	中男	中女	壮男	壮女	水に入り(1)	生き物捕り(釣り・その他)
⑧		幼男	幼女	小男	小女	中高男	中高女	若男	若女	中男	中女	壮男	壮女	水に入り(1)	生き物捕り(釣り・その他)
⑨		幼男	幼女	小男	小女	中高男	中高女	若男	若女	中男	中女	壮男	壮女	水に入り(1)	生き物捕り(釣り・その他)
⑩		幼男	幼女	小男	小女	中高男	中高女	若男	若女	中男	中女	壮男	壮女	水に入り(1)	生き物捕り(釣り・その他)
⑪		幼男	幼女	小男	小女	中高男	中高女	若男	若女	中男	中女	壮男	壮女	水に入り(1)	生き物捕り(釣り・その他)
⑫		幼男	幼女	小男	小女	中高男	中高女	若男	若女	中男	中女	壮男	壮女	水に入り(1)	生き物捕り(釣り・その他)
⑬		幼男	幼女	小男	小女	中高男	中高女	若男	若女	中男	中女	壮男	壮女	水に入り(1)	生き物捕り(釣り・その他)
⑭		幼男	幼女	小男	小女	中高男	中高女	若男	若女	中男	中女	壮男	壮女	水に入り(1)	生き物捕り(釣り・その他)
⑮		幼男	幼女	小男	小女	中高男	中高女	若男	若女	中男	中女	壮男	壮女	水に入り(1)	生き物捕り(釣り・その他)
⑯		幼男	幼女	小男	小女	中高男	中高女	若男	若女	中男	中女	壮男	壮女	水に入り(1)	生き物捕り(釣り・その他)
⑰		幼男	幼女	小男	小女	中高男	中高女	若男	若女	中男	中女	壮男	壮女	水に入り(1)	生き物捕り(釣り・その他)
⑱		幼男	幼女	小男	小女	中高男	中高女	若男	若女	中男	中女	壮男	壮女	水に入り(1)	生き物捕り(釣り・その他)
⑳		幼男	幼女	小男	小女	中高男	中高女	若男	若女	中男	中女	壮男	壮女	水に入り(1)	生き物捕り(釣り・その他)

第1回ライセンセンサス調査(関戸橋～丸子橋)

調査地点／遊びかた		2000年8月12日(土)実施 単位:人																	
合計 (590)		水に入りバ シャバシャ	生きもの のとり	釣り	散歩	くつろぎ(ねこ び、庭など)	ジョギ ング	サイク リング	モトク ロス	ラジコ	石投げ	花火	ボート カヌー	キャッチ ボール	パーベ キュー	サッカー	野球	その他ス ポーツ	その他
関戸橋～皇政橋	94	15	13	68	50	77	1	22	2	2	6	2	10	5	165	9	64	0	0
皇政橋～多摩川原橋	18			11	9									3	28				
多摩川原橋～多摩水運橋	42			17		10									28				
多摩水運橋～二子橋	4	2	2	7	5	3		2			6		3		34				
二子橋～丸子橋	25	19	19	19	17	37	1	3					2		34				
《年齢別の割合》	5	14	17	14	17	25	15	15				2	5	2	40	9	64		
幼男	9	2	7	13	8	8		5			3		3		8		2		
幼女	6	1	7	3	3	3		2			1				18				
小男	15	3	14	5	3	3		6			1		2		9	8	60		
小女	7	2	5	1	7	7		1							5				
中高男	4	7	2	2	25	1	3	1							8				
中高女	1			3	8										3				
若男	23	2	11	6	9	8		2			1		2	1	50	1			
若女	18	6	6	10	8	8					1				34				
中男	6	4	8	3	5	5		2	1		1		2	2	15		2		
中女	5	3	2	2	1	1		1					1		15				
壮男		1	3	2	1														
壮女			1	1	1														



国立市

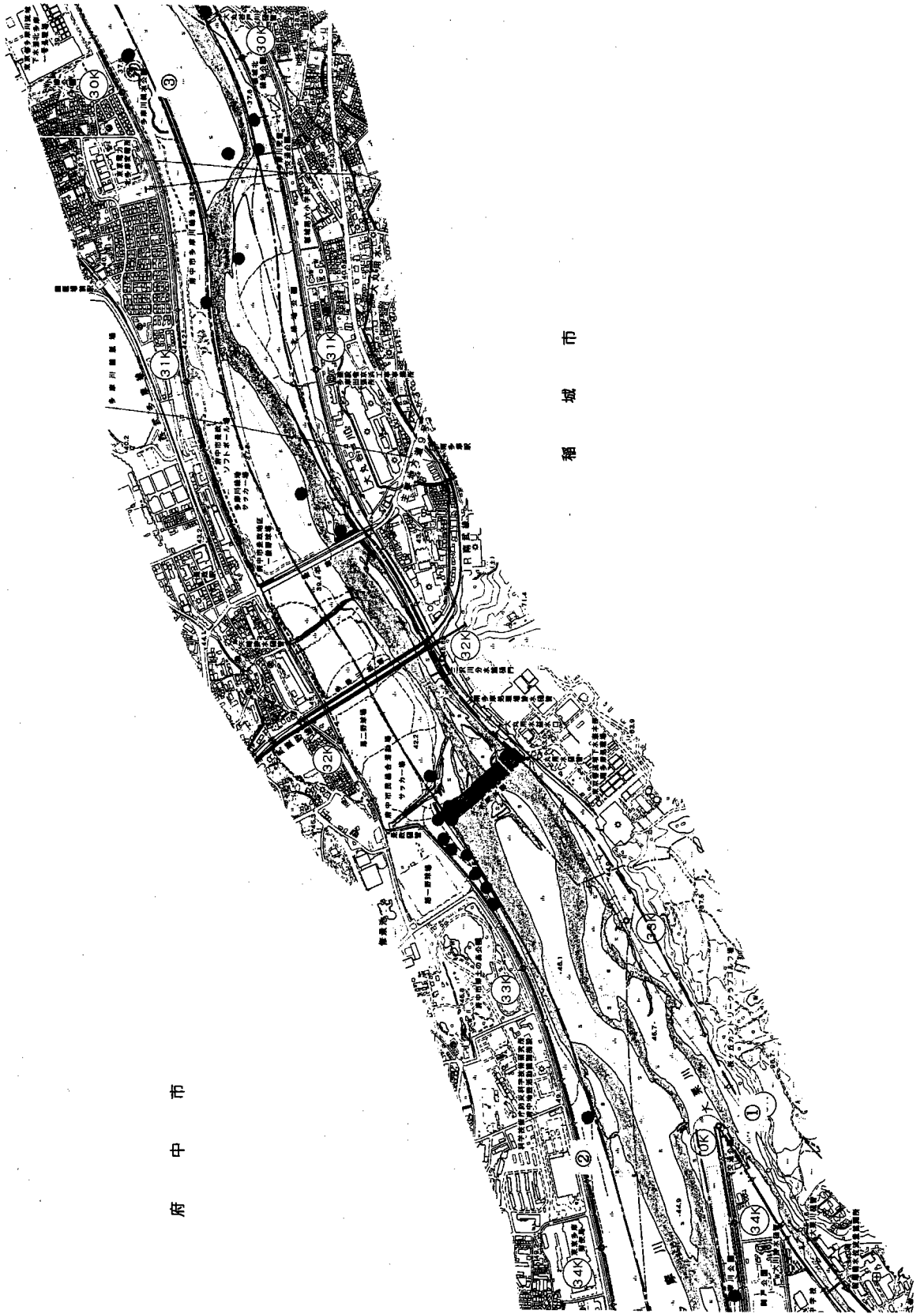


日野市

出典：多摩川河川整備計画平面図（平成13年3月）

／国土交通省関東地方整備局京浜工事事務所 による

地図中のポイント（黒い丸）1つが、川遊びをしていた1グループ（個人も含む）

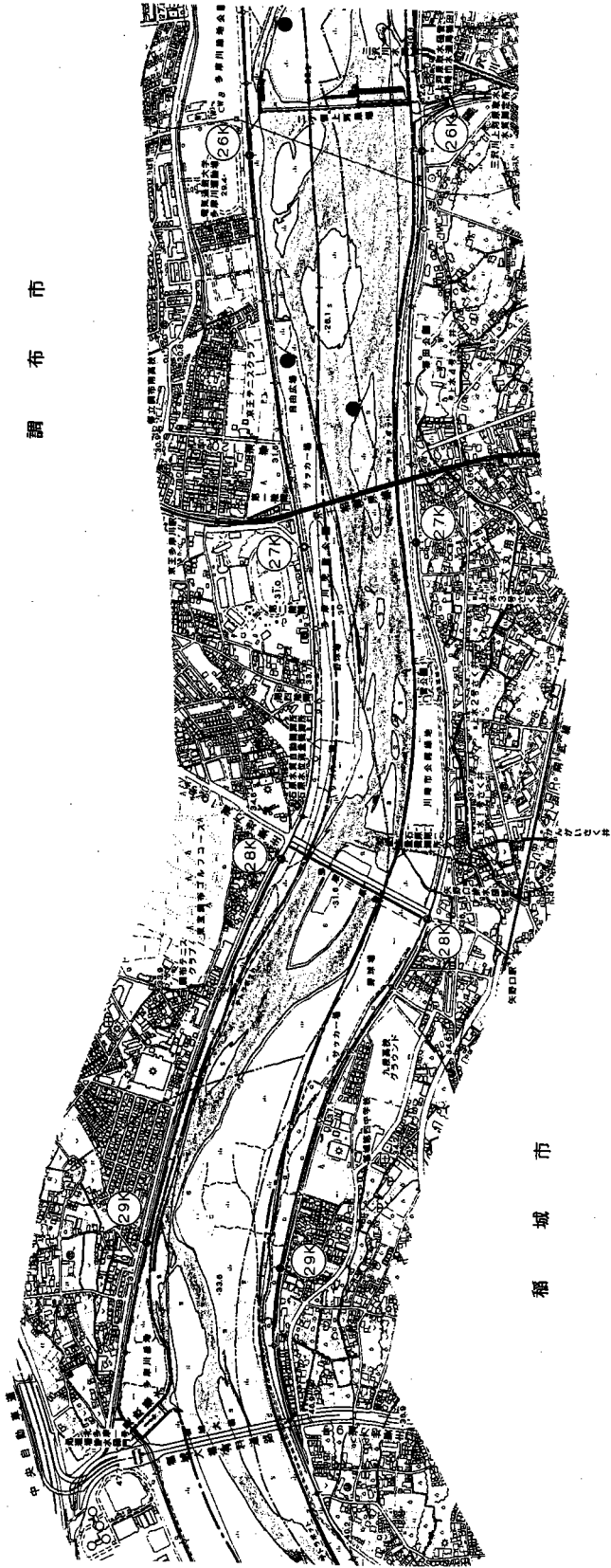


府 中 市

市 城 稻

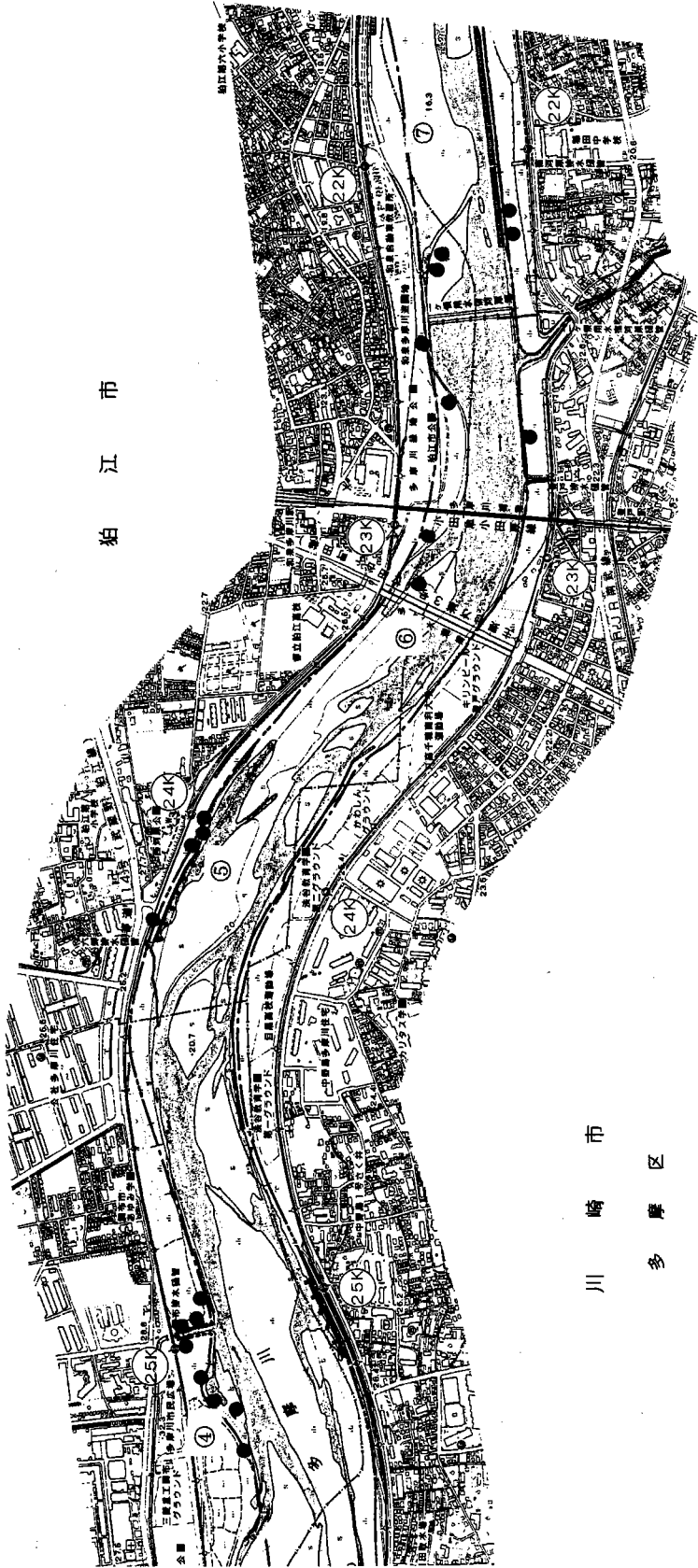
府中市

調布市



稲城市

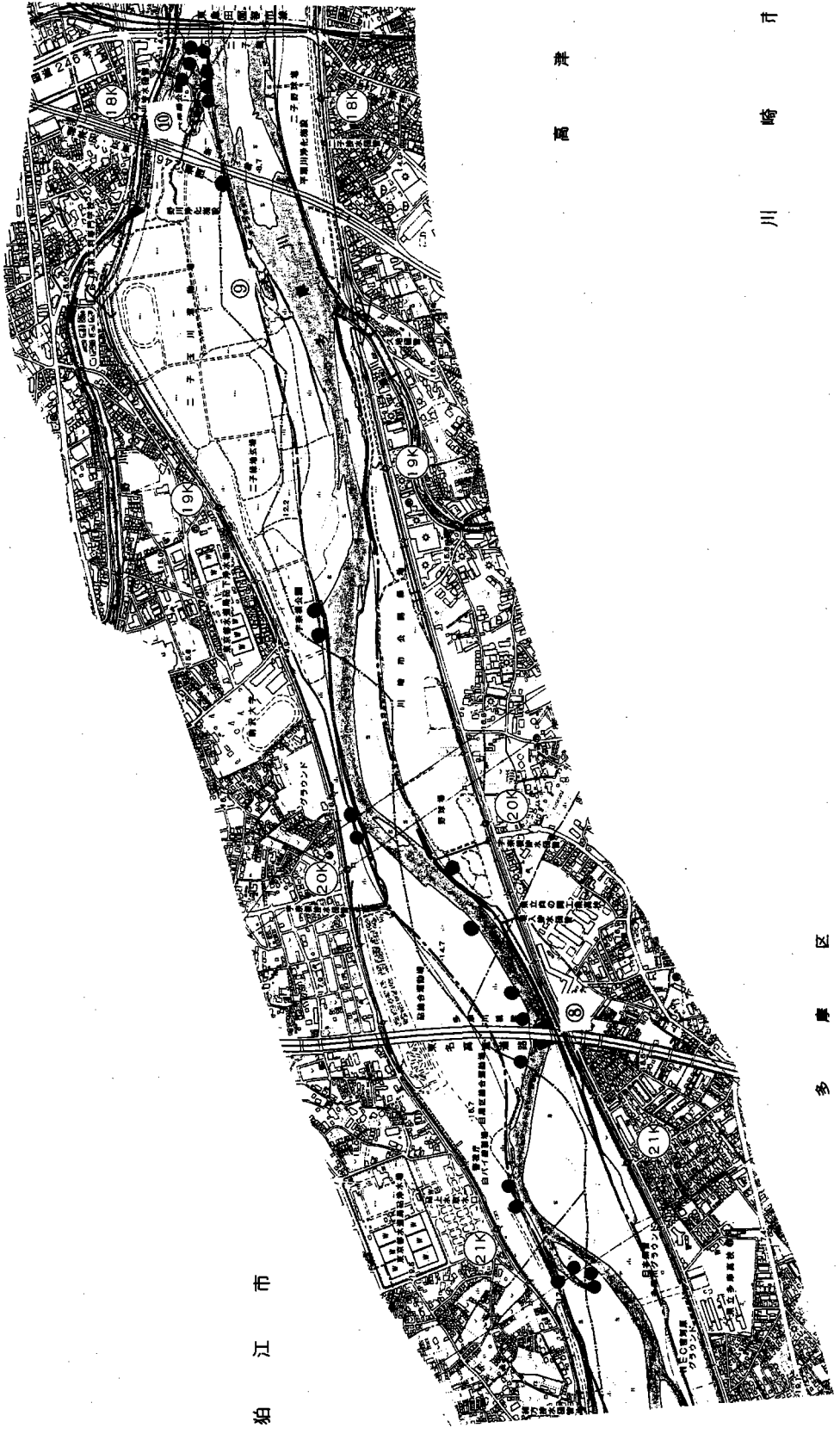
市 江 伯



市 崎 川

区 摩 多

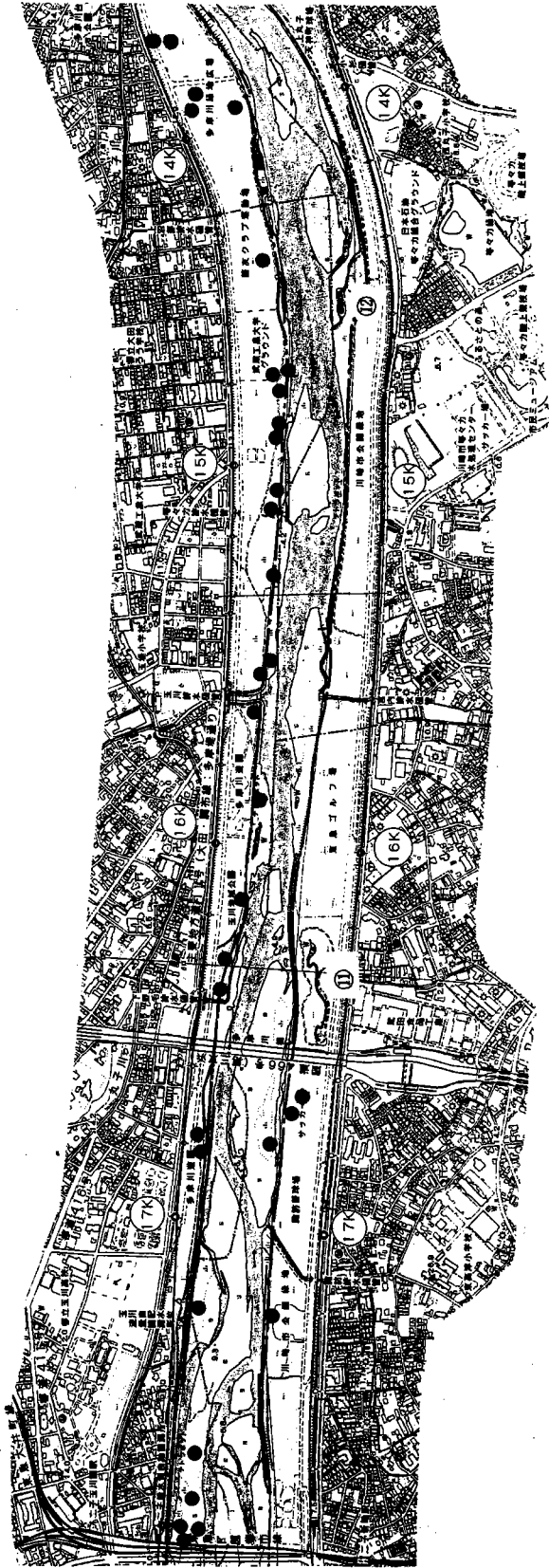
航
運



市
江
川

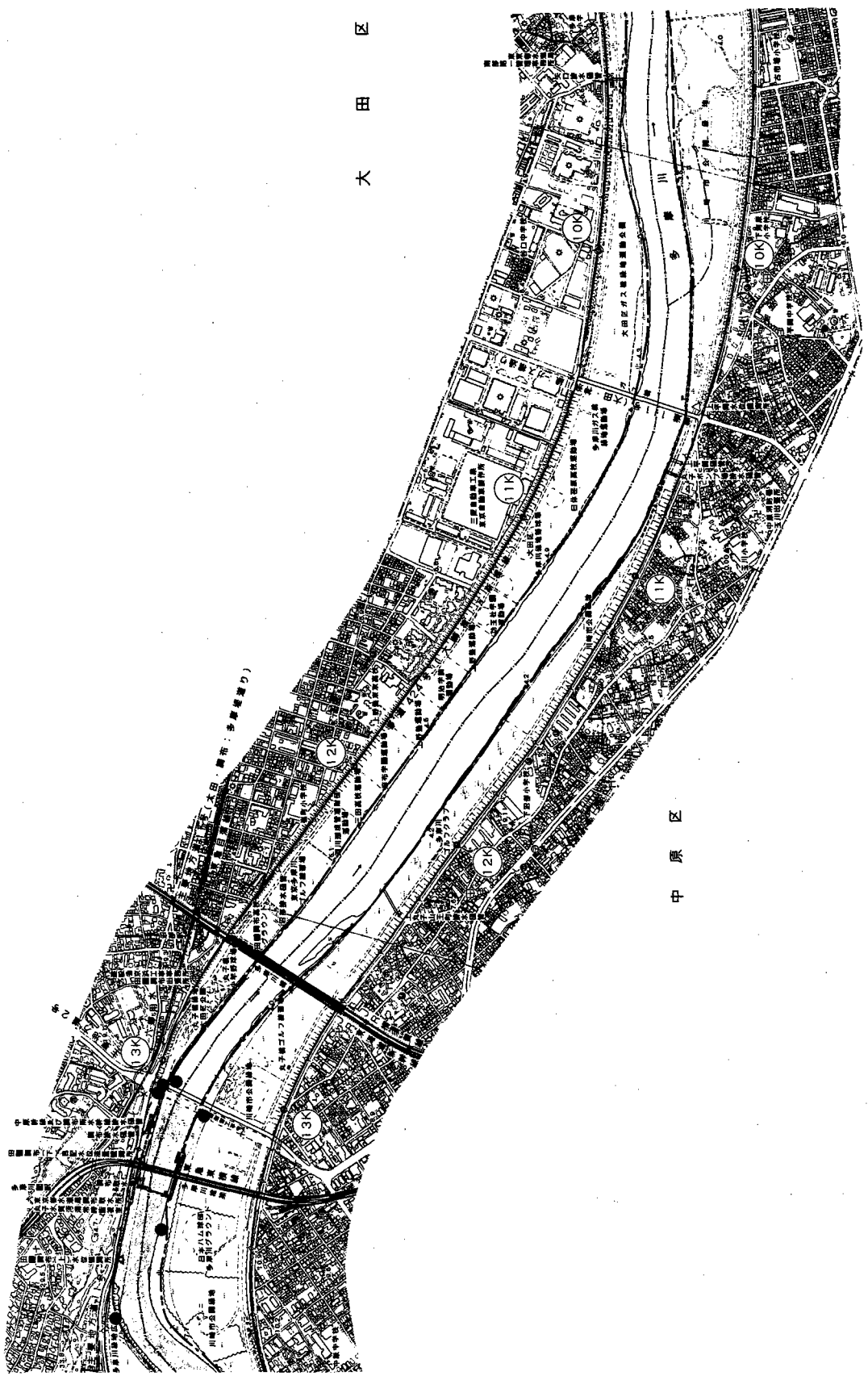
世田谷区

大田区



中原区

大田区



中野区

調査結果からわかること

◇第1回ラインセンサス調査

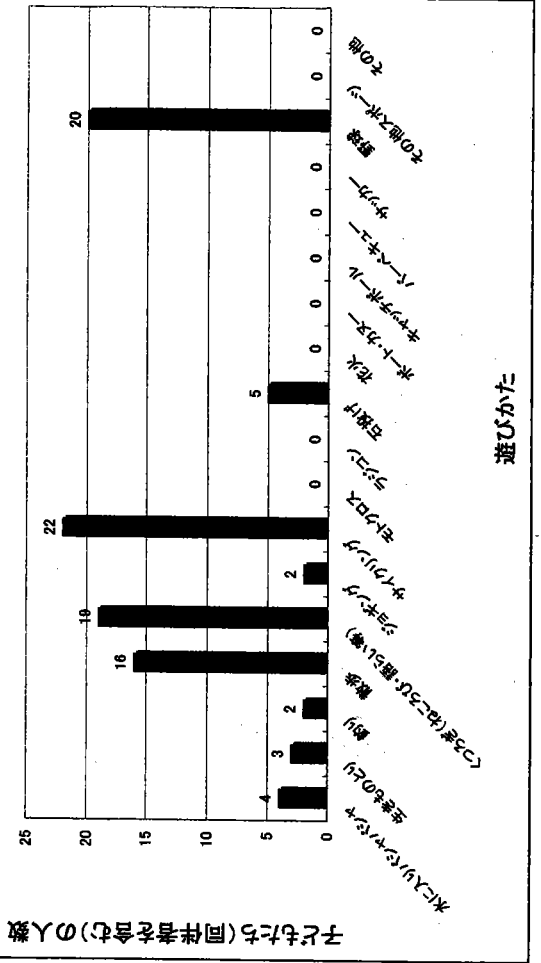
…B区間（関戸橋～丸子橋）・2000年8月12日実施

- ・今年度の調査では、いわゆる「水遊び」のほか、散歩やねころび、サイクリング、バーベキューなども“河川環境があるから”と考え、調査中に遊んでいる子どもたち（同伴者も含む）を見かけたら、すべてカウントすることとした。なお調査地区は今年度もすべて左岸（東京）側である。
- ・「遊びかた」ごとの人数について、それぞれ年齢別の割合も調べた。表の「幼男」～「中高女」までを子どもたちとして数えた。「若男」～「壮女」は、子どもたちの同伴者の人数である。
- ・予想されたことであるが、家族連れで「バーベキュー」をしている人数が最も多かった。昨年調査した上流側の実態はどうだったのか興味深い。
- ・やはり下流に来ると、「水に入りバシャバシャ」している子どもたちは減る。調査地区のうち、「是政橋～多摩川原橋」と「多摩水道橋～二子橋」で他に比べてその人数が多いが、この区間にはそれぞれせせらぎや池が人工的につくられたいわゆる「親水公園」があるので、そこで遊んでいる人も含まれている。
- ・全般を通して「中高女」の人数が少ない。これは多摩川センターで行っている「多摩川ふれあい教室」の観察会などでもつくづく感じることで、小学6年生までは多摩川で遊んでいた子も、中学生になるとほとんど見かけない。これは女子の方がより顕著である。これには生活環境や好みなど多くの要素が関わっており、良い悪いの問題ではないが、次の機会にはぜひそれがどうしてなのかを聞いてみたいと思った。男子の場合は中学高校生になっても「釣り」などをしている子は結構多い。

第2回ラインセンサス調査(関戸橋～丸子橋)

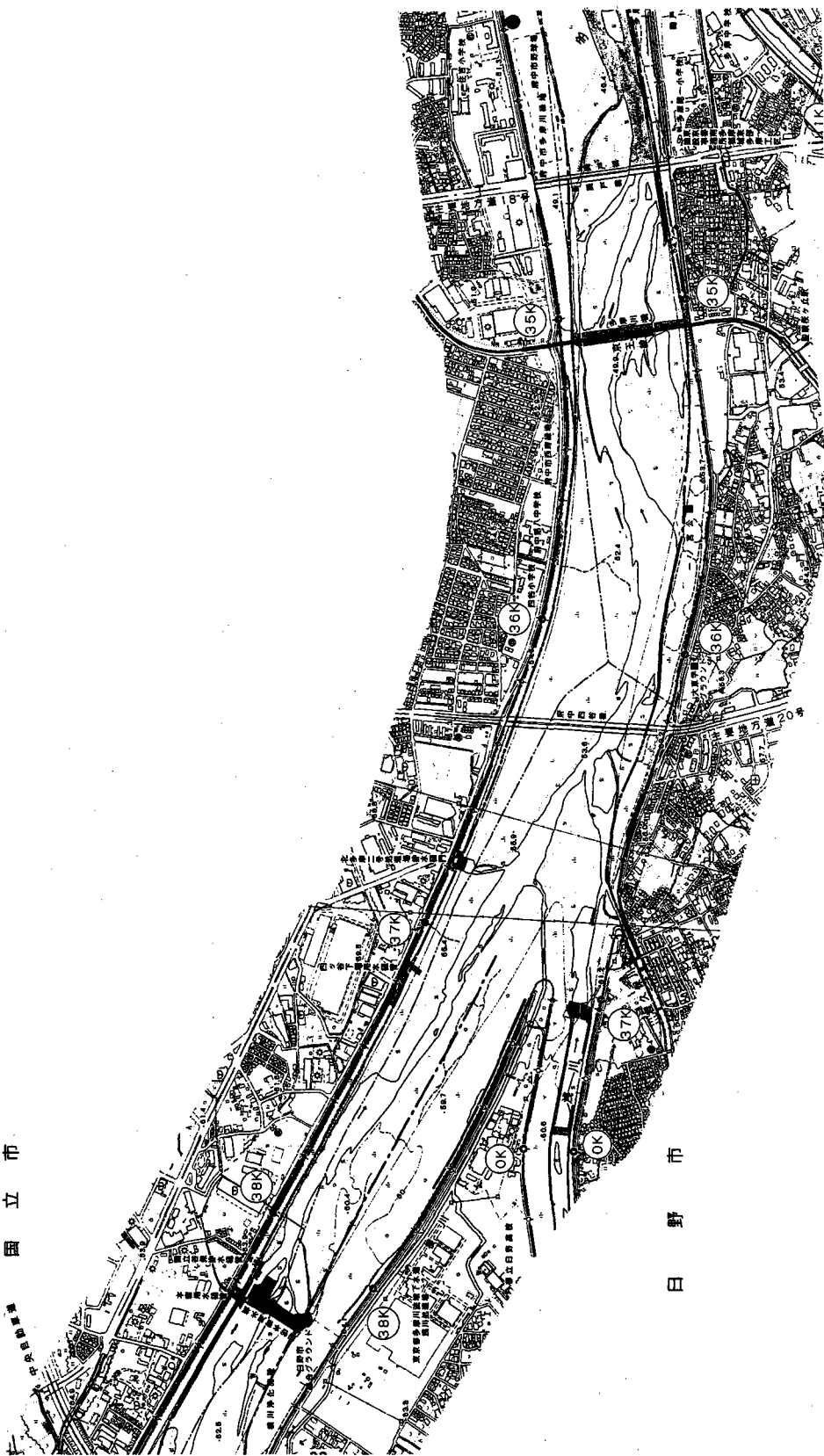
調査地点\遊びかた	2000年9月7日(木)実施														単位:人				
	水に入りバ ンヤ/バンヤ	生きもの のとり	釣り	散歩	くつろぎ(ねこ び・猫い等)	ジョギ ング	サイク リング	モトク ロス	ラジ オン	石投げ	花火	ボート カヌー	キャッチ ボール	パー キュー		サッカー	野球	その他ス ポーツ	その他
合計(93)	4	3	2	16	19	2	22	0	0	5	0	0	0	0	0	20	0	0	
関戸橋～皇政橋				4	2	2	18			5									
皇政橋～多摩川原橋				6															
多摩川原橋～多摩水道橋	4				3		4												
多摩水道橋～二子橋				3	10														
二子橋～丸子橋		3	2	3	4											20			
《年齢別の割合》																			
幼児男		2	1	1	1		2												
幼児女				3	1		3			4									
小男	2						7									20			
小女							1												
中高男				6	15		2												
中高女				1	1		3												
若男				1															
若女		1	1	3															
中男	1						2												
中女	1				1		2												
壮男							1			1									
壮女				1			1												

ラインセンサス調査(関戸橋～丸子橋/2000.9.7)



国立市

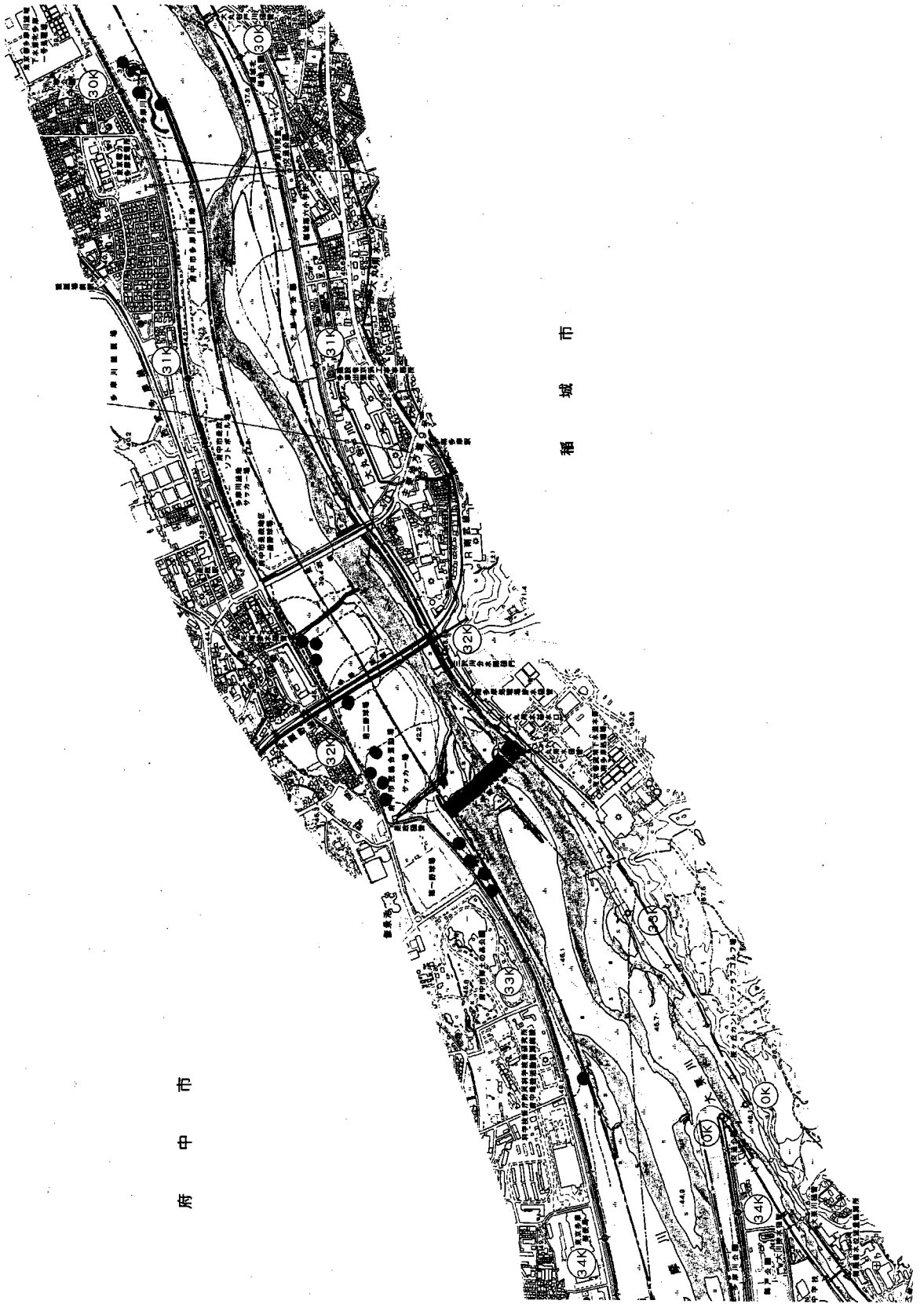
日野市



出典：多摩川河川整備計画平面図（平成13年3月）

／国土交通省関東地方整備局京浜工事事務所 による

地図中のポイント（黒い丸）1つが、川遊びをしていた1グループ（個人も含む）

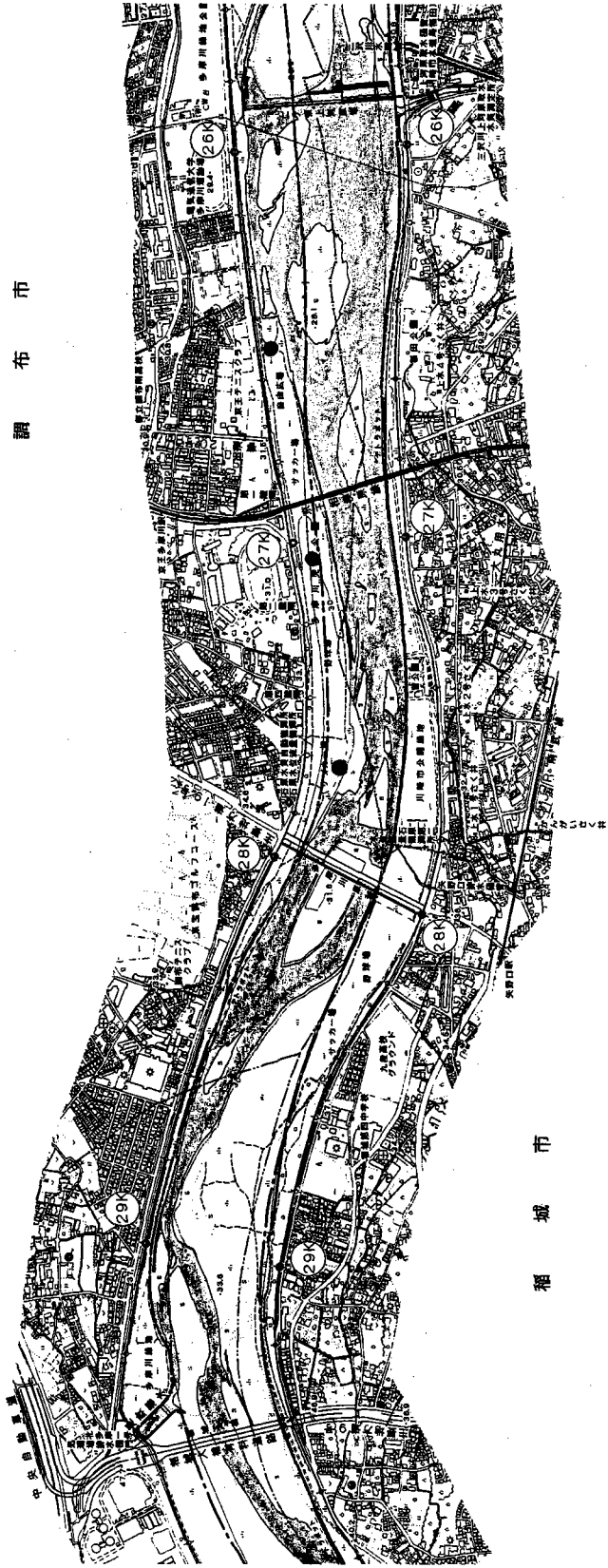


市

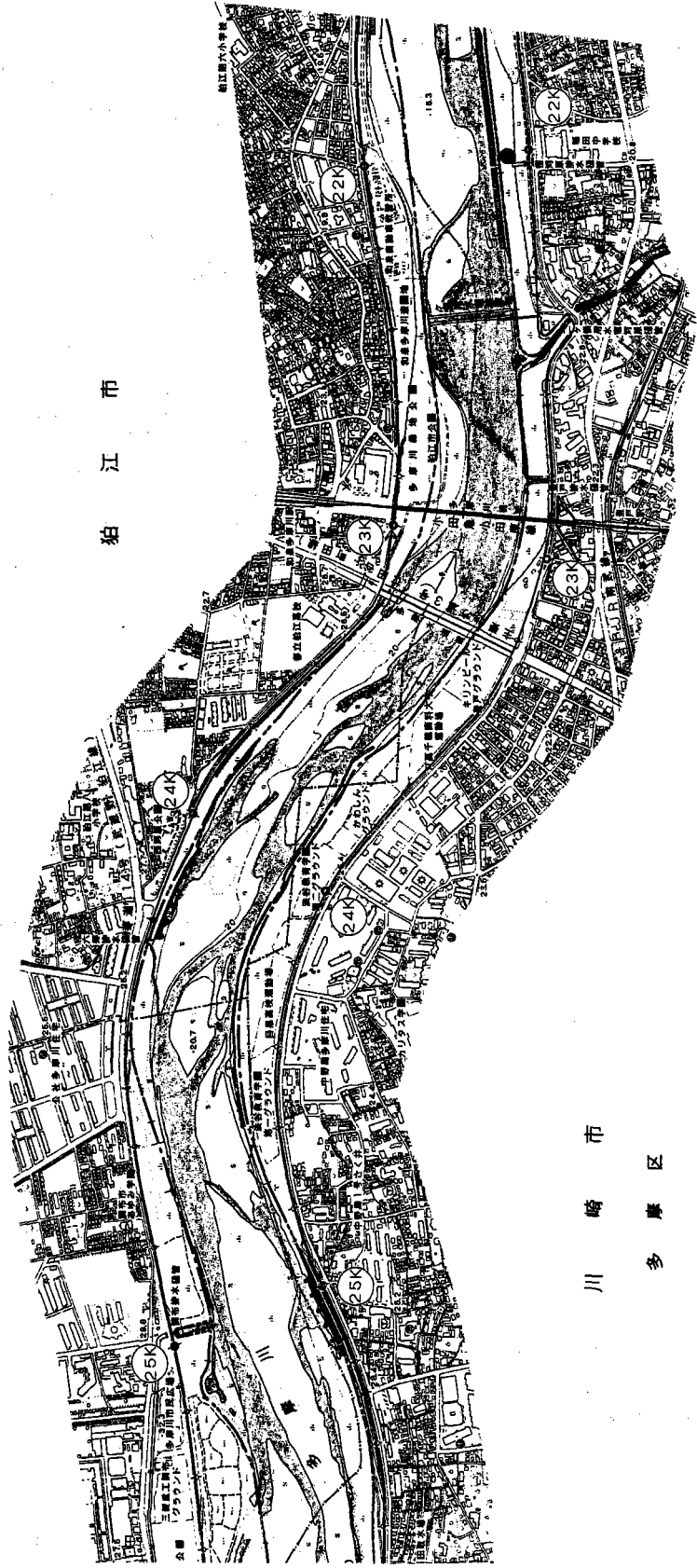
府

府 中 市

調 布 市



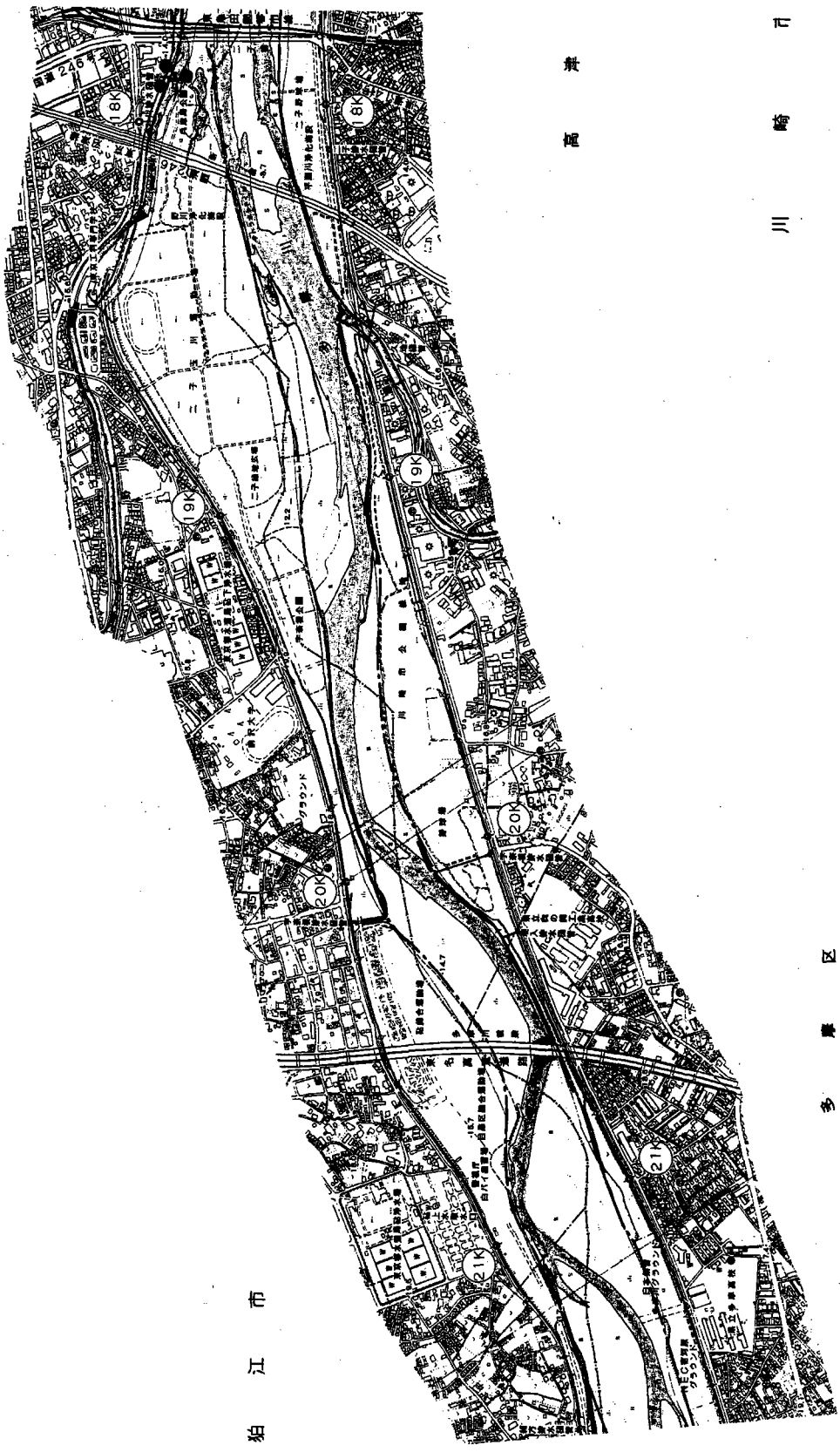
市 城 稲



相模市

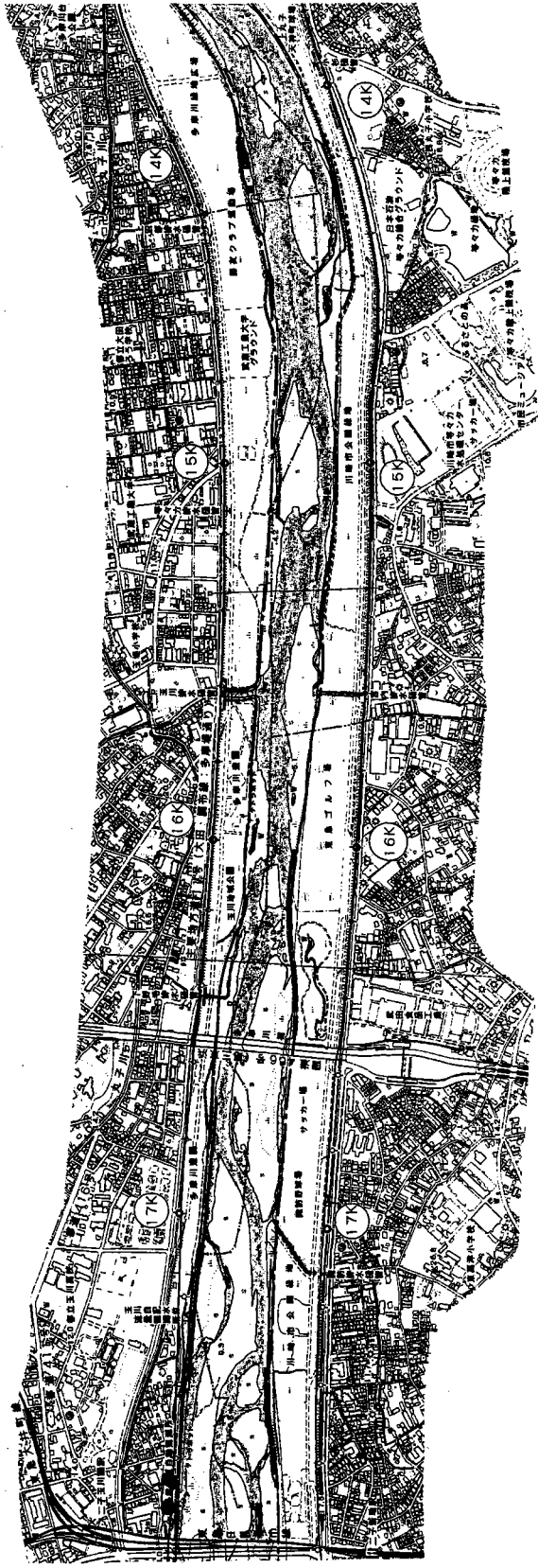
相模郡
相模市

概
圖



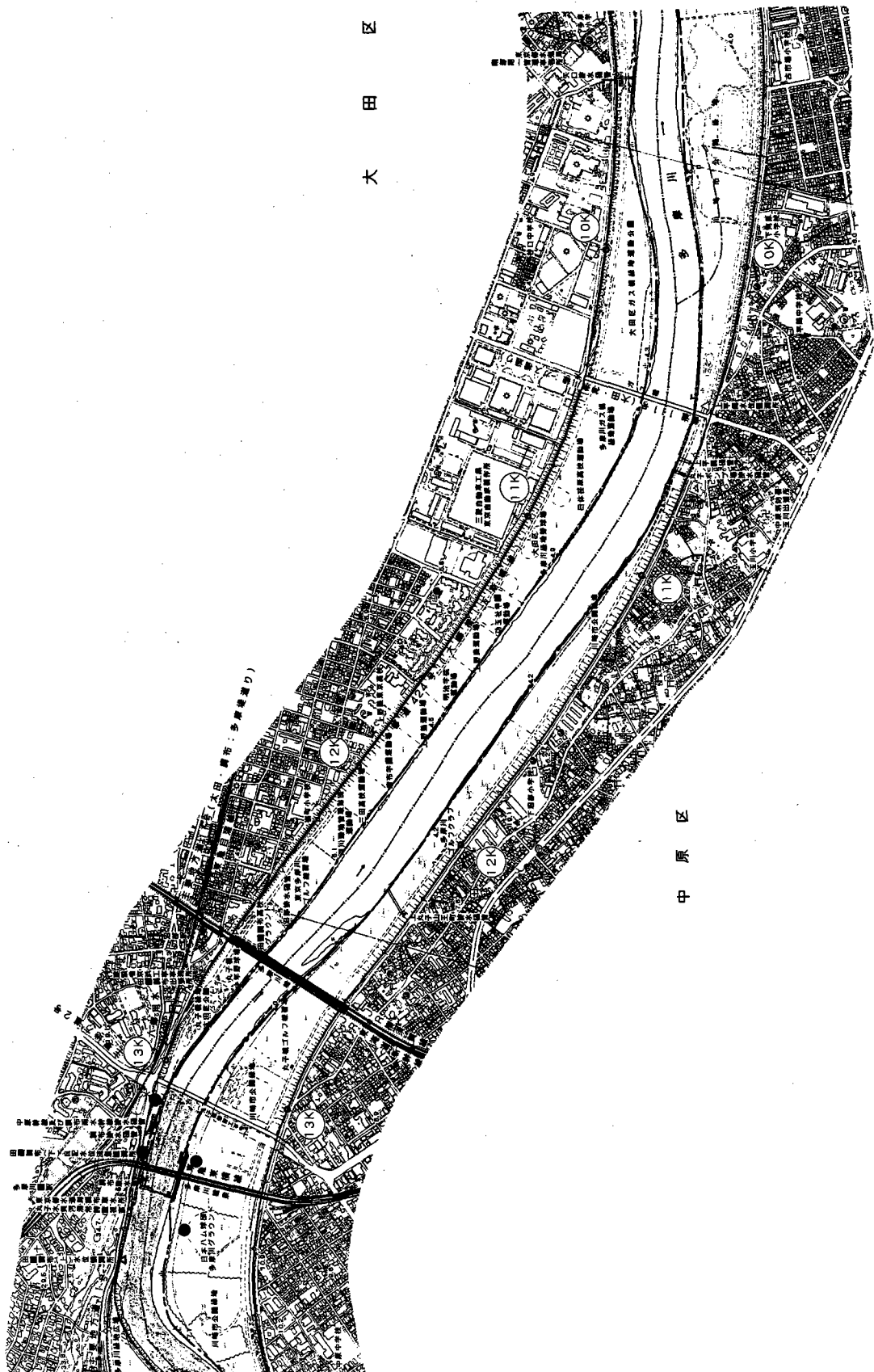
大田区

世田谷区



中原区

大田区



中原区

調査結果からわかること

◇第2回ラインセンサス調査

…B区間（関戸橋～丸子橋）・2000年9月7日実施

- ・二学期に入ったことと、調査時間の直前まで雨が降っていたことがあり、残念ながら人出は少なかった。特に「水に入りバシャバシャ」していたのは、府中市多摩川緑地内の親水公園にいた4名だけだった。
- ・中学、高校の帰りに、河川敷で話しをしている人が多かった。おもしろかったことは前回8月の調査でも気付いたことだが、その人数は女子よりも男子の方がずっと多いことである。これはどうしてなのか、非常に興味深い。

各位様

この度は「多摩川中流部（本流）における子どもの川遊びと水辺行動についての実態調査」－「ヒアリング（アンケート）調査」をお手伝い下さり、誠にありがとうございます。

8月27日（土）の予定や注意事項について説明します。

調査の手順

- ① 担当した各観察地点（次頁参照）において、「観察地点における川遊び調査地図」に川遊びをしている子ども及び親子連れのグループの番号を○数字で書き込みます（①というように記録；例を参照／グループとは一緒に来ていると思われる1集団で、1人の場合も複数人の場合も考えられます）。
- ② 「観察地点における川遊び調査表」には、そのグループの人数と川遊びの方法を書き込みます（例を参照）。
- ③ 担当した各観察地点において、川遊びをしている子ども及び親子連れのグループに対して、「ヒアリング（アンケート）調査用紙」を使い、ヒアリング（アンケート）調査を実施します（各地点にいるグループ数が少ない場合は除きますが、それぞれ3例以上を目標にしてください／用紙は10部お渡しします）。
- ④ ヒアリング（アンケート）調査に協力してくれた子どもには、冊子『多摩川へ行こう』を渡します（10部お渡しします）。

- ・ 原則として「川遊び」は水遊びや魚捕り等の水が不可欠な遊びとしますが、散策やジョギング、寝転び等も間接的に川が必要な場合も考えられるので、子ども及び親子連れのグループはすべて対象にして下さい。
- ・ 各観察地点の範囲は、目安として「観察地点における川遊び調査地図」上に示しましたが、これは厳密なものではありませんので、各自で判断して調査をお願いします。
- ・ 調査対象は子ども及び親子連れのグループに限ります（「観察地点における川遊び調査表」の若男～壮女の欄は同伴者です）。
- ・ ヒアリング（アンケート）調査は、各観察地点に子どもがいなかった場合には、できるだけ付近で川遊びをしている子どもを見つけて、調査を行ってください。

- ・ 当日は大変暑いと思います。帽子や水分を持参する等、体調管理には各自充分ご注意ください。
- ・ 当日、小雨なら決行（台風等の荒天時は延期）しますが、実施が微妙と思われる場合は上田までご連絡下さい。
- ・ 調査用紙（「観察地点における川遊び調査地図」・「観察地点における川遊び調査表」・「ヒアリング（アンケート）調査用紙」）とクリップボードは、同封の封筒でご返送下さい。

担当する観察地点について

今回の「ヒアリング（アンケート）調査」は関戸橋～丸子橋間に12ポイント設定した観察地点を7人で担当します。分担する地点は次のようになります。ご希望通りにならなかった方もいらっしゃると思いますが、ご容赦いただきたくお願い申し上げます。尚、各地点の詳細については別紙をご覧ください。

- ① 大栗川合流点上流（右岸）
- ② 関戸橋下流の読売新聞社前ワンド（左岸）
- ③ 府中市多摩川緑地内の“多摩川親水公園”（左岸）
- ④ 上河原の日活撮影所前ワンド（左岸）
- ⑤ 狛江の五本松（左岸）
- ⑥ 多摩水道橋下（左岸）
- ⑦ ニヶ領宿河原堰下流の“水辺の楽校”（左岸）
- ⑧ 東名高速下の湧水の細流（右岸）
- ⑨ 新二子橋上流のワンド“パンの池”（左岸）
- ⑩ 二子玉川兵庫島（左岸）
- ⑪ 第三京浜下の“せせらぎと親子広場”（右岸）
- ⑫ 等々力のワンド“魚らん池”（右岸）

調査時間について

調査は14:00～17:00の間の任意の時間に行ってください

多摩川中流部（本流）における子どもの川遊びと水辺行動についての実態調査
ヒアリング（アンケート）調査用紙

観察地点（ ） 調査日（ 2000年 月 日）
調査時間（ : ~ : ） 調査者（ ）
天候（ 快晴 ・ 晴れ／曇り ・ 曇り ・ 曇り／雨 ・ 悪天候 ） 気温（ ℃）
備考（ ）
対象者／同伴者（ 幼男 幼女 小男 小女 中高男 中高女 /
若男 若女 中男 中女 壮男 壮女 ）
（若：18～39歳位 中：40～59歳位 壮：60歳位～ *空欄に人数も記入）

* 「川遊び」について

Q.1 どの程度（頻度）来ていますか？

Q.2 誰と来ることが多いですか？

Q.3 何をして川遊びをしますか？

Q.4 友だち同士だけで川遊びに行くことに対して、両親や学校は何と言っていますか？
（大人に対して質問する場合「子どもが友だち同士だけで川遊びに行くことをどう思いますか？」にする）

Q.5 クラスの他の友だちも川遊びをしていますか？

Q.6 今日はどうしてこの場所に来ましたか？

* 「遊び」全般に関して

Q.7 1日の遊び時間はどの位ですか？

Q.8 何をして遊びますか？

Q.9 家（または学校）からここまでの距離はどの位ですか？

「多摩川中流部（本流）における子どもの川遊びの実態調査」 アンケート集計結果（2000年度）

調査日時：2000年8月27日 14:00～17:00

区間：丸子橋～関戸橋

ポイント数：12

*ポイント1「大栗川合流点上流（右岸）」（回答2）

Q.1 どの程度（頻度）きていますか？

- ・年に2～3回（2）
- ・学校の遠足でも来る

Q.2 誰と来ることが多いですか？

- ・父親（2）

Q.3 何をして川遊びをしますか？

- ・水遊び
- ・魚とり
- ・虫捕り
- ・釣り

Q.4 友だち同志だけで川遊びに行くことに対して、両親や学校は何と言っていますか？（友だち同志だけで川遊びに行くことをどう思いますか？）

- ・あぶなくないところなら良い
- ・何も言わない
- ・小さいうちは良くない（遊び方や安全について教えた）

Q.5 クラスの他の友だちも川遊びをしていますか？

- ・あまりしない（2）

Q.6 今日はどうしてこの場所に来ましたか？

- ・釣り
- ・近いから
- ・夏休みだから（2）

Q.7 1日の遊び時間はどれ位ですか？

- ・3時間
- ・2時間

Q.8 何をして遊びますか？

- ・野球
- ・ゲーム
- ・自転車

Q.9 家（学校）からここまでの距離は？

- ・500m
- ・小中学校が目の前
- ・和光鶴川小に通っている（総合学習に熱心な学校）

*ポイント2「関戸橋下流の読売新聞社前ワンド（左岸）」（該当者なし）

*ポイント3「府中市多摩川緑地内の“多摩川親水公園”（左岸）」（回答 10）

Q.1 どの程度（頻度）きていますか？

- ・2ヶ月に1回
- ・初めて（4）
- ・月に3回
- ・週に3回
- ・週に5回
- ・年に1回
- ・年に5回

Q.2 誰と来ることが多いですか？

- ・子どもと（6）
- ・家族で（5）

Q.3 何をして川遊びをしますか？

- ・ジョギング
- ・釣り（2）
- ・水遊び（7）
- ・自転車
- ・玩具で
- ・プールで

Q.4 友だち同志だけで川遊びに行くことに対して、両親や学校は何と言っていますか？（友だち同志だけで川遊びに行くことをどう思いますか？）

- ・危険だ（5）
- ・まだ子どもが小さいから危険だ（3）
- ・こわい
- ・すすめられない

Q.5 クラスの他の友だちも川遊びをしていますか？

- ・していない（3）
- ・している（3）
- ・わからない（3）
- ・プールには行っている

Q.6 今日はどうしてこの場所に来ましたか？

- ・友だちが来ているから（2）
- ・川遊びをしに
- ・近いから（2）
- ・バーベキュー
- ・暑かったから
- ・ついでに（2）
- ・お金がかからないから

Q.7 1日の遊び時間はどれ位ですか？

- ・4時間（3）
- ・5時間（2）
- ・3～4時間
- ・ほとんど1日中
- ・6～7時間

- ・2～3 時間

- ・半日

Q.8 何をして遊びますか？

- ・公園で (4)

- ・外で遊ぶ (3)

- ・水遊び (2)

- ・テレビ

- ・散歩

- ・保育園で

Q.9 家(学校)からここまでの距離は？

- ・歩いて20分 (2)

- ・歩いて30分 (2)

- ・歩いて10分

- ・車で5分

- ・5km

- ・車で20分

- ・歩いて3分

- ・歩いて5分

*ポイント4「上河原の日活撮影所前ワンド(左岸)」(回答3)

Q.1 どの程度(頻度)きていますか？

- ・夏休み3回目

- ・週に1回

- ・3ヶ月に1回

Q.2 誰と来ることが多いですか？

- ・家族で

- ・友だちと

- ・母、祖母と

Q.3 何をして川遊びをしますか？

- ・自転車、飛行機で

- ・水遊び

- ・虫とり

Q.4 友だち同志だけで川遊びに行くことに対して、両親や学校は何と言っていますか？(友だち同志だけで川遊びに行くことをどう思いますか？)

- ・幼稚園時はだめ、小学生くらいまでは親と行くべき

- ・学校では禁止している、両親はいいと言っている

- ・だめ

Q.5 クラスの他の友だちも川遊びをしていますか？

- ・していない

- ・している

- ・杉並区ではあまりしない、おばあちゃんちに来たときに川遊びをしている

Q.6 今日はどうしてこの場所に来ましたか？

- ・お花見のときよく来る、今日はおばあちゃんちに来たから

- ・犬のお散歩

- ・飛行機を飛ばすいつもの場所が花火の準備をされていて下りられないから

Q.7 1日の遊び時間はどれ位ですか？

- ・6時まで
- ・夏休みは5～7時間、幼稚園があるときは2～3時間
- ・5時間

Q.8 何をして遊びますか？

- ・ゲーム（カード、テレビゲーム）
- ・三輪車、虫とり、水遊び、夜はカエルを見る
- ・手帳のシールを交換して遊ぶ

Q.9 家（学校）からここまでの距離は？

- ・15分
- ・自転車で10分
- ・電車で1時間

*ポイント5「狛江の五本松（左岸）」（回答4）

Q.1 どの程度（頻度）きていますか？

- ・初めて
- ・夏休み3回目
- ・年に2～3回
- ・たまに

Q.2 誰と来ることが多いですか？

- ・知り合い、友だちと
- ・家族で（2）
- ・親子で

Q.3 何をして川遊びをしますか？

- ・特に何もしない
- ・水遊び
- ・釣り（2）
- ・泳ぐ

Q.4 友だち同志だけで川遊びに行くことに対して、両親や学校は何と言っていますか？（友だち同志だけで川遊びに行くことをどう思いますか？）

- ・何も言わない（2）
- ・両親は禁止している
- ・わからない

Q.5 クラスの他の友だちも川遊びをしていますか？

- ・わからない
- ・している（2）
- ・していない

Q.6 今日はどうしてこの場所に来ましたか？

- ・みんなでバーベキューをしに
- ・帰りに寄った
- ・たまたま
- ・ひまだから

Q.7 1日の遊び時間はどれ位ですか？

- ・朝から夕方まで
- ・夏は一日中、普通は3時間
- ・2～3時間
- ・1時間

Q.8 何をして遊びますか？

- ・わからない
- ・釣り
- ・ドッチボール、カードゲーム、プレイステーション
- ・鉄棒

Q.9 家(学校)からここまでの距離は？

- ・5～6km (2)
- ・5分
- ・30～40分

*ポイント6「多摩水道橋下(左岸)」(回答3)

Q.1 どの程度(頻度)きていますか？

- ・よく来る
- ・月に1～2回
- ・初めて

Q.2 誰と来ることが多いですか？

- ・家族で(3)
- ・友だちと(2)
- ・親戚と

Q.3 何をして川遊びをしますか？

- ・野球
- ・バーベキュー(2)
- ・走り回る

Q.4 友だち同志だけで川遊びに行くことに対して、両親や学校は何と言っていますか？(友だち同志だけで川遊びに行くことをどう思いますか？)

- ・まだ小さいので行かせない
- ・危ない
- ・土手なら良い

Q.5 クラスの他の友だちも川遊びをしていますか？

- ・している(2)
- ・していない

Q.6 今日はどうしてこの場所に来ましたか？

- ・バーベキューをしに(3)
- ・近いから
- ・友だちに会いに

Q.7 1日の遊び時間はどれ位ですか？

- ・1日中
- ・8時間
- ・2～3時間

Q.8 何をして遊びますか？

- ・野球
- ・外で遊ぶ
- ・公園で
- ・保育園で

Q.9 家（学校）からここまでの距離は？

- ・車で15分
- ・車で10分
- ・車で30～60分

*ポイント7「二ヶ領宿河原堰下流の“水辺の楽校”（左岸）」（該当者なし）

*ポイント8「東名高速下の湧水の細流（右岸）」（回答4）

Q.1 どの程度（頻度）きていますか？

- ・月に2回
- ・月に3～4回
- ・月1回
- ・毎日

Q.2 誰と来ることが多いですか？

- ・親子で（2）
- ・家族で（2）

Q.3 何をして川遊びをしますか？

- ・釣り
- ・魚とり（2）
- ・水遊び
- ・虫とり

Q.4 友だち同志だけで川遊びに行くことに対して、両親や学校は何と言っていますか？（友だち同志だけで川遊びに行くことをどう思いますか？）

- ・小さいのでそれはない
- ・学校か大人がいないとだめ
- ・学校がだめだと言う（2）

Q.5 クラスの他の友だちも川遊びをしていますか？

- ・行っている（2）
- ・そう思う
- ・していない

Q.6 今日はどうしてこの場所に来ましたか？

- ・テレビでやっていた
- ・近いから
- ・車で国立から
- ・虫とりやさかなとりができるから
- ・車で
- ・いつも来ているから

Q.7 1日の遊び時間はどれ位ですか？

- ・わからない
- ・いっぱい
- ・2時間
- ・5時まで

Q.8 何をして遊びますか？

- ・セミとり
- ・公園で
- ・テレビゲームで
- ・ロボット人形で

Q.9 家(学校)からここまでの距離は？

- ・2km
- ・500mくらい
- ・5kmくらい
- ・車で30分

***調査担当者のメモ**

調査当時、付近(川崎側)には4グループがいた。

- (1) 親子連れで釣り
- (2) 家族(父、母、兄(小3)、弟(幼))連れ：網でいきものとり
- (3) 家族(父、母、姉(中)、弟(小))連れ：網でいきものとり
 - ・(2)と(3)の子どもたちは途中で一緒に活動していた
- (4) 社会人のバーベキューグループ(10人)

その他、散歩でやって来た父子が2組いた。

→対岸には、バーベキューグループ5組、団体で来た小学生、高校生グループ(16人)、
家族連れ数組、釣りの中年男性6人

<困ったこと>

- ・こちらが調査するにあたって、自己紹介および調査の主旨が明確でなかったため自分でその場で適当に説明してしまった。
- ・ヒアリング調査用紙の質問において、頻度や時間、距離をどう記録すれば良いかわからず、回答者の説明通りの記述になっている。「5時まで遊んだ」、「車で30分」など。

***ポイント9「新二子橋上流のワンド“パンの池”(左岸) (該当者なし)**

***ポイント10「二子玉川兵庫島(左岸) (回答6)**

Q.1 どの程度(頻度)きていますか？

- ・年5回
- ・ここは初めて(2)
- ・月に2~3回
- ・年4回
- ・2回目
- ・年2回

Q.2 誰と来ることが多いですか？

- ・家族で(2)
- ・親と(2)

- ・両親と兄弟で
- ・友だちと

Q.3 何をして川遊びをしますか？

- ・虫とり
- ・石を並べて流れをつくる
- ・ゲーム
- ・水に入りバシャバシャ (3)
- ・石あつめ
- ・石投げ
- ・弟の面倒をみる
- ・泳ぐ

Q.4 友だち同志だけで川遊びに行くことに対して、両親や学校は何と言っていますか？（友だち同志だけで川遊びに行くことをどう思いますか？）

- ・何も言わない
- ・小学生はだめ、親や大きい子がついていれば良い、中学生になれば良い
- ・心配だ (2)
- ・危ないからだめ
- ・子どもだけでは行かせられない
- ・悪いとは思わないが、危ない

Q.5 クラスの他の友だちも川遊びをしていますか？

- ・野川には行くようだが、多摩川にはあまり行かないようだ
- ・聞いたことがない
- ・している (2)
- ・あまりしていない
- ・親同士でも来ている
- ・わからない

Q.6 今日はどうしてこの場所に来ましたか？

- ・暑いから (2)
- ・近くの遊園地に来たついでに
- ・自由研究で (2)
- ・近所のレゲイベントで

Q.7 1日の遊び時間はどれ位ですか？

- ・学校がある日は4時間 (2)
- ・学校がある日は4~5時間
- ・夏休みは1日中
- ・夏休みは6時間
- ・1日中 (2)
- ・3時間

Q.8 何をして遊びますか？

- ・ボール遊び (2)
- ・虫とり (2)
- ・鬼ごっこ
- ・文化センターで
- ・パズル

- ・読書
- ・外で遊ぶ
- ・工作、お絵かき
- ・プール（2）
- ・ゲーム

Q.9 家（学校）からここまでの距離は？

- ・自転車で1時間
- ・車で1時間半
- ・車と歩きで10分
- ・自転車で10～15分
- ・車で1時間
- ・電車で駅4つ

*調査担当者のメモ（感想）

ヒアリング調査の手法について

- 調査の導入ですが、聞き取りを行うにあたって、自分の身分（多摩川センターとは）や簡単な調査目的を対象者に明示する手続きが必要だと感じました。実験で言えば「教示」にあたる部分です。当然のことと感じられるかも知れませんが、雇われボランティアにとってはそれを明確に伝えるのはけっこう難しいと思うので、なにか、常套句を用意するといったと思います。

ヒアリングアンケート用紙について

- Qが全体にいろんな答え方ができるので、少しとまどいました。たとえば、「どうしてこの場所に」と言う問いは①「どうして、他の水辺ではなくて、他の水辺なのか」という意味でしょうか？それとも、単に②「どうして水辺に来たのか」という意味でしょうか？おそらく、①だと私は思ったのですが、このまま質問すると、②の意味で「暑いから」と答える人が多かったので、ボランティアのとらえる意味によって、求める回答が違ってきたりしそうだなと感じました。
- 答え方がいろいろできるので、統計的処理が難しくありませんか？例えば頻度について、月1と週1と言う答え方の両方OKなんですよね。おそらく、わたしなら頻度や誰と来るかなど、回答の種類が決まり切っているものは選択式にして、その他（ ）の欄を作ると思います。また、「家からここまでの距離」というのも、実際何キロという答え方は普通の人にはできないので、「車で何分」という形になると思いますが、それであれば、はじめから「車で・自転車で・徒歩で（ ）分」などとした方が、情報が統一されているのではないのでしょうか。また、差し支えなければ明確にどこから来たのかを町名で答えてもらうというのも、後の資料作りとしてはおもしろいと思います。

全体について

- このように実際にフィールドに調査員が行くという方法は単にアンケート用紙を配って行う調査よりも、大変多くの情報量がえられることがメリットだといわれます。というのは、調査員が実際に目や耳で感じたことがすべて情報になるからです。なので、アンケート用紙にはなくても、現場の気づいたことや対象者の感じなど、様々な点でボランティアに情報提供を求めることが有効ではないかと思います。
- また、これからもこのような調査を続けるとすると、調査する内容だけでなく、調査のやり方や現場でのノウハウのようなものも情報として寄せてもらうことが大切だと思

ます。たとえば、「駅前過ぎるとコンビニがないからそこで買うように」みたいな周辺の情報でも、初めて現場に行くボランティアにとっては役立つと思います。

***ポイント 11 「第三京浜下の“せせらぎと親子広場”（右岸）」（回答 4）**

Q.1 どの程度（頻度）きていますか？

- ・月に1度
- ・はじめて（2）
- ・夏は毎日

Q.2 誰と来ることが多いですか？

- ・親子で
- ・家族で（2）
- ・孫と

Q.3 何をして川遊びをしますか？

- ・いきものとり（2）
- ・水遊び（4）

Q.4 友だち同志だけで川遊びに行くことに対して、両親や学校は何と言っていますか？（友だち同志だけで川遊びに行くことをどう思いますか？）

- ・すぐ近くなら良い（2）
- ・6年生くらいになれば良い
- ・まだ小さいのでそんなことはない
- ・まだ小さいので危ない

Q.5 クラスの他の友だちも川遊びをしていますか？

- ・していないと思う
- ・わからない
- ・まだ小さいのでしていない（2）

Q.6 今日はどうしてこの場所に来ましたか？

- ・近いから（2）
- ・雑誌の特集記事に載っていたから
- ・プールだと時期的に遅いから

Q.7 1日の遊び時間はどれ位ですか？

- ・2～3時間
- ・学校から帰ったらほぼ一日中
- ・外で2～3時間
- ・1～2時間

Q.8 何をして遊びますか？

- ・サッカー
- ・ゲーム（2）
- ・ロボットで
- ・あまり外では遊ばない
- ・外で遊ぶ
- ・公園の遊具で（2）
- ・プールで

Q.9 家（学校）からここまでの距離は？

- ・自転車で15分

- ・車で15～20分(2)
- ・自転車で5分

***ポイント12「等々力のワンド“魚らん池”(右岸) (回答2)**

Q.1 どの程度(頻度)きていますか?

- ・たまに
- ・土日のいずれか

Q.2 誰と来ることが多いですか?

- ・家族で
- ・親子で

Q.3 何をして川遊びをしますか?

- ・サイクリング
- ・虫、魚とり

Q.4 友だち同志だけで川遊びに行くことに対して、両親や学校は何と言っていますか? (友だち同志だけで川遊びに行くことをどう思いますか?)

- ・まだ小さすぎる(2)

Q.5 クラスの他の友だちも川遊びをしていますか?

- ・いる
- ・まだ小さいからしていない

Q.6 今日はどうしてこの場所に来ましたか?

- ・家から近くて、夏休み最後だから
- ・家から近くて、自然が残っているから

Q.7 1日の遊び時間はどれ位ですか?

- ・2時間くらい
- ・夏は一日中

Q.8 何をして遊びますか?

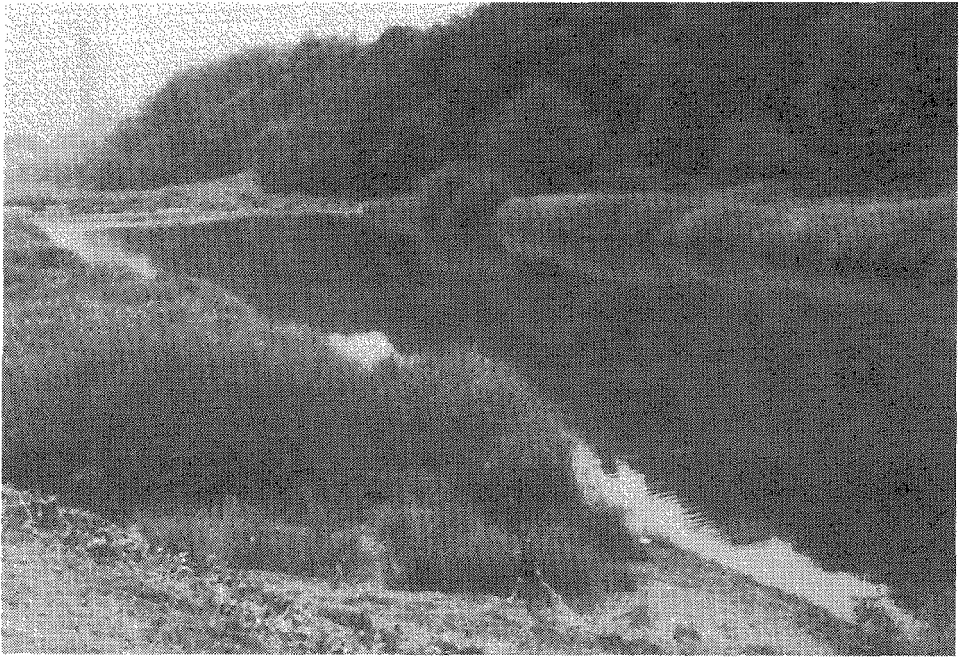
- ・外で自然にふれて遊ぶ(2)

Q.9 家(学校)からここまでの距離は?

- ・川崎の矢向から
- ・自転車で15分くらい

B 区間（関戸橋～丸子橋）の定点観察地点

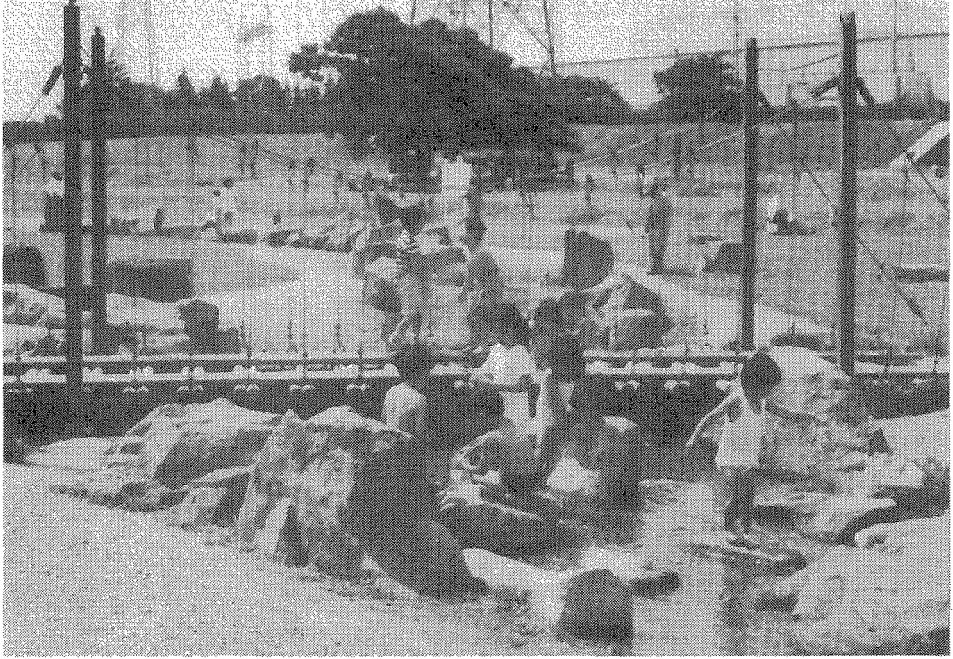
*具体的な場所はラインセンス調査地図（48～54 ページ）の①～⑫を参照



① 大栗川合流点上流（右岸）



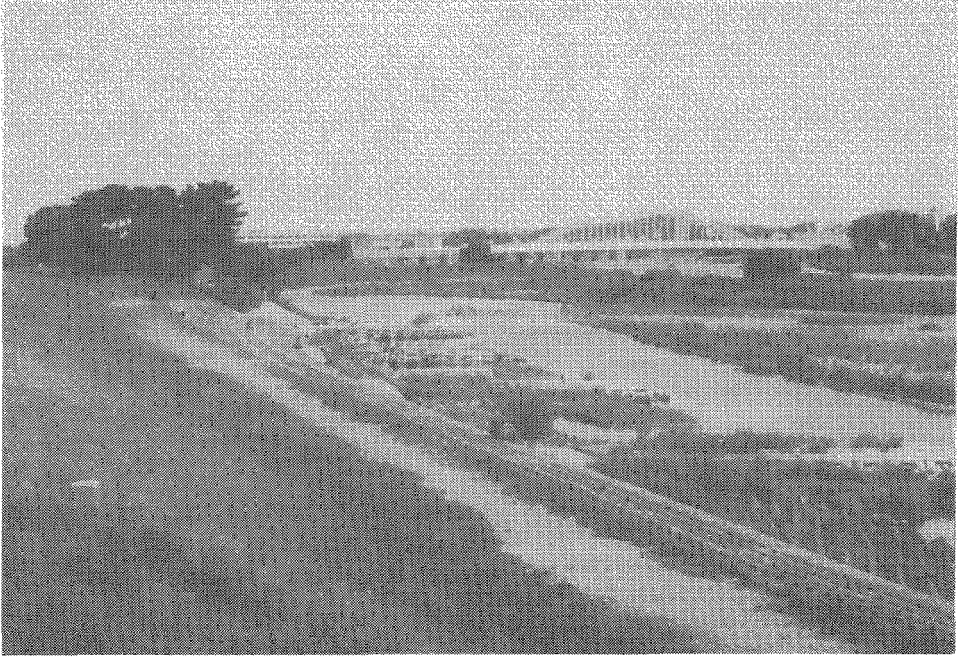
② 関戸橋下流の読売新聞社前ワンド（左岸）



③ 府中市多摩川緑地内の“多摩川親水公園”（左岸）



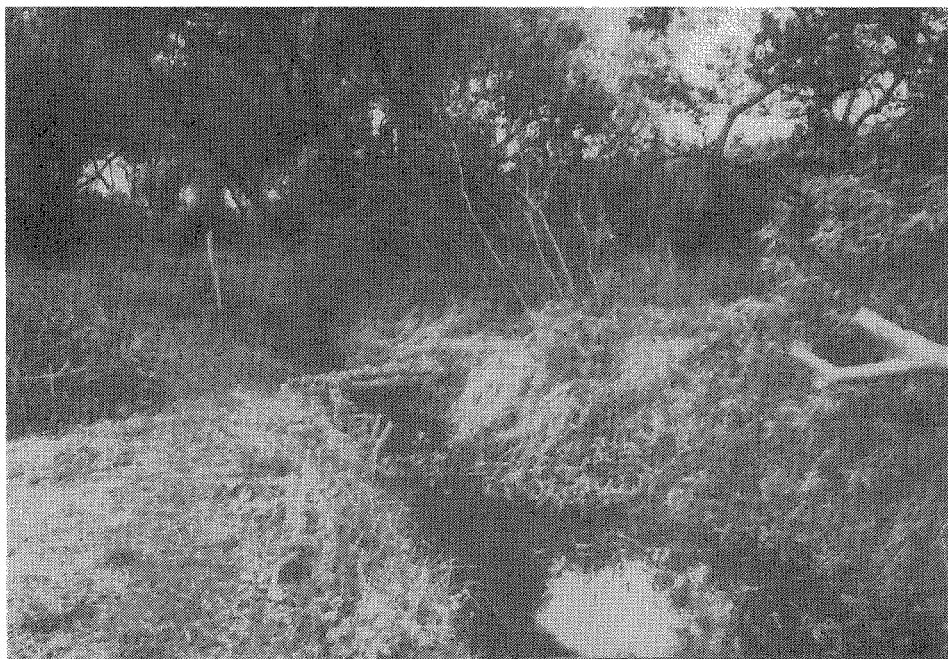
④ 上河原の日活撮影所前ワンド（左岸）



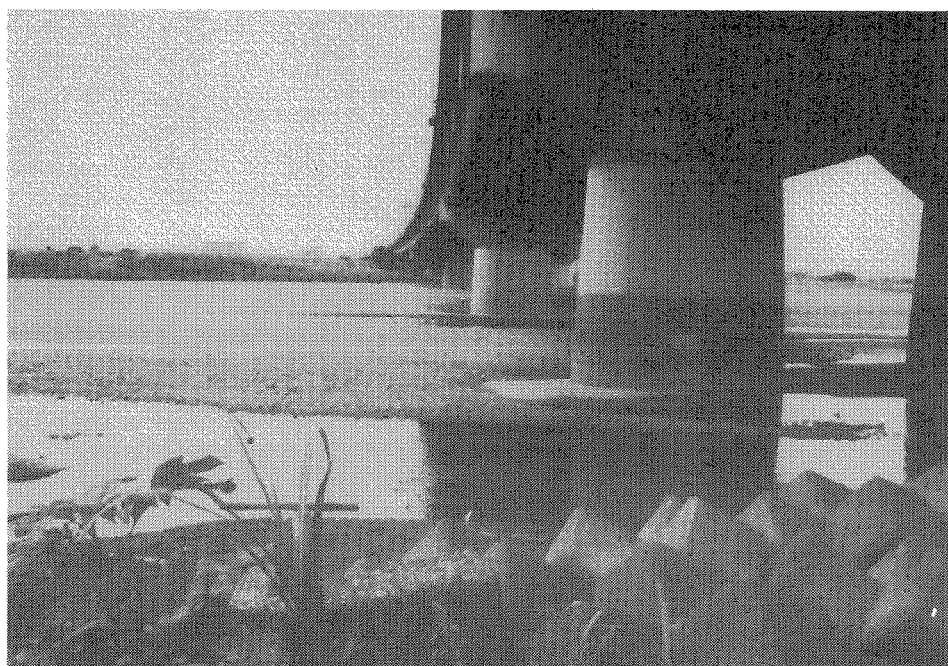
⑤ 狛江の五本松（左岸）



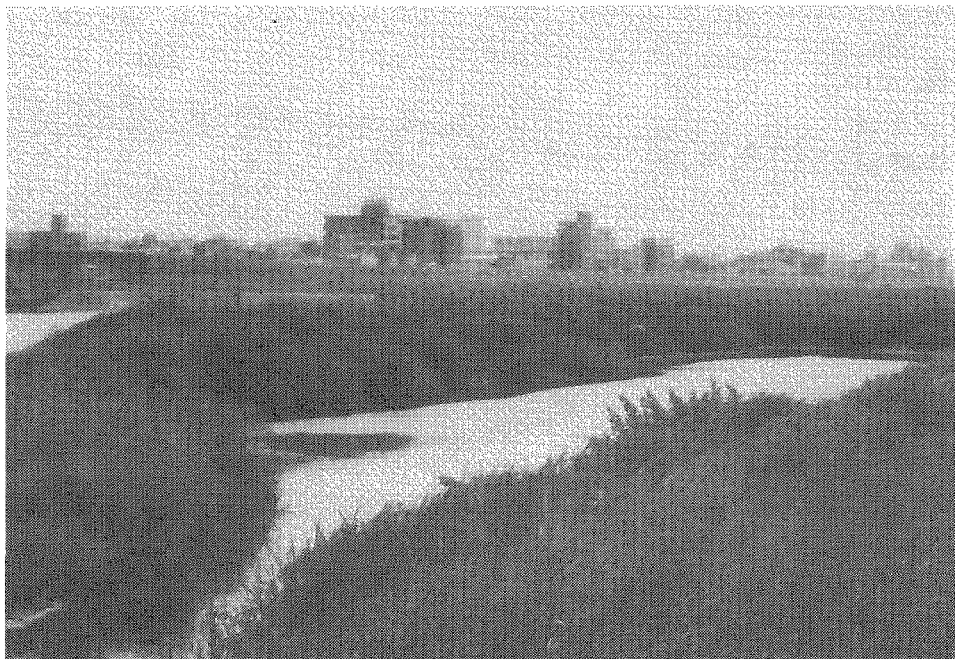
⑥ 多摩水道橋下（左岸）



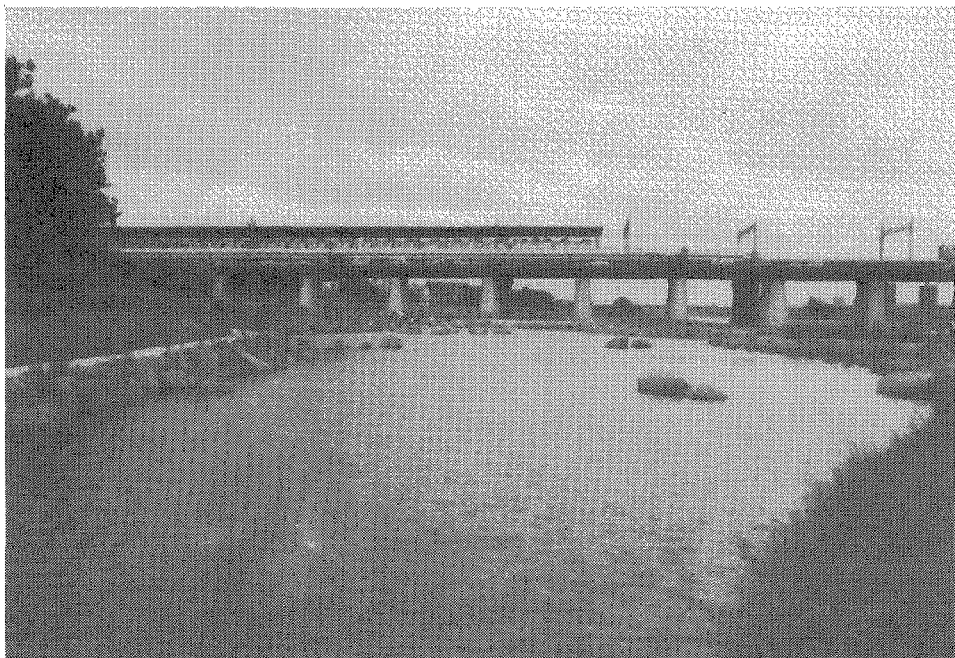
⑦ 二ヶ領宿河原堰下流の“水辺の楽校”（左岸）



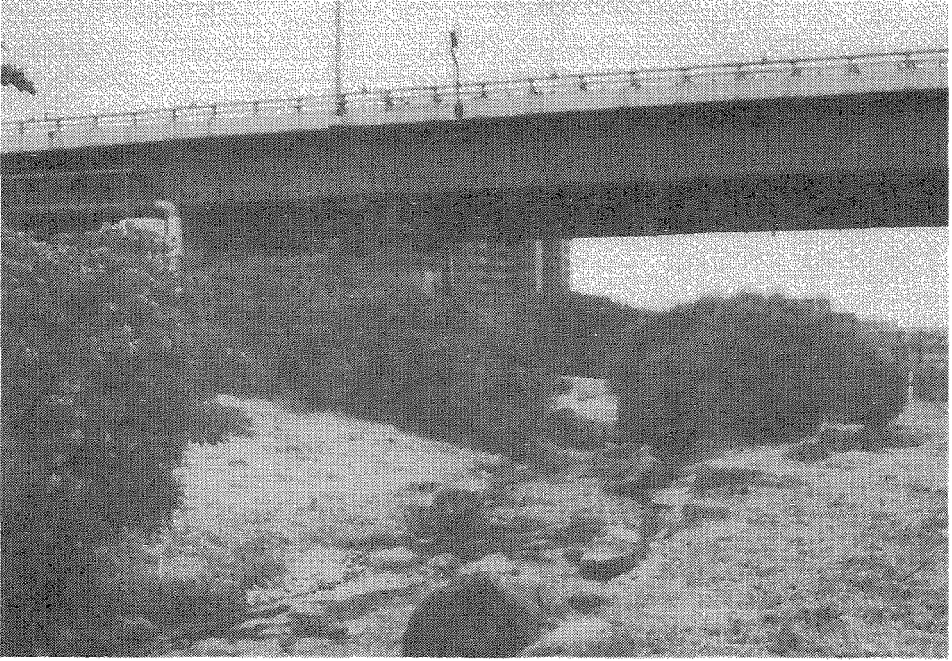
⑧ 東名高速下の湧水の細流（右岸）



⑨ 新二子橋上流のワンド“パンの池”（左岸）



⑩ 二子玉川兵庫島（左岸）

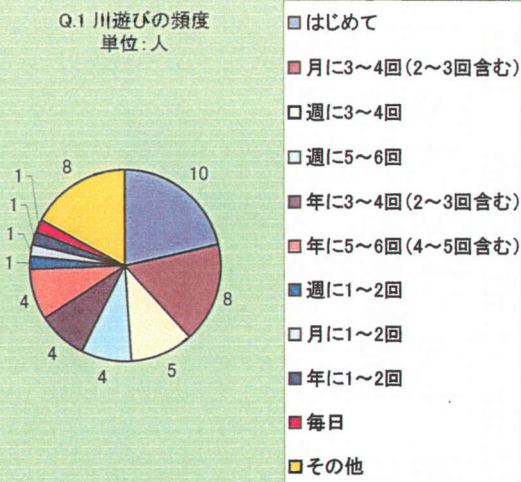


⑪ 第三京浜下の“せせらぎと親子広場”（右岸）

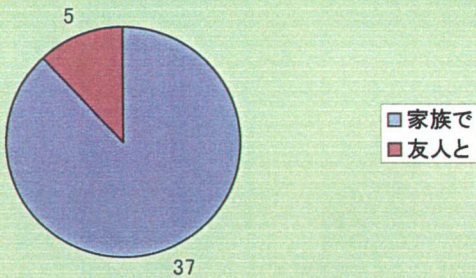


⑫ 等々力のワンド“魚らん池”（右岸）

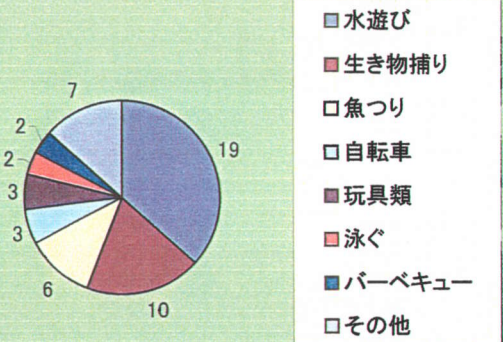
Q.1 川遊びの頻度
単位:人



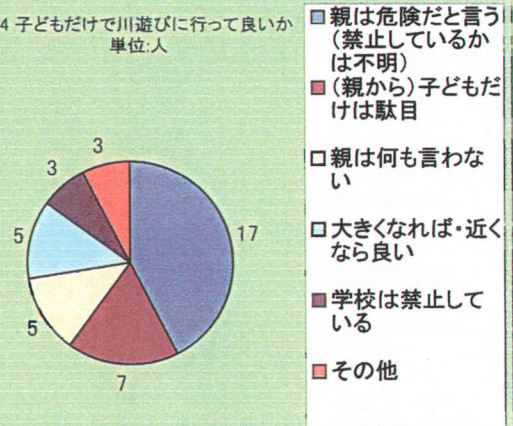
Q.2 川遊びに誰と行くか
単位:人



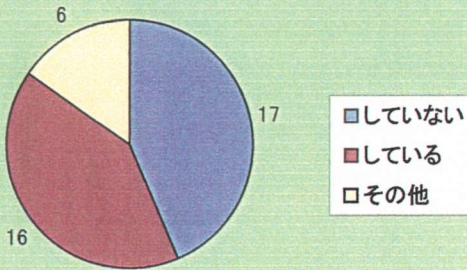
Q.3 何をして川遊びをするか
単位:人



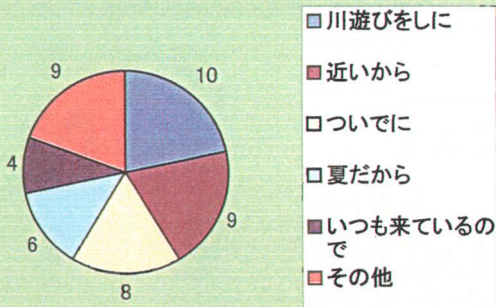
Q.4 子どもだけで川遊びに行って良いか
単位:人



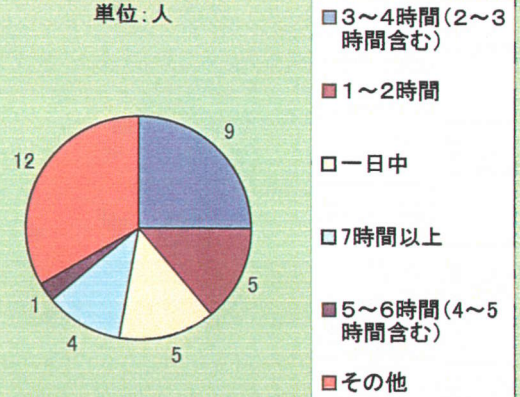
Q.5 他の子も川遊びをしているか
単位:人



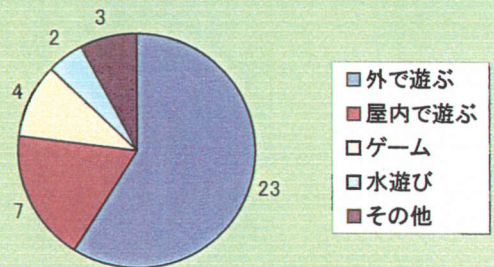
Q.6 この場所に来た理由
単位:人



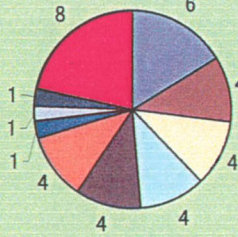
Q.7 一日の遊び時間
単位:人



Q.8 普段何をして遊ぶか
単位:人



Q.9 家からの距離
単位：人



- 歩いて10分未満
- 歩いて10～20分
- 歩いて20分超過
- 自転車10～20分
- 車・バイク10～20分
- 車・バイク20分超過
- 自転車10分未満
- 自転車20分超過
- 車・バイク10分未満
- その他

調査結果からわかること

◇ヒアリング（アンケート）調査

…2000年8月27日実施・B区間（関戸橋～丸子橋）の下記地点において

- ① 大栗川合流点上流（右岸）
- ② 関戸橋下流の読売新聞社前ワンド（左岸）
- ③ 府中市多摩川緑地内の“多摩川親水公園”（左岸）
- ④ 上河原の日活撮影所前ワンド（左岸）
- ⑤ 粕江の五本松（左岸）
- ⑥ 多摩水道橋下（左岸）
- ⑦ ニヶ領宿河原堰下流の“水辺の楽校”（左岸）
- ⑧ 東名高速下の湧水の細流（右岸）
- ⑨ 新二子橋上流のワンド“バンの池”（左岸）
- ⑩ 二子玉川兵庫島（左岸）
- ⑪ 第三京浜下の“せせらぎと親子広場”（右岸）
- ⑫ 等々力のワンド“魚らん池”（右岸）

Q1. 川遊びの頻度

・「はじめて」という回答が一番多かった。これは1999年度調査では、まったくなかったことである。それは場所的なものによるものなのか、理由がわかるとおもしろい。

Q2. 川遊びに誰と行くか

・「家族で」37人：「友人と」5人と、家族で来るケースが多数を占めた。1999年度調査の35：15との差が気になる。上流部の方が子どもたちだけで川遊びをしている例が本当に多いのか。もしそうなら、それはどうしてなのか。

Q3. 何をして川遊びをするか

・1999年度調査と似たような結果になったが、「バーベキュー」をしている人に対しても質問したにもかかわらず、「川遊びでバーベキューをする」と答えた人はごく少数だったのはおもしろい。

Q4. 子どもだけで川遊びに行っても良いか

・「禁止」しているかどうかはわからないが、親の立場から見ると、やはりというか否定的な答えがほとんどであった。「学校は禁止している」と答えた子どもも3人いた。

Q5. 他の子も川遊びをしているか

- ・1999年度の上流部調査で、「している」が28人と、「していない」10人を大きく上回ったのに対し、今回の調査では「している」16人：「していない」17人と逆転してしまった。これは何故だろう。

Q6. この場所に来た理由

- ・いろいろな答え方ができるので、質問のしかたを工夫する必要があったが、昨年同様、この場所が身近だからと考えている人は多いようだった。

Q7. 一日の遊び時間

- ・昨年同様まちまちで、夏休み中と普段という2つの設定をすると良かった。就学前の幼児と小中学生というように、年齢によっても大きく変化することが予想される。

Q8. 普段何をして遊ぶか

- ・昨年と同じような結果で、外で遊ぶ子の方が多い。しかし、「水遊び」と答えた子は減った。

Q9. 家からの距離

- ・一番多かったのは歩いて10分未満～20分という答えで、近所の子どもたちが来ているのがわかる。また、車で1時間以上かけて遊びに来ているという家族連れも意外に多かった。

今後に向けて

今回の調査は、その手法に未熟な点が多く、調査方法や設定状況、アンケートの設問項目などに不明瞭な点があった。また、毎回調査を行っては反省の連続ばかりで、調査内容が最後まで統一されなかった。このため、集められた調査結果が持つ、客観的データとしての価値が薄れてしまった。

しかし、この調査（プロセスおよび結果）を通して、子どもたちとその家族や学校などの「川遊び」に対する意識や、子どもたちをとりまく生活環境がどうなっているのかについては、断片的ではあるものの知ることができた。

残念ながら今回の調査結果だけから判断できるものは多くはないが、多摩川流域の「いい川づくり」促進のための問題提起としたい。

①「川遊び」とは？

「川遊び」という言葉から多くの人は、自然の川の水と直接ふれあう遊びを連想するであろう。

一方、散歩や自然観察などは、一般的には川遊びとして連想されないものの、多摩川の持つ河川環境と密接な関係があるのは確かであり、ねころびやサイクリング、バーベキューなども多摩川の河川環境があるからこそ成立し得るものだと言える。少し極端な例を挙げれば、河川敷のグラウンドでスポーツをすることも、多摩川が不可欠な遊びと言えるだろう。

というのは、彼らを含めると、多摩川全体の利用者数は年間2000万人に達するとされており、実際にスポーツをしている子どもたちにアンケートをしてみたところ「多摩川の河川敷でサッカーをすると晴れ晴れとした気持ちになる」という答えが返ってきた。彼らは開放された空間として多摩川に価値を見出しており、間接的とは言え、多摩川の河川環境に依存していると言える。

これらの遊びは、本来は「川遊び」とは切り離して考えるべき活動だろう。また、この調査は当初「水遊び」をするのに望ましい水辺環境を考える目的で始めたのだが、多摩川とその利用の現状を見つめる上で見逃せないことだと感じたので、2回目の調査からは、調査区間内で遊んでいる子どもたち（同伴者も含む）を見かけたら、原則としてすべてカウントしている。このため、結果的に子どもたちの河川利用調査になってしまったことをお許しいただきたい。

②「水遊び」に適した河川環境とは？

上で述べたように、一般的に「川遊び」＝「水遊び」という考えはあるようだ。そして多くの人は、夏はきれいな川に入って水と戯れたいと思っている。そして、多摩

川が、水遊びをしている子どもたちがたくさんいるような川であって欲しいと願っている。では実際はどうか。

今回の調査地区の最上流部にあたる羽村堰付近では、実際に水に入って遊ぶ人が多かった。しかし、下流に行くにつれてそれは減り、河原や河川敷など“陸”での遊びが主体になってくる。これには様々な原因が考えられるが、「水質」が大きく関係していることは確かなことと思われる。

羽村堰からは、東京都民の飲み水となる玉川上水が取水されており、そこから上流の多摩川は水道水源として位置付けられている。このため、堰付近の水質は大変良好である。しかし、その水の多くはこの堰で取水されてしまい、下流に行くにしたがって多摩川には下水処理場からの処理水や、汚れた支流の水が流入するようになり、一昔前よりは改善されてきたとは言え、多摩川の水質は悪化してしまう。中下流部の多摩川の水は、実にその6~7割が下水処理水だと言われている。

子どもたちに、自然の川にふれてその持つ魅力をもっと知ってもらうことを目的とした「水辺の楽校プロジェクト」が始まって数年がたち、多摩川でも2001年に狛江と川崎で「開校」したのをはじめ、流域全体として、子どもの水遊びに対する意識が高まってきている。しかし、中下流部の多摩川では、まだまだ水遊びに相応しい水質とは言えないのが現状である。事実、水辺の楽校を推進している地元でも、「川の水に少し入るくらいなら良いけれど、現状では泳ぐというのはちょっと勧められないな」と考えている大人が多いのだと聞く。後に述べるように、子どもたちだけでの川遊びを禁止する理由のひとつもここにあるのだろう。

話がちょっと脇道に逸れるかもしれないが、では多摩川の水質をもっと良くするにはどうしたら良いだろうか。素人なりにすぐ思いつくことは、羽村堰からの放水量をもっと増やすことと下水処理場の処理能力を高度化することである。しかし玉川上水を通してその水を飲んでいるのは私たち自身であり、処理場の改善には莫大な費用がかかることが容易に考えられ、そう単純に解決できる問題ではないだろう。だからと言って、このままの水質で構わないというはずもなく、私たちは、多摩川の水質、ひいては地球環境全体の改善に、一人一人が真剣に取り組まなくてはならない。

純粹に「水遊び」をしている子どもたちを探すならば、羽村よりさらに上流へ行けば良いのだろうが、この調査の目的は、むしろ住宅地や都市部に住む子どもたちが、自分たちの身近なところにある多摩川の存在をどのように考え、また利用しているかを知ることにあつた。

③「川遊び」は“禁じられた遊び”なのか？

前述の「水辺の楽校プロジェクト」をはじめ、2002年度からは、どこの小中学校でも「総合的な学習」が正式に始まる。さらに2001年7月には、「多摩川流域リバーミュージアム計画」が、狛江・宿河原地区で試験的にスタートした。これは多摩川の自然や流域に遺された川や水の歴史や文化など流域全体を博物館と捉え、誰もが多摩川の持つ価値を共有、学習できるしくみを目指すものである。今後は流域全体への

展開を目指して、市民や河川管理者、自治体などが協働で取り組むプロジェクトとして期待がもたれている。流域の市民団体などが以前から提案している「多摩川教育河川構想」や「多摩川自然公園計画」、「多摩川エコミュージアム計画」などの実現も含め、子どもたちが多摩川を通して「生きる力」を学ぶ機会が増え、社会全体の子どもの川遊びに対する意識が高まってきていることは大変喜ばしいことである。

しかしながら、調査結果を見てもわかるように、大人たちや学校は、子どもたちだけで川遊びに行くことに対しては、否定的ないし禁止しているという現状が改めて浮き彫りになった。都市生活の中で、子どもたちが川から消えて久しいと言われている。子ども時代に川遊びをしてこなかった若い親や先生も増えている。川遊びをまったく知らない子どもや大人たちが川へ出掛けて行っても危険かもしれないが、「多摩川全域で子どもたちが川遊びを楽しめるようにしよう！」と盛り上がってきた気運を大切に、これを達成するためには、誰もが「川は危ないから近寄らない方がいい」という考え方を少しずつであってもなくしていくことが重要である。

④子どもたち全般の興味・関心は？

「調査結果からわかること」で述べたように、「普段何をして遊ぶか」という質問に対して、アンケートに答えてくれた子どもたちの多くは、外で遊ぶことが多いようだった。しかし、これは川遊びをしている子どもたちに質問したことが大きく作用していると思われる。同年代の子どもたち全体ではどうなのだろうか。それによってどんな結果が出るのか。機会があったら、クラスの全員に質問してみたい項目である。普段から川づくりに関わっている私たちは、ともすると川への関心が高い人々のことばかりを考えるようになりがちである。「総合的な学習」を含め、子どもと水辺の関係は社会全体の問題であり、「多摩川全域で子どもたちが川遊びを楽しめるようにする」ことを達成するためにも、いろいろな立場の人々から意見や考え方を聞き、それを活かしていくことが不可欠だと考える。

例えば、私たちの多摩川センターが行っている「多摩川ふれあい教室」をより良くするためには、教室の来場者や観察会等の参加者から意見や要望を積極的に聞いていくことはもちろん、他の人々の興味や関心について知ろうとすることも、忘れてはならないことだと考える。

⑤年齢・男女による興味・関心の変化は？

「調査結果からわかること」で詳しく述べたことであるが、中学生になると、外で遊ぶ子どもたちが激減する（特に女子）。これには生活環境や好みなど、多くの要素が関わっていると思われる。

子どもたちを取り巻く生活環境の変化だけではなく、男女での違い、またある子どもの興味の対象や価値観が、成長するにしたがってどのように変わっていくのかということは非常に興味深く、ぜひ調べてみたいことである。

例えば小学校の「総合的な学習」を多摩川で経験してきた子どもたちが中学校に入

ってからはどうしたいか。また学校側としてはどのような活動メニューを用意したら良いかなどを考える契機になると思われる。それは、「多摩川ふれあい教室」のメニューを充実させていく上でも同様である。

ところで、子どもたちが大きくなると川で遊ばなく傾向があるのは事実であるが、これは良い悪いで判断できるものではない。

例えば「総合的な学習」の成果（子どもがこの学習を通して何を得、どのように成長したか）を判断することは難しい。こんなことがあった。ふれあい教室で、「総合的な学習」の場として多摩川を活かすことに尽くされている横山十四男氏を紹介したときのこと。そこにたまたま居合わせた婦人が、横山氏は自分の中学時代の担任だったと教えてくださった。その当時、多摩川の自然を学びの場にしようという、今の「総合的な学習」のようなことを教えていただいたとおっしゃった。このように子ども時代に経験したことは、その人の将来に何らかのかたちではたらきかけているに違いない。また、それを測る基準というものは存在し得ないし、つくろうと考えること自体がナンセンスかもしれない。

ただ明確なのは、私たちは、ひとりでも多くの子どもたちが大人になる前に多摩川の自然とふれあってもらえるように努力すべきだということだろう。

◎最後に

いわゆる市民が中心になって取り組んだ調査や研究は、客観的なデータとしての文字や数字にすることは難しくても、参加のプロセスや素朴な感想などにこそ、その成果がある場合が多い。数字や理屈だけではない、これらの持つ価値を多くの人々が認めるようになることは、真に豊かな社会を実現するために不可欠なことであり、市民セクターとして存在する多摩川センターの目標もそこにあると考えている。

実は、社会はそのことに気付き始めている。「総合的な学習」、「水辺の楽校」、「多摩川流域リバーミュージアム」…。経済至上主義の社会が崩れたいま、真の豊かさや幸せとは何か、考える人が増えてきている。

参考資料 1 『多摩川の将来像』

作成：2000年3月13日

羽村から関戸橋付近までの約 20kmにおいて、子どもの川遊びの実態を調査して（1999年度）、また普段歩いていて気付いたことをもとに多摩川の将来像を考えてみた。

◎基本理念

①「多摩川全域で子どもたちが川遊びを楽しめるようにしよう！」

これを達成するために、まず多摩川流域の小・中学校や保護者が川遊びを禁止することをやめて欲しい。多摩川で子どもの川遊びの実態を調査しているが、子どもたちにアンケートを行ったところ、川へ遊びに行くことを大人たちに禁止されている現状が改めて浮き彫りになった。もっともすべての学校や親たちがそうだとは思わないし、川遊びをまったく知らない子どもたちが川へ出掛けて行くことは危険かもしれないが、

また、川辺によく立てられている看板も、「ここで遊ぶな」ではなく、「川で遊ぶときは気をつけよう」などに改めていって欲しい。「川は危ないから近寄らない方がいい」という考え方を、大人も子どももなくしていくことが必要だと思う。

もう1点、水質の問題がある。これは川遊びに限らず全般にも言えることだが、下水道の完備や下水処理場の処理能力の高度化によって、多摩川の水質は一時よりはかなり向上している。ただ、中流部以下における本流の水の多くはこの処理水によるものだという。子どもに川遊びを禁止する大人たちの懸念は、ここにもあるのかもしれない。また、見た目にはきれいでも、本当に川遊びに適した水であるのかどうかは疑問である。この水質の問題については、現在盛んに議論されているので、ここでは詳しく述べないが、子どもたちの川遊びの観点からも是非水質の改善に取り組んでいきたい。

②「多摩川らしい自然生態系を保護・保全していくとともに様々な利用との調和を図ろう！」

実際に多摩川を歩きながら考えたり、また人々の話を聞いていて、この相反する要素をいかに調整していくかということが、今後私たちが川と付き合っていく上で欠かせないと感じたので、もう1つの基本理念として掲げたい。

◎機能空間区分について

昭和55年に策定された『多摩川河川環境管理計画』における①～⑧の機能空間区分は、大変優れていると思うが、②地先施設レクリエーション空間と③広域施設レク

リエーション空間の違いや、⑥文化・教化空間、⑦情操空間等の用語の意味は、一般の人々にとってはかなりわかりづらいと思う。空間区分はもっとわかりやすく、数も少なめに設定した方が良いと思う。むしろA～Eの5つにわけられているゾーンタイプの考え方をもっと活用して、目的を捉えやすいゾーニングを設定することを期待している。

◎地域ごとの具体的な提案

提案1「多自然型魚道をつくろう」

羽村取水堰では、建設省が進める「魚がのぼりやすい川づくり推進モデル事業」に基づいて、魚道が設置されることになった。しかし、計画の最初の段階で堰の筏通し場に魚道をつくろうということになったため、文化的遺産である羽村取水堰の景観を壊すものだと住民から強い反対があった。現在も完全解決はしていないとのことだが、筏通し場よりも右岸側にその位置を移動することで、一応の話し合いはついたという。しかし、私が思うには堰そのものが文化的遺産であって、筏通し場を避けたとしても、一般的に魚道がつくられれば、景観が大きく変貌することは避けられないであろう。もちろん魚道が新設されること自体には、私も大賛成であるが。

そこで提案がある。魚道や河川工学の素人である私が言うのはおかしいかもしれないが、この堰は江戸時代につくられてから大きく変わっていないせいか、その下流側には多量の伏流水が湧き出しており、せせらぎを形成して本流へと注いでいる。これが本流の水量の維持にも一役買っているようだが、この伏流水のせせらぎを何とかうまく魚道に利用できないものだろうか。「せせらぎ魚道」が実現すれば、多少お金がかかっても「多自然型川づくり」の好事例になるだろうし、堰の景観も壊さずに済むのではないだろうか。

これには構造的に無理があったり、また既に議論され尽くした問題なのかもしれないが、今後のためにも是非考え直して欲しいと思う。

提案2「自然生態系に配慮した水辺空間を生かそう」

羽村水取水堰右岸の沼沢地は以前、親水のために「ホタルの里づくり」の整備がされたところであるが、市民団体等の指摘もあって、現在はかなり自然の姿に近づいてきている。魚類観察をしたときには、ジュズカケハゼ、シマドジョウ、アブラハヤ、ウグイ、カワムツ、オイカワを確認している。今後も多様な生態系を育む水辺を取り戻していくためにも、極力手を付けずにおきたい。それほど深いところもなく、子どもたちにとっても、水遊びを通じて自然体験できる貴重な空間だと思う。

提案3「駐車場以外の河川敷への車両乗り入れは厳禁しよう」

河川区間内に自動車が乗り入れられること自体が問題かもしれないが、羽村取水堰付近は大変人の集まる場所であり、釣り、バーベキュー、水遊び等、様々な利用がさ

れている場所である。

それらの利用のすべてが良いと言うつもりはないし、ゴミ等の問題もある。しかし、都内も含めてかなり遠くから車で川にやってきている人や、堰下で水遊びをする親子連れも多く、人々の憩いの場所になっているのも事実である。車の乗り入れを完全にシャットアウトするのではなく、堰下左岸の一角に場所を限定して、それ以外への侵入を防ぐというのが現実的ではないだろうか（もっとも付近で堤内地側に代替の用地が確保できるというのならそれにこしたことはないが）。近くには希少植物群落があるし、ゴミ問題も含めて、利用者のマナーアップを図ることが重要だと考える。

提案4「カワラノギク保護地を継続しよう」

「はむら自然友の会」によってつくられたカワラノギクの保護地では、毎年可憐な花を楽しませてくれている。遺伝子の問題や人工的に植えることに対しては賛否あると思うが、カワラノギクのように絶滅寸前の状態にあるものを、人の手によって、本来そこにあったものを復活させることは間違っていないと思う。むしろ保護呼びかけの看板を設置するなど、ここはもっとアピールして、多くの人々にカワラノギクについて知ってもらう方が重要なことだと思う。

提案5「カワラノギク自生地を保全しよう」

カワラノギクの自生地は、本来ならば公開して、皆で守っていくのが理想だと思うが、ほんの一部の心ない人によって絶滅してしまうおそれがあることを考えると、残念ながらまだその段階は時期尚早なのかもしれない。河川管理者と市民団体とが協力して、定期的なパトロールや保護の呼びかけをしていったらどうだろうか。やはり人々のマナー向上を図ることが鍵だろう。

また、この永田地区が、「多摩川河川環境管理計画」で⑧生態系保持空間に指定されていることは大変有意義なことだと思うが、カワラノギク自生地がある付近は、現在その指定がされていない。法的な力を持たせたいというわけではないが、河川管理者及び市民の意識を高めるためにも、生態系保持空間の範囲拡大を希望する。

提案6「沼沢地の利用について考えよう」

睦橋の直下には大きい池があるが、ここは常に多くの釣り人が利用しており、「釣堀状態」の時もある。子どもからお年寄りまで、対象もヘラブナからルアー釣り幅広い。ここで多くの人に釣りを楽しんでもらうことはとても良いことだと思う。

問題は、「ここではブラックバスが良く釣れるから」と言って来ている人がかなりいることである。オオクチバスの在来魚に対する影響力を考えると、やはり外来種の放流は謹むべきだろう。難しい問題だと思うが、その理解を求めた上で、多くの人が釣りを楽しめる空間にしていく方法を考えていきたい。

提案7「駐車スペース以外への車両乗り入れ禁止を徹底し、河原を気持ちよく利用できるようにしよう」

睦橋下流左岸には、福生南公園がある他、広い河原が広がっており、親子連れ等の遊び場として利用が多い場所である。また河原は、水遊び、バーベキューをはじめとして大勢の人が利用している。これには公園内、あるいは河原のすぐそばまで車が乗り入れられることとも関係が深い。これには賛否両論あるだろうが、一般の人の利用を考えると、この場所は駅から遠いことや、幼児を母親が川に連れ出すことができること等、車の果たすメリットも大きいだろう。ただ車をシャットアウトするのではなく、駐車場以外への乗り入れ禁止を徹底することはもちろん、歩行者の安全確保のために、河川敷内道路の制限速度を徹底し、ゴミの不法投棄をなくす努力が必要だと思う。

また広い河原は、洪水などの自然現象によって、変化・消失したとしても止むを得ないが、できれば定期的にゴミ拾いを行う等、いつまでも様々な利用者が気持ちよく利用できる空間であって欲しい。

提案8「通りにくい魚道は早く改善しよう」

日野用水堰の魚道の改善は既に決定しているようだが、この堰の魚道は大変貧弱である。下流の堰から改善する等、順序も含めて一刻も早く改善を求める。ただ、堰の上流部はさまざまな野鳥が見られることをはじめ、大変生態系の豊かな空間なので、影響を与えないように事業を進めることも重要だろう。

提案9「子どもたちの水遊び場を確保しよう」

八高線の鉄橋下は、河床に第3紀層の砂岩が露出して独特の景観になっており、水遊びをする子どもたちも大変多い。また、「アキシマクシラ」が発見されたのをはじめ、化石探しにくる学校も多く、総合学習の場としても興味深い場所である。ただ地形形状、遊びやすい反面、急に深くなっている場所もあり、「危険な」場所であるのも事実である。是非地域の人々が協力して、子どもたちを見守り、決して遊泳禁止等にならないようにして欲しい。

提案10「多摩川らしい生態系を保全しよう」

谷地川にある「ワンド」（多摩川に合流する数百メートル上流）は、多摩川の旧河道であろうか。この場所を知っている人には大変良い釣り場となっているようで、平日でも釣り人の姿が絶えない。対象もヘラブナからルアーまで様々である。1998年に手伝いで参加した魚類調査では、ジュズカケハゼやシマドジョウ、カマツカ等「多摩川らしい」魚類をはじめ、ヨシノボリ、ツチフキ、ギンブナ、ゲンゴロウブナ、コイ、ニゴイ、モツゴ、タモロコ、ウグイ、オイカワを確認し、ここが大変貴重な「生き物のオアシス」となっていることがわかった。一方でブルーギルも1個体採取された。これの他魚に及ぼす影響は皆さんご承知の通りである。何らかの対策を考えて、

是非この場所は「多摩川らしい生態系」を保全していてもらいたい。

また、この合流点一帯は、中州状に残された自然の宝庫で、藪や河原植物群落、河畔林、砂岩の露出した河床等、自然の様々な姿を見ることができ、ここが東京であることを忘れさせてくれる場所である。絶滅の危惧される生物を確認したこともある。この空間全体の生態系を守って欲しい。

提案 11 「秩序ある河川利用を心がけよう」

中央高速下左岸の河川敷には駐車場があり、付近の河原は釣りやディキャンプ、バーベキュー等の人で賑わっている。しかし、この駐車場は凸凹が激しく、常に大小のゴミが大量に捨てられており、非常に印象が悪い。また最近あまり見かけなくなったが、先日までは駐車場以外の河原への四駆車の乗り入れが目立った。人は不潔な感じのする所には次々にゴミを捨てる傾向がある。駐車場以外への車の乗り入れを禁止することはもちろんだが、駐車場内はある程度整地したり、付近の清掃活動を徹底したり、パトロールを強化する等、利用者のマナー向上に努めたい。

提案 12 「もっと川に親しみを持てるように工夫しよう」

四谷本宿用水堰は、多摩川が「魚がのぼりやすい川づくり推進モデル事業」のモデル河川に指定されてから、最初に魚道が新設された堰である。魚道をつくるからと言って堰やダムを肯定する考え方は問題だが、私もこの事業には賛成である。堰に看板を設置する等、もっと付近の住民や利用者に「魚が…事業」についてアピールした方が良いと思う。

また、堰の左岸には川遊びを禁止する看板が立てられている。確かに複雑な構造物が多く、水量も変化したり、あまり川遊びを勧められる場所ではないが、せめて「ここで遊ぶと危ない」程度のもので欲しい。

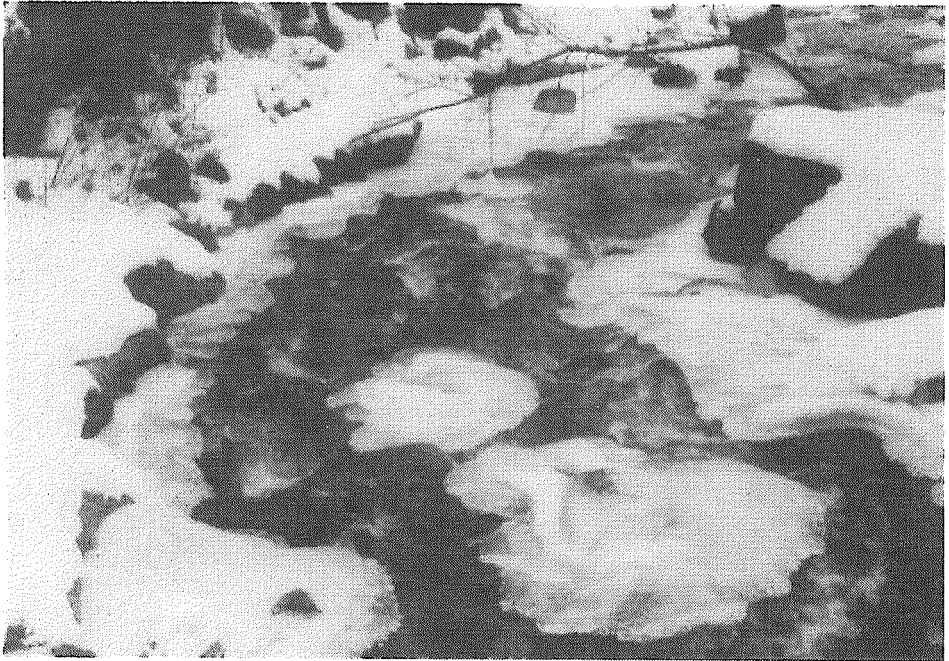
人が川から遠ざけられている感じを受けた。

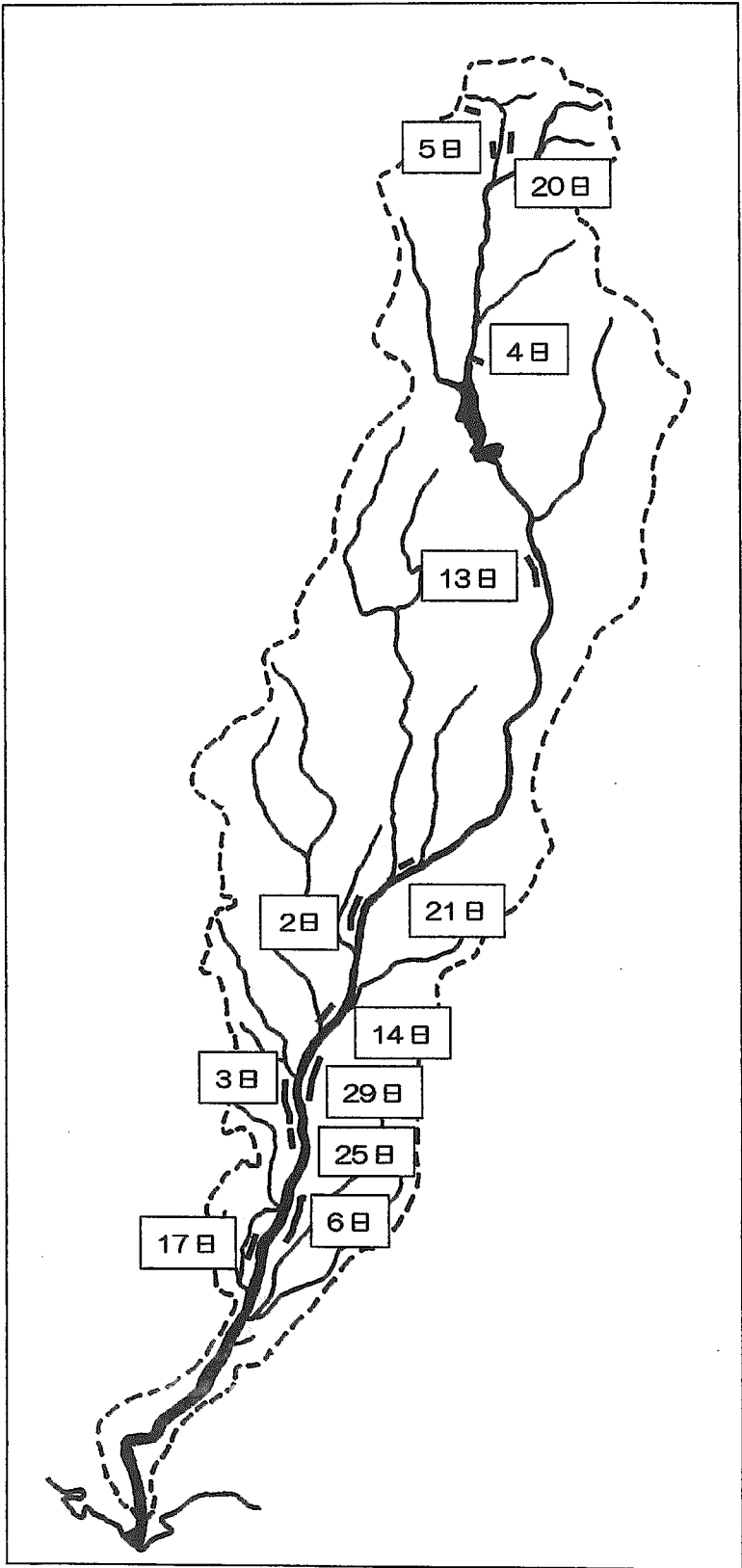
参考資料 2

『多摩川散策日記』から（2001年1月～3月分）

2001年1月より、子どもの川遊びの実態調査時を含め、多摩川を歩いたときには、観察記録や気付いたこと、感想などを写真を交えてメモにしている。

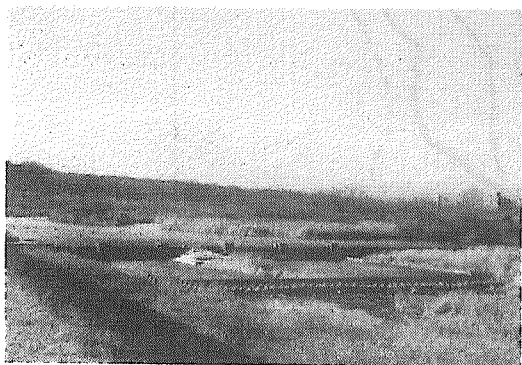
1 月
January





***1月2日 多摩大橋下流～日野用水堰上流
(43～46km 付近/右岸)**

よく晴れたものの風が強い日である。河川敷では、正月らしく凧を揚げている人がたくさんいる。多摩大橋下流の“釣り堀”には、今日も10人くらいの釣り人がいた。もう少し下流の谷地川には僕の大好きなワンドがある。多くの魚類が見られ、多摩川らしい生態系の残されているところなので、人工的にならないようにうまく保全していきたいと思う。橋をくぐって上流へ向かうと、モトクロス2台が唸りを上げている。思えば、ここに来たときに静かだったことなどほとんどない。付近には“BB弾”も散乱しており、サバイバルゲームも活発に行われているようだ。今日はラジコンとゴルフをしている人はいなかった。昨年度魚道が改善された昭和用水堰に続き、貧弱な日野用水堰の魚道も近々大改修されるそうだが、まだその気配はない。来年の渇水期に実施されるということだろう。



堰上流の眺めはいつ来ても素晴らしいが、土手が切れて杉林になる辺りは、先日まで静かな散歩道だったのに、驚いたことに付近の地面は重機に掘り返されており、

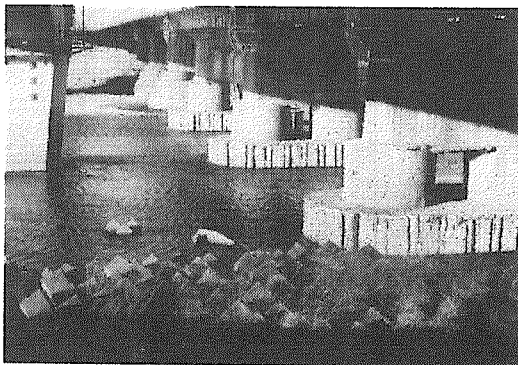


近くにあった竹林や、石河原もみな整地されてしまっていた。護岸工事でもするのか、それとも住宅地になるのか、非常に気がかりである。観察できた野鳥は、カイツブリ、カワウ、ダイサギ、トビ、キジバト、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ジョウビタキ、スズメ、カワラヒワ、ハシボソガラス。

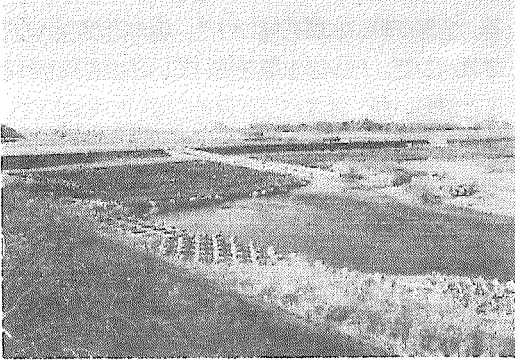


***1月3日 是政橋～大栗川合流点 (31～33km 付近/右岸)**

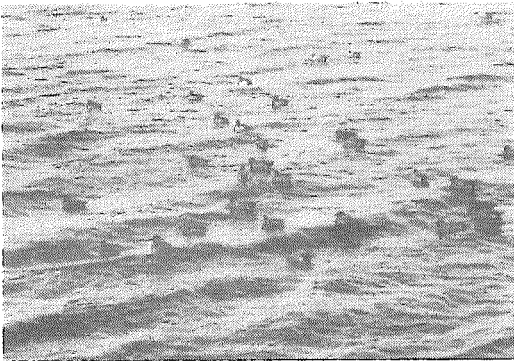
ずっと晴天が続き、夏よりは若干水量が少ない。是政橋から見る澤筋には石河原や砂利の中州が目立つ。斜張橋になった是政橋、道路照明の柱にセグロカモメ1羽。歩きなれた川沿いを上流に上っていくとツグミの姿が目立つ。南武線鉄橋の橋脚は基部まで露出しており、痛々しい。15年前と比べてもいまだに河床低下が進んでいるように思える。



大丸用水堰の魚道にはかなりの水が流れている。風がとても強いが、バードウォッチャー4～5名と出会う。チョウゲンボウがすぐ近くを飛びまわって、しばしば停空飛翔を見せ、みんなの目を楽しませてくれた。



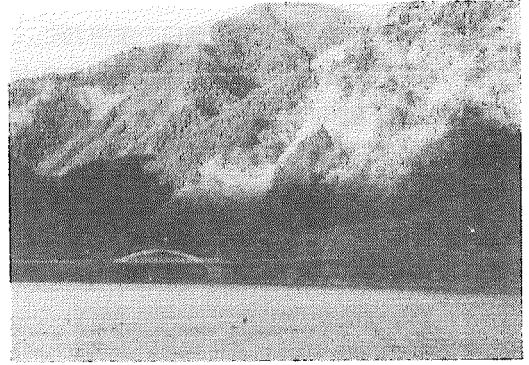
堰の上流部はいわゆる生態系保持空間になっている。僕がここへ通う（コイ釣り）でようになった1984年当時には、一大モトクロス地帯だったが、今はバイクが入れないように、幾重にも頑丈な柵がつけられている。それにしてもこの原野は広い。一面に広がるオギ原が枯れて、夏では近づけない水辺も歩くことができたが、冬ガモ類は堰のすぐ上流部に多かった。



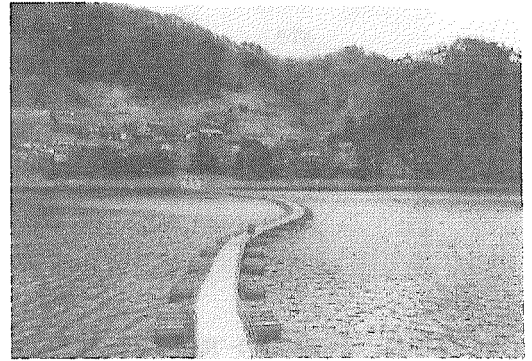
観察できた野鳥は、カワウ、コサギ、ダイサギ、アオサギ、マガモ、コガモ、カルガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、キンクロハジロ、トビ、チョウゲンボウ、セグロカモメ、ユリカモメ、セグロセキレイ、ツグミ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス。

*1月4日 奥多摩湖（100km 付近/留浦）

ルアーでサツキマスを狙いに行った。水位はほぼ満水状態であった。昨年の今ごろもそうだったが、2月、3月に一気に減水してしまったので、今年もこれからかなり減るのかもしれない。今日も風が強く、ロッドのガイドがすぐに凍り付いてしまう寒さで、小型のアマゴが1度追ってきたのみで釣果はゼロ。ここに来ると大抵見られるヤマセミの姿もない。

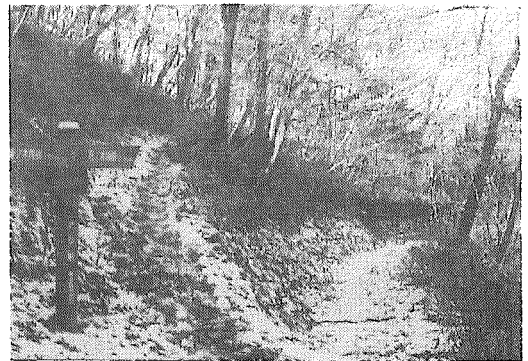


この奥多摩湖上流部はヤマメではなく、アマゴ、それも銀ピカの“サツキマス”が釣れるところなので、今後も注目していきたい。観察できた野鳥は、カワウ、トビ、セグロセキレイ。



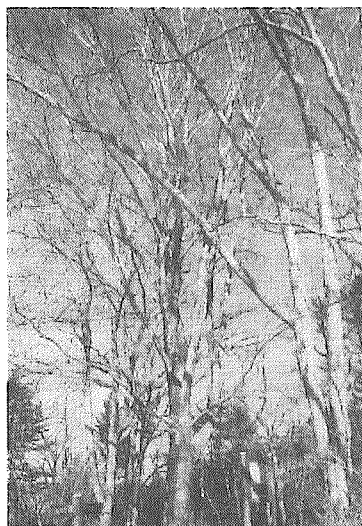
*1月5日 柳沢峠

峠付近の気温は日中でも -5°C 程度。年末頃降った雪が溶けずに残っている。雪上にシカの足跡を発見する。



あちこちにウラジロモミの枝先が落ちていた。枝ごと折れているのではなく、どれも先端5cmくらいなのは何故だろうか。帰りがけに多摩川源流観察会

の中村さんに教えていただいた膳棚の滝に寄った。まだ1月上旬であるが、ここ数日の寒さは厳しく、かなり凍結が進んでいた。ただ午後に行ったためか、氷が溶け出して水は若干濁っている。滝を見るなら、寒くてもやはり早朝に限る。カワガラスが1羽、溪流の水面ぎりぎりに飛んでいった。この鳥はここに1年中棲んでいるのだろうか。辺りは静まりかえって、他に生物の気配は感じられなかった。

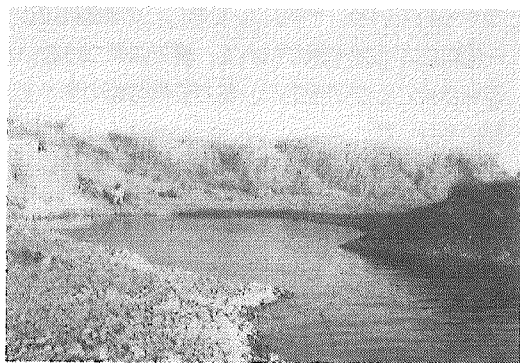


*1月6日 上河原堰上下流 (25~27km 付近/左岸)

休園中の調布市立プールには、十数羽のカルガモが来ている。1羽だけ変わったのがいたので、双眼鏡で見たらキンクロハジロだった。土手に出ると相変わらず人が多い。犬の散歩を筆頭に、ジョギング、サイクリング等々。堰上の送電線には、いつも数多くのカワウが止まっているが、今日は10羽程度である。やはり冬は少ないのだろうか。



中州には草木が生い茂り、大きなヤナギも育っている。全身が黒い水鳥を見つけた。嘴付近が白いのでオオバンだ。バンは水際を歩いているのを見かけることが多いが、オオバンを見るのはいつも泳いでいるところだ。堰上の湛水面は、僕の知る限り多摩川で一番の広さである。右岸にはボート屋もあるが、ここ数年は夏になるとボードセーリング(ウインドサーフィン)を楽しむ若者で賑わうようになった。僕の知人もそのひとりだが、彼が言うには、休みの日などに「今日はいいい風が吹いているな」と思ったときに、家から近いのですぐ行けるから良い、とのことである。堰下の“小ワンド”は99年夏の洪水で埋まってしまったが、今日見てみると再びワンド状のものができかかっていた。

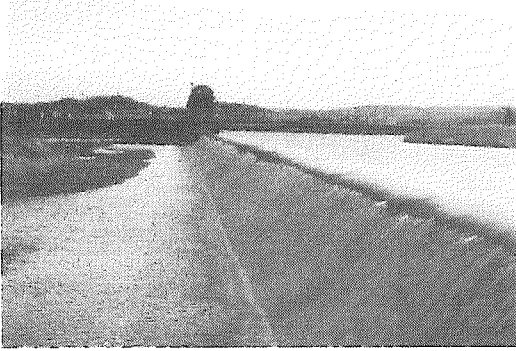


“大ワンド”には、相変わらずオオフサモが茂っているが、これは冬でも枯れないのだろうか。それとも水質によるものなのか。ワンドの上流側には今日も少量ではあるが、湧水が枯れずに出ている。



本流の水量は少なめで、石河原の中州があちこちにかけている。イカルチドリや、もっと上流部に多いキセキレイも観察できた。夕方、上河原堰の落差を水が白く流れ落ちる様子は美しい。

観察できた野鳥は、カイツブリ、カワウ、アオサギ、カルガモ、キンクロハジロ、オオバン、イカルチドリ、ユリカモメ、ドバト、ハクセキレイ、セグロセキレイ、キセキレイ、ツグミ、スズメ。



*1月7日 谷保天満宮

新年も7日にもなると、初詣の人は少ない。境内の梅林では、早咲きの梅がもう咲き始めていた。2月下旬になると、谷保駅前の寒桜も見事である。国立駅まで歩いて帰る途中雪が降り出し、夜にかけて多摩地域でも5cm程度の積雪となった。

*1月10日 多摩川市民フォーラム運営委員会

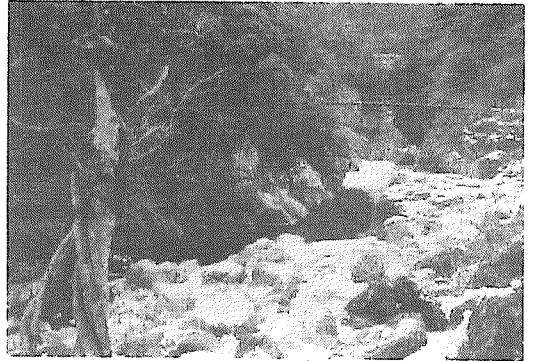
二ヶ領せせらぎ館で多摩川市民フォーラムの運営委員会が行われた。1月9日に行われた第4回多摩川流域委員会の成果を踏まえて、市民行動計画をどう肉付けしていくのか、また1月28日の第8回多摩川流域セミナーに向けた作業について話し合われた。

*1月11日 多摩川市民フォーラム第3「いきもの・学習」研究会

二ヶ領せせらぎ館で、多摩川市民フォーラムの第3研究会が開かれた。市民行動計画づくりの中で、生態系や総合学習などのテーマについて議論する目的で発足した研究会だが、市民行動計画をつくった後も活動を継続していくことが確認された。2001年3月までは、とりあえず生き物について取り組んで、成果をまとめること、4月以降には学習面を充実させていくことが決まった。

*1月13日 鳩ノ巣溪谷(79~81km付近/右岸)

昨年の秋に京浜工事事務所から、白丸ダムの特設トンネル魚道に試験通水を始めるとの連絡があり、遅ればせながらも見てきた。釣り橋の鳩ノ巣小橋を渡って溪谷沿いの遊歩道に入るが、ほとんどのところで、7日に降った雪がまだ5~6cmほど残っていた。

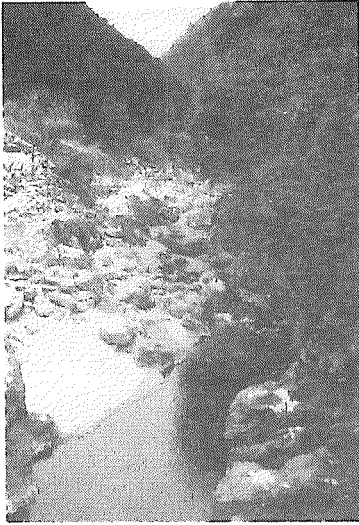


中途半端に溶けたところは凍結していて、かえって歩きにくかった。上流と下流にある大きな岩に挟まれた淵には、おびたしい数のウグイが群れて、冬を越している。問題の魚道は、まだまだ工事中で、ダムの上にも立ち入れず、完成時の全貌を想像するのは厳しかったが、人工の巨大なコンクリート壁を魚が上り下りできるようになるのは喜ばしいことである。ただ、30mもの落差に長い階段式の魚道がつくられて、水が流れ落ちている様子は、周辺の岩肌がまだ荒削りなこともあるだろうが、異様な光景でもある。

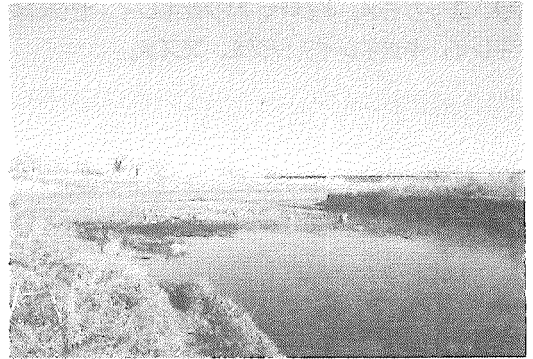


鳩ノ巣の北側から流れ込む西川ではゲンジボタルの保護(増殖?)をしていて、毎年6月下旬ころには、光の飛び交う様子を見ることができる。観察できた野鳥は、トビ、コゲラ、セグロセキレイ、キセ

キレイ、ヒヨドリ、カワガラス、シジュウカラ、ハシブトガラス。



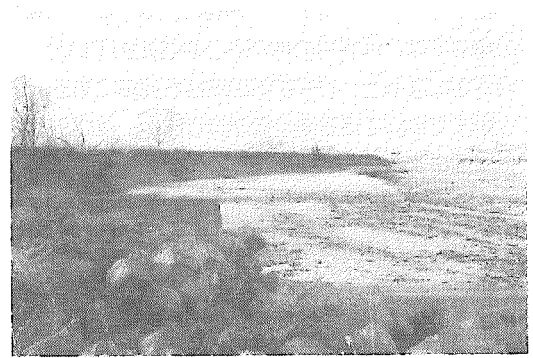
ができるし、冬ならではの野鳥に出会うこともできる。



四ッ谷下堰跡にはコンクリートの堰堤やブロック、捨て石などが残っている。その上流側（右岸）は、数百mにわたってかなりの洗掘を受けており、5~6mもの落差ができています。

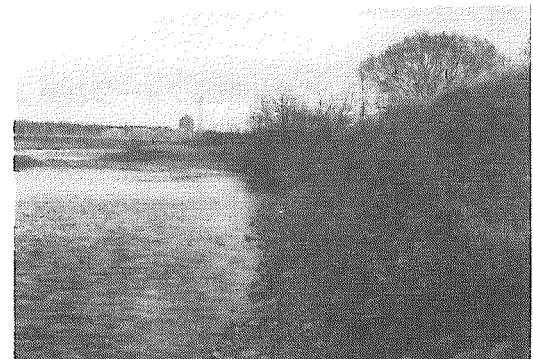
*1月14日 浅川合流点上流(37~38km 付近/右岸)

浅川下流部の「災害復旧」工事は、昨年10月に行った時には一休み中であったが、今は大掛かりに進められている。



99年夏の洪水によるものだろうか。治水のことは良くわからないが、実際に四ッ谷下堰跡が洪水時に流れの阻害となっているのかどうか気になった。

今日も日曜であるにも関わらず大忙しといった感じである。根川合流点付近にも重機が入ったのか、河床が平らに整地されたように思える。現在、浅川の滞筋は程久保川と合流して多摩川に流れ込んでいるが、数年前までは根川側に流れていた。洪水がくるとまた流れが変わるかもしれないので、その対策だろう。カワラヨモギの白っぽい葉がもう出始めていた。冬の河原は風が冷たくてなかなか厳しいが、他の季節にはオギやヨシなどが茂っていて、入ることのできない藪の中や、水際を歩いて観察すること



河原植物の多く見られる(カワラノギは見つからず)草原では、今日も20人近くがサバイバルゲームをしている。やはり彼らも自然度の高い原野のよ

うなところで遊ぶ方が面白いのだろう。クリーンセンター前の堤防下にある水溜りは干からびていた。昨年は春から秋までずっと水があり、アメリカザリガニやギンブナなどが観察され、それを狙ってカワセミやアオサギも来ていた。今年も春になると水が溜まるのだろうか。注意して見守っていきたい。観察できた野鳥は、カワウ、コサギ、ダイサギ、アオサギ、イカルチドリ、セグロカモメ、ユリカモメ、キジバト、ハクセキレイ、セグロセキレイ、キセキレイ、ヒヨドリ、ツグミ、ホオジロ、シジュウカラ、ハシブトガラス。

*1月15日 東久留米／多摩川流域懇談会 第16回運営委員会

この冬一番の寒さ。早朝には温度計が-6℃を指していた。

二ヶ領せせらぎ館で多摩川流域懇談会の運営委員会が行われた。話し合われたのは、第8回多摩川流域セミナーの内容や進行に関する事が中心だったが、今後多摩川流域懇談会でやりたいことも提案され、建設的な会議になったと思う。

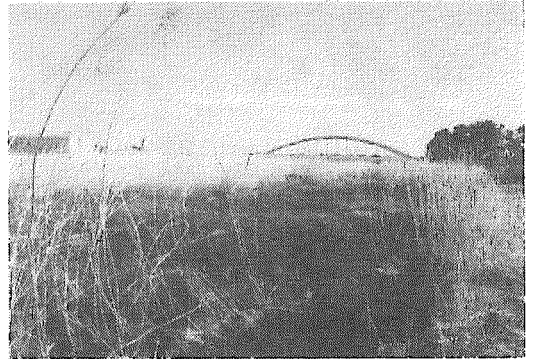
*1月17日 多摩水道橋上流(23~24km 付近/右岸)

15日の夕方、登戸での会議に行くときに、多摩水道橋上流(右岸)の河川敷に火が見え、消防車が何台も来ていた。今日ちょうど世田谷に用事があったので、帰りがけに寄ってみた。



橋上流のちょっとした松林の辺りだと思ったが、しばらく探してもそれらしい跡はなかった。松林の上流には、ホームレスが大勢住んでおり、彼らの一人に聞いてみると、丁寧に教えてくれた。藪が燃えて

しまい、しかも放火らしいと言うのだ。現場はそこから2~3分上流に行ったところで、水際の藪が50m(上下流)×20m(幅)ほど黒焦げになっていた。幸い大きな山火事にはならず済んだようだが、もし人家や道路から離れた広大なヨシ原などに火がついたらと思うとぞっとする。冬で空気も乾燥しているので、大変心配である。



この辺りの河川敷は、企業や学校の占用するグラウンドがずっと続いていて、堤防上を歩いても面白いものは何も無い。今日は時間がなくて行けなかったが、水際まで行くと親水護岸があったり、さらに上流の“上河原ワンド”の対岸辺りには、溜まりや水制などがあって、広大な河原も広がっている。水の流れもしょっちゅう変わっているようだし、サバイバルゲームやラジコンヘリ愛好者などもいて、興味の尽きない場所である。観察できた野鳥は、カイツブリ、カワウ、コサギ、マガモ、コガモ、オナカガモ、トビ、ハクセキレイ、ツグミ、カワラヒワ、ハシブトガラス。

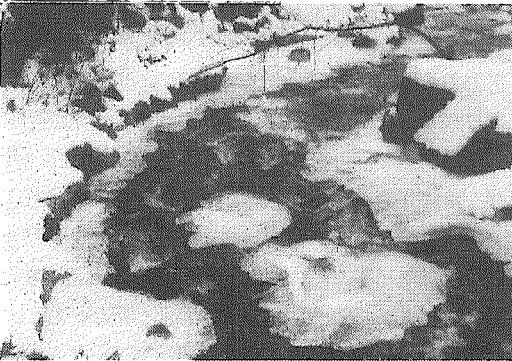
*1月20日 柳沢川

この1週間の寒波は、ここ数年で記録的なものとなった。氷の花を見に早朝から源流に出掛けた。奥多摩湖も、鴨沢辺りから上流のバックウォーター部分には氷が張りつめていて、水面が見えない。今月4日に来てからまだ2週間しか経っていないのに、もう2~3mは水位が下がっている。関東の山は雪は少ないが、日陰はすぐ凍結路になるので、車はスタッドレスタイヤにしてあるものの気は抜けない。昨年の11月に一之瀬に出掛けたときにも、思わぬところが凍結していて、気が付いたときには崖に突っ込んでいた。源流部の林の中には、15cm程度の

積雪が残っていた。柳沢渓谷の膳棚の滝は、完全凍結とまではいかないものの、落差部分には氷のカーテンができています。



沢の兩岸に張りつめた氷の幕と、付近の岩にできている氷柱がまた何ともいい。

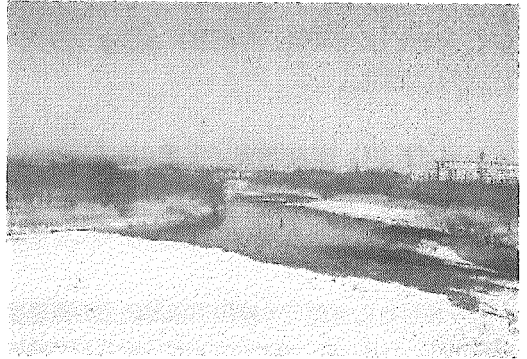


この落合付近は、白樺の林が目につく。植林されたものかもしれないが、冬枯れの姿も、雪のような白さが青空に映えて美しい。東京ではこの日も夕方から雪が降り出し、翌朝にかけて僕の住んでいる東久留米では5cmほどの積雪となった。観察できた野鳥は、ツグミ、ホオジロ、カケス。

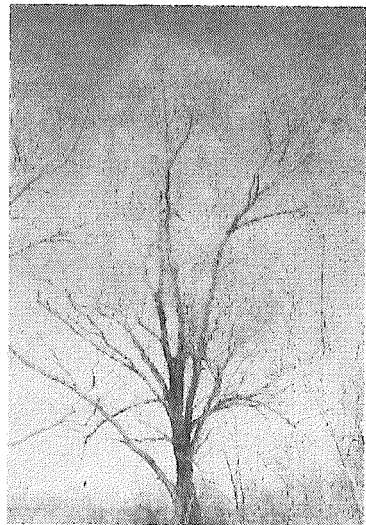


*1月21日 陸橋付近(49~50km 付近)

早朝家の前の雪かきをしたら、少し凍りついていて固かったが、日中は穏やかに晴れて暖かな陽気になったので、1日でほとんど溶けてしまった。さて、朝から車で秋川方面に出掛けた。途中陸橋から見た多摩川の雪景色が美しかったので、橋の上から観察をしていると、カワセミやオオタカまで飛んできたので、周辺で野鳥観察をすることにした。

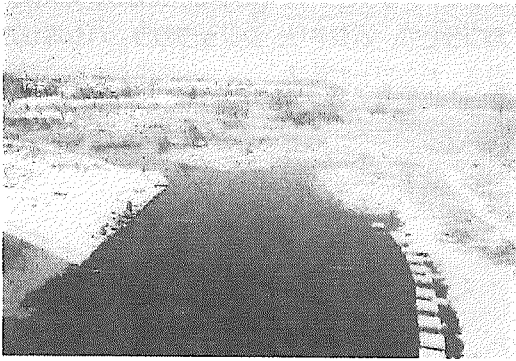


ここは年末に多摩川の自然を守る会の観察会で来たばかりだが、雪化粧をした河川敷は新鮮だった。良く晴れて気温が上がってきたためか、多くの野鳥に会うことができた。



陸橋下の砂利河原(右岸)にどこから入ってきたものか、1台のオフロード4WD車が突っ込んできて、ドリフトを楽しんでいた。観察できた野鳥は、カワウ、コサギ、ダイサギ、アオサギ、マガモ、トビ、オオタカ、ユリカモメ、キジバト、カワセミ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ウグイス、ツグミ、ジョウ

ビタキ、アオジ、スズメ、カワラヒワ、ムクドリ、シジウカラ、ハシボソガラス。



*1月25日 是政橋下流(31km 付近/右岸)

心配していたことが、早くも現実になってしまった。今朝の新聞(朝日新聞/多摩)に、多摩川河川敷で火災があって、ホームレスの男性が焼死したとの記事を見つけ、すぐに確認に出掛けた。現場は是政橋から200mほど下流右岸の河川敷で、ホームレスの小屋(跡)を中心に枯れ野原が焼けていた。



皮肉なことに、ちょうど国土交通省事務所出張所の前である。焼けた面積自体は1月15日の多摩水道橋上流右岸の火災よりも狭く、20m×30m程度であったが、ホームレスの人が使用していた火が小屋に移り、逃げ遅れて焼け死んでしまったということである。焼け跡には、彼が拾ってきたと思われる弁当や雑誌などがそのまま残されていて、生活の様子がリアルに想像された。1月に入ってから大変寒く、川辺は風も強いので、河川敷の住人たちはさぞかし大変なことだろう。この是政橋付近では、数年前までホームレスの姿を見かけることはほとんどなか

ったのに、今では橋の上から見ただけでも、20戸ほどの小屋やテントが確認できる。人数の急増だけではなく、増水時に流されたり、河川敷や中州に取り残されてしまう人がいたり、河川管理者が川から追い出しても、都市の公園などに移動してしまって解決にはならないなど、ホームレス問題は、最近の多摩川で非常に大きな課題となっている。観察できた野鳥は、カワウ、コサギ、トビ、ユリカモメ、ヒバリ、ヒヨドリ、ツグミ、ホオジロ、アオジ、スズメ、カワラヒワ、ムクドリ、シジウカラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス。



*1月27日 国分寺他

それにしてもこの冬は雪が多い。最近の東京では年に1回も積もらないこともあるというのに。未明から雪が舞い出し、日中には風も強まって吹雪模様。夕方まで降り続き、多摩地区でも20cm近く降り積もった。

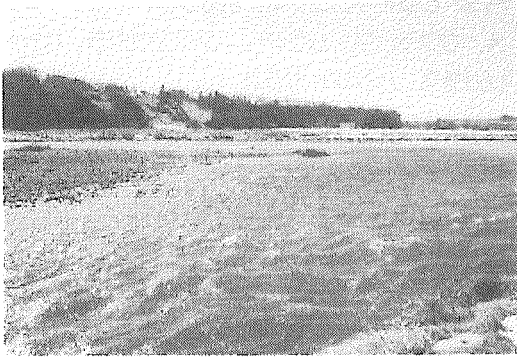
*1月28日 第8回多摩川流域セミナー

多摩川流域懇談会の主催により、第8回多摩川流域セミナーが東京農業大学・グリーンアカデミーホールで開催された。京浜工事事務所から「多摩川水系河川整備計画(計画原案)」について、前回のセミナーからの変更点を中心に紹介があり、多摩川市民フォーラムからは「市民行動計画」の位置付けや役割についての提案がされた。後半のディスカッションでは、スーパー堤防や緊急河川敷道路などについて活発な意見交換がされたが、河川整備計画策定後の見直しや、流域懇談会の今後の進め方についての議論は不十分であったと思う。次回の第9回セミナーでは、「これから」に向けてさまざまな提案が

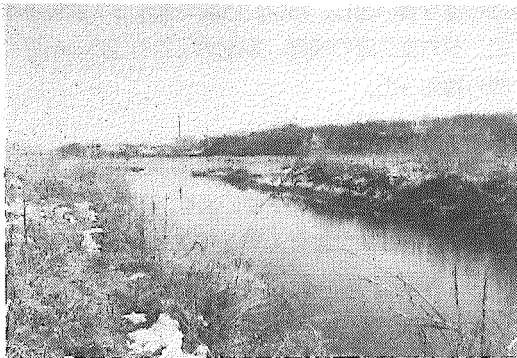
されることを期待したい。

*1月29日 大丸用水堰～京王線鉄橋(32～35km 付近/左岸)

多摩川は27日の雪解けのためか、この時期としては水量が多く、やや濁りも入っている。川の流れは、空石積護岸の切れる上流で府中市側と多摩市側の2つに大きく分かれている。



瀬と淵がきれいに分かれている場所で、中州は下流に行くにしたがって石河原から手付かずの原野へと変わっていく。何度来ても見飽きることのない風景だ。読売新聞社の前には、以前から自然のフンドがあって、99年の洪水後も残った。釣り人に占領されることもなく、心安らぐ場所である。今日もオイカワの幼魚が群れで泳いでいた。



関戸橋では、橋脚の耐震補強工事と災害復旧目的の護岸工事が行われており、対岸(右岸)でも、京王線鉄橋の上流で大掛かりな護岸工事が行われている。河川敷のかかなりのスペースが、ブロック等の資材置き場や関係車両の通行用に区切られており、流れも大きく変えられているようだった。観察できた野鳥は、カイツブリ、カワウ、コガモ、カルガモ、

トビ、イカルチドリ、ユリカモメ、ドバト、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、セッカ、ツグミ、ジョウビタキ、ホオジロ、アオジ、スズメ、カワラヒワ、ムクドリ、シジュウカラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス。

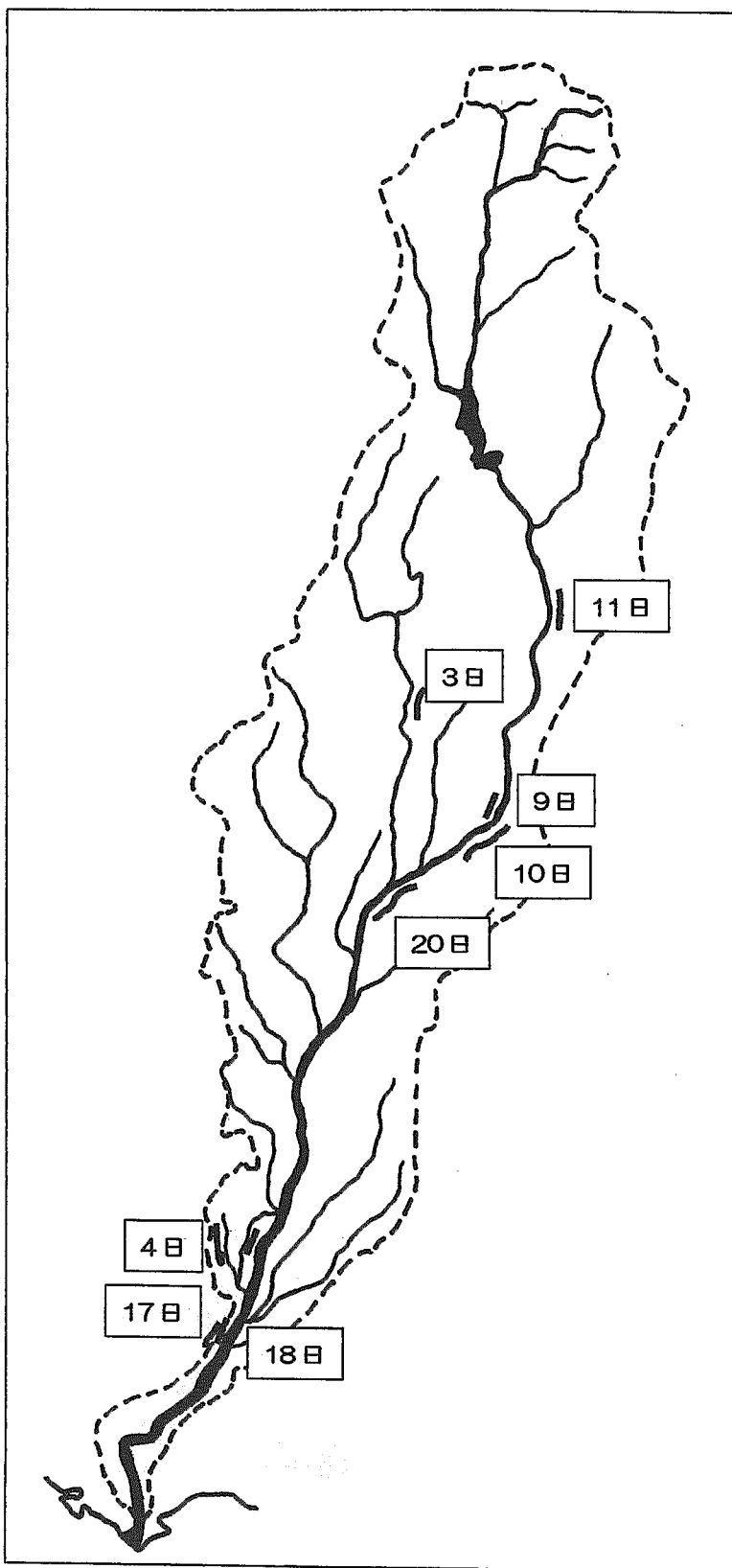


*1月30日 第3回水網緑網都市会議

みずとみどり研究会と多摩川センターの共催により、「玉川上水緊急通水検討会」が開催された。震災時に玉川上水に自然水を流して、防火用水や生活用水として利用できるようにしようというものである。市民からだけでなく、東京消防庁や東京都水道局からも積極的な提案がされた。阪神大震災の教訓もあり、防災という視点は、市民と行政とのパートナーシップを形成するきっかけとして、最適なテーマだと思う。いわゆる「清流復活事業」として、1984年に野火止用水、86年に玉川上水に処理水が流されるようになったこととも関係が深い。都民(僕もそのひとり)の水道水源の確保を考えると難しい問題には違いないが、理想は高く掲げて、ぜひとも本当の清流を復活させたいものだ。

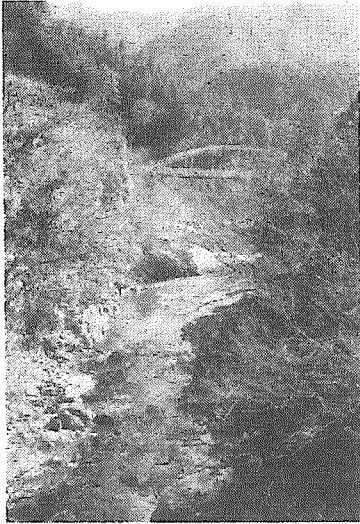
2 月
February





*2月3日 秋川(沢戸橋~十里木)

秋川は多摩川最大の支流だが、全川が東京都の管理委任区間になっていて、これまで多摩川流域懇談会などでは、浅川と比べて取り上げられることが少なかった。多摩川本流の上流部は谷が深く、切り立った地形のところが多いのに対して、秋川は開けた場所が多く、河原が広がり、キャンプ場も多数ある。水質も良く、夏は水遊びの天国となっている。しかし、僕が小学生の頃にオイカワやウグイが群れていた淵は、改修工事によってなくなり、河原にバーベキューランドのようなものが整備されたり、魚が上れそうもない堰や魚道が多数あったりと、目の離せない川でもある。沢戸橋付近からは城山が良く眺められる。



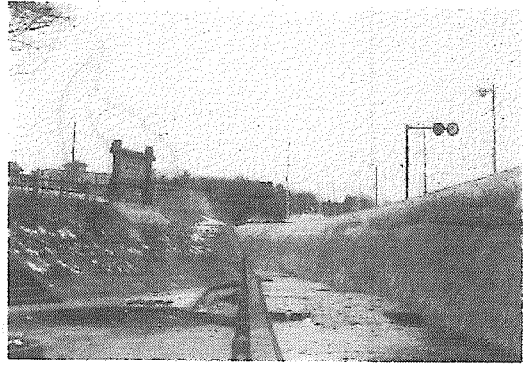
西秋川橋の脇から小道に入るが、ヒノキとスギがうっそうと茂っていて薄暗い。以前3月に来た時には、花粉の飛散がすごく、目も開けられない状態であった。



道の両側に寄せられた雪は、30~40cmの高さで続いている。有用樹として栽培されているものか、桐の木も目立つ。十里木の料理屋の横には小橋が掛けられていて、以前は河原へ下りる良いルートになっていたのだが、関係者以外の利用はできないようにされていた。落合橋の下では、冷たい川の水で洗い物をする人の姿もあった。観察できた野鳥は、トビ、キジバト、コゲラ、ヒヨドリ、ジョウビタキ、ホオジロ、カワラヒワ、シジウカラ、ハシボロガラス。

*2月4日 平瀬川(宮前区)

平瀬川流域まちづくり協議会、川崎・水と緑のネットワーク、多摩川市民フォーラムの3者が共催して、多摩川市民アクションPart11が多摩川下流部の支川、平瀬川で行われた。



午前中のフィールドワークは、川崎市宮前区の平4丁目公園から、生田緑地内のとんもり谷戸、蔵敷親水公園、水源の森などを、平瀬川流域まちづくり協議会のメンバーに案内していただいた。



歩いた距離は2km強であったが、両岸が切り立ったコンクリート護岸、谷戸地形、湧水、親水施設、

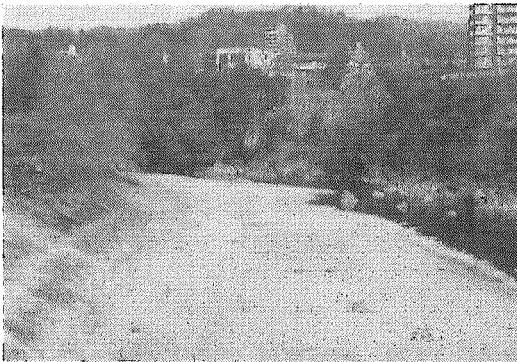
水源、里山管理など、残したい面と改善したい面の両方がぎっしりと詰まった地区であった。午後の意見交換でも、生物、水量、水質、河川構造、バリアフリー化、環境学習、水源保護などさまざまなテーマで話が盛り上がった。



観察できた野鳥は、マガモ、コガモ、カルガモ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、キセキレイ、ヒヨドリ、ツグミ、スズメ、ハシボロガラス。

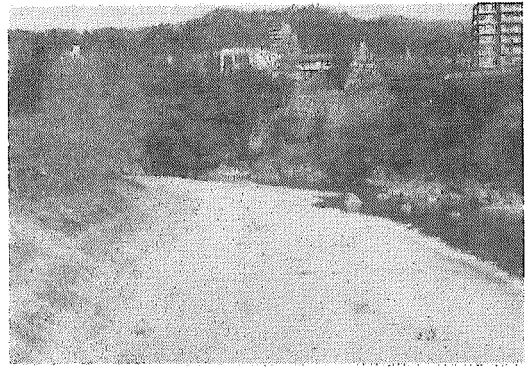
*2月9日 下奥多摩橋～鮎美橋(59～61km 付近/右岸)

青梅付近の多摩川を、多摩川の自然を守る会の柴田さんに案内していただいた。鮎美橋は橋梁塗装中。



釜の淵公園下流には大きな岩が多く、いくつも乗り越えて進むが、あとちょっとで石河原に出られるところで行く手をはばまれた。引き返す途中、崖を強行突破したら思いのほか急だった。調布橋の下流には京浜工事事務所の水位観測所があった。多摩川もこの辺まで来ると、川沿いに歩ける場所は限られてしまうので、どうしても車道を歩きながら河原に下りられるところを探さることになってしまう。数年前に下奥多摩橋脇にマンションが建設されたことで、

右岸沿いの林や藪はほとんど切り開かれ、すっかり殺風景になってしまった。



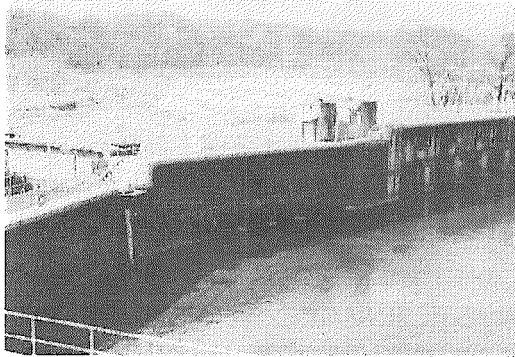
この付近は僕にとっても思い出深い場所で、橋下の岩から淵に飛び込んだことや、夏休みに釣りに出掛けると、決まって夕立にあったことなどが思い出される。



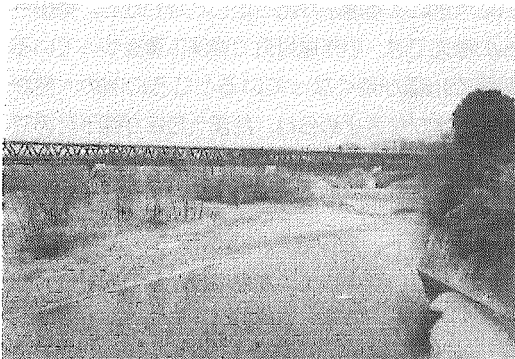
今日とても気になったことは、歩いた区間すべてで水が異常に汚れていて、下水のような悪臭がずっとしていたことである。河原の様子から、数週前くらいに汚水による増水があったことがわかる。柴田さんの考えでは、小作堰付近で浚渫工事をやっている関係で川幅が狭くなっているところに例の大雪が降って水がせき止められ、たまった水が腐ったのではないかということである。僕が確認できた野鳥は、カワウ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、トビ、キジバト、カワセミ、コゲラ(声)、ハクセキレイ、セグロセキレイ、キセキレイ、ヒヨドリ、ツグミ、ジョウビタキ、ホオジロ、カシラダカ、スズメ、カワラヒワ、メジロ。

*2月10日 羽村堰～下奥多摩橋(54～59km 付近/左岸)

多摩川沿いには梅の香りが漂い、春を感じさせるようになってきた。一方スギ花粉の飛散も始まっているようで、僕にとっては、外出すると頭の重くなる季節でもある。昨日の汚水の原因が気になるが、羽村堰付近の水は非常に澄んでいる。



宮下運動公園前の河原は、バーベキュー広場と化しており、あちこちで石の籠が焼け焦げている。阿蘇神社の脇を流れる羽用水の余水吐を渡り、冬でなければ入ることのできなさそうな中州を歩く。小作堰が近くなったところで、用水に小橋が掛かっている。これで引き返さなくても大丈夫だ。小作堰下流の中州は、今年の6月に来たときには、浚渫工事で直線的にカットされていて不自然な眺めだったが、今日見ると風景になじんできている。砂利が自然に堆積したようだ。多摩川橋のすぐ上流には友田水管橋が掛かっている。これまでこのところ水は澄んでいる。その300mほど上流で、圏央道の工事が大掛かりに進められており、青梅市運動公園の前からその上流側に出た。



すると、汚水が流れた形跡があることに気付いた。そこから上流に歩いていくにつれ、水際の石の汚れが目立ち、悪臭も強くなってきた。どうやら汚水の

原因はこの付近にありそうである。今日歩いて見た限りでは、この付近で浚渫をしている様子はなかったが、ある地点より上流側で水が汚れているということは、柴田さんの言うように、たまった水が腐ったのかもしれない。この周辺には、最近建てられた「リバーサイドマンション」がずらりと並んでいる。運動公園の上流は、すばらしく広い石河原で、素人目には河原植物がたくさんありそうに思える。暖かくなったらまた来てみよう。

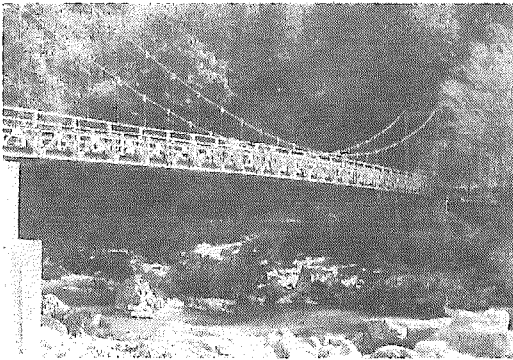
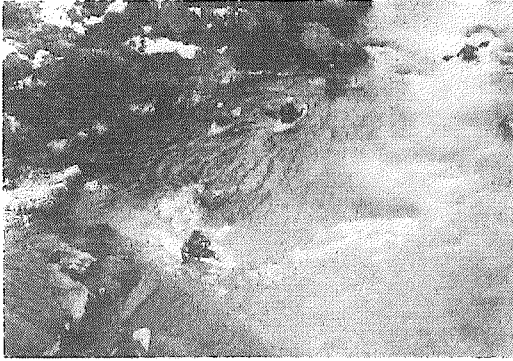


キササゲの群落を見たり、野鳥の群れを観察しながら河原を1kmほど歩くと、流れが崖にぶつかって通れなくなった。戻るには竈だと崖を攀じ登ると、途中で滑って土だらけになってしまった。住宅街に出てさらに1kmほど行くと、昨日も来た下奥多摩橋の脇に出た。観察できた野鳥は、カワウ、コサギ、ダイサギ、アオサギ、マガモ、キンクロハジロ、トビ、キジバト、カワセミ、コゲラ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、ジョウビタキ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、スズメ、カワラヒワ、ムクドリ、シジュウカラ、ハシボソガラス。

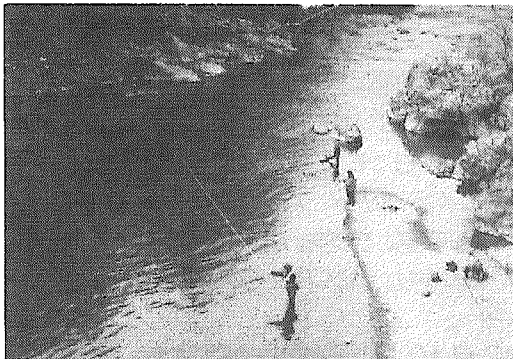
*2月11日 御岳溪谷(70~72km付近)

ここには20年近く前から毎年訪れているが、冬に来たのは初めてである。沢井駅前の櫛橋(釣橋)から、右岸側の遊歩道を上流に向かって歩いていく。厳冬であるというのに、カヌーを楽しむ人がたくさんいる。御岳小橋手前で川に張り出しているテラスは通行できなくなっていたので、鵜の瀬橋を渡って、反対側を歩く。左岸側は茶店などが多く、日も当たっていて、散策している人も多い。釣り人も数人いたので、何を狙っているのか聞いてみると寒バヤだ

ということだ（ヤマメやマスは禁漁中）。



ここまで来ても汚水が流れた形跡があり、水際の河原は汚れていた。また、観光地であるにもかかわらず、ゴミはほとんど落ちておらず、何箇所かあるトイレもきれいに保たれていて喜ばしい。



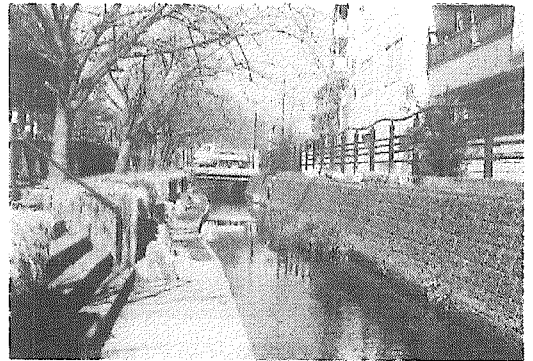
観察できた野鳥は、マガモ、カルガモ、トビ、キジバト、コゲラ（声）、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ツグミ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、スズメ、カワラヒワ、シジュウカラ、ハシボソガラス。

*2月16日 多摩川市民フォーラム第3 「いきもの・学習」研究会

「多摩川市民行動計画」のテーマ別行動計画に生物について盛り込むにあたり、課題の整理だけではなく、これまでに議論した成果をもとに、今後の取り組みのガイドラインも出そうということになった。

*2月17日 ニヶ領用水（中原区）／宿河原堰付近（22～23km 付近/右岸）

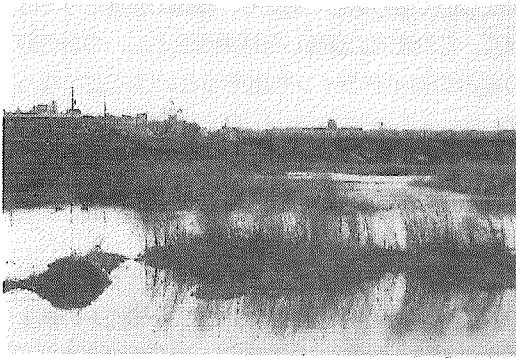
ニヶ領用水の下流部（川崎市中原区）で多摩川市民アクションPart12が行われ、ニヶ領用水の再生を考える市民の会とニヶ領用水・中原桃の会の方に現地案内をしていただいた。桜や桃をはじめ、さまざまな草木が両岸に植えられ、空き缶などのゴミは少ない。



水量、水質はまだ満足とは言えないものの、ニヶ領用水が地域の住民に愛され、親しまれていることが良くわかった。代表的な意見や提案は次のとおり。①もっと水を流して欲しい。②多摩川から取水した水はきれいにして多摩川に戻したい（ニヶ領用水は現在平間で下水道に落ちている）。③ニヶ領用水を軸にしたまちづくりを考えたい。④ニヶ領用水の歴史を子どもたちに伝えていきたい。⑤ニヶ領用水沿いに桃や桜の並木を続けて地域の市民で守っていきたい。

その後、夕方から登戸で用事があり、それまでの時間、宿河原堰付近（右岸）の観察をした。堰上流の低水敷には、水たまりが多数あり、湿地状になっている。水は夏の間しかないだろうと思っていたが、冬になっても枯れる気配はない。水たまりと本川との間のカゴマット上の覆土は流失しており（99年夏の洪水の影響だろう）、本川の水際には巨石護岸が続いているので、水は地下でつながっているのか

もしれない。



面白い空間だと思うが、地元の住民はどう感じているのか興味深い。今後の推移を見守っていききたい。

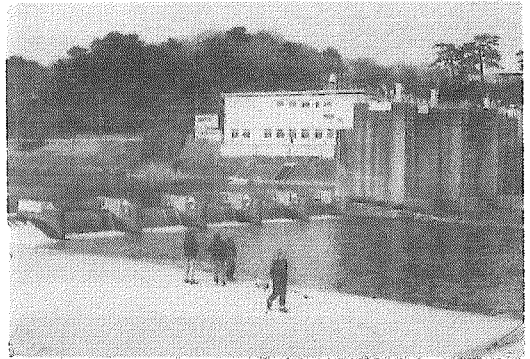


堰下は夏と比べてかなり減水していて、河床の岩盤がかなり露出しており、普通の長靴でも対岸まで渡れそうに見えた。観察できた野鳥は、カイツブリ(宿)、カワウ(宿)、コサギ、アオサギ(宿)、コガモ(宿)、カルガモ、ヒドリガモ(宿)、オナガガモ(宿)、トビ(宿)、セグロカモメ(宿)、キジバト(二)、ドバト(二)、ヒメアマツバメ(宿)、ハクセキレイ(二)、キセキレイ(二)、タヒバリ(宿)、ヒヨドリ(二)、ツグミ、アオジ(宿)、スズメ(二)、ハシブトガラス。

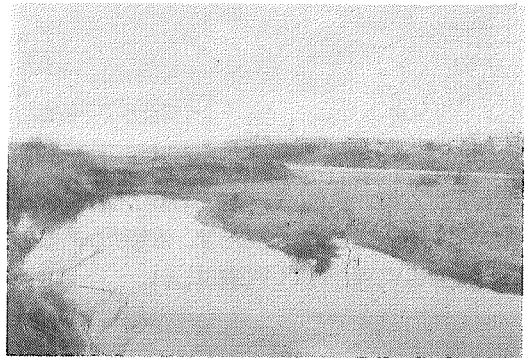
*2月18日 丸子橋～等々力(13～15km 付近/右岸)

調布取水堰付近には30人ほどの釣り人がおり、コイ釣りのほか、ルアーを投げている人も目立つ。聞けばオオクチバスの穴場だとか。上流に向かって歩いていくと、川は大きくカーブしている。この辺の河川敷には犬や猫を飼っているホームレスが多い。等々力緑地の前まで来ると、大きな中州が広が

り、右岸側の河道はワンド状になっている。“魚らん池・魚らん川”も復元され、自然豊かなところである。



昨夏に来たときには、ヨシ原が一面に広がっていて、とても水辺に近づける状態ではなかったが、今日は魚らん川と本川の間を歩きながら、地形やカモなどを観察することができた。



観察できた野鳥は、カワウ、コサギ、ダイサギ、アオサギ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、ハシビロガモ、キジ、セグロカモメ、ユリカモメ、キジバト、ドバト、ヒメアマツバメ、ハクセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、アオジ、スズメ、カワラヒワ、ムクドリ、ハシブトガラス。

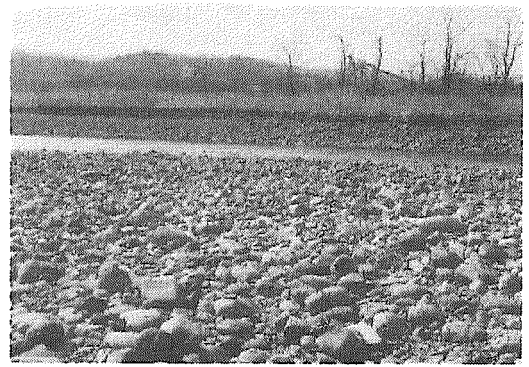
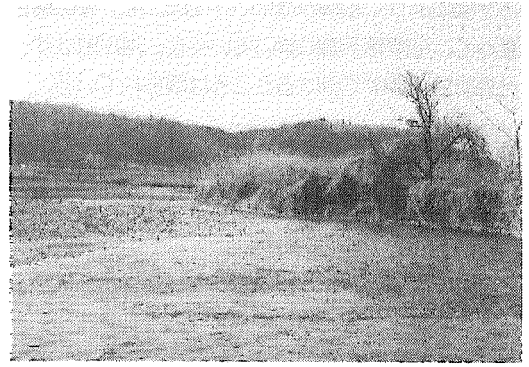
*2月19日 多摩川流域懇談会・浅川部会運営委員会

浅川流域市民フォーラムと、京浜工事事務所、東京都、八王子市、日野市によって多摩川流域懇談会・浅川部会運営委員会が行われ、筆者は見学者として参加した。浅川をはじめ支川には東京都の管理部分が多く、今後は直轄区間外の河川整備計画づくりが多摩川流域懇談会の大きなテーマになること

は間違いない。話し合いを有意義なものにするためには、参加者全員が日頃からやりたいことをイメージしておくことが重要だと感じた。

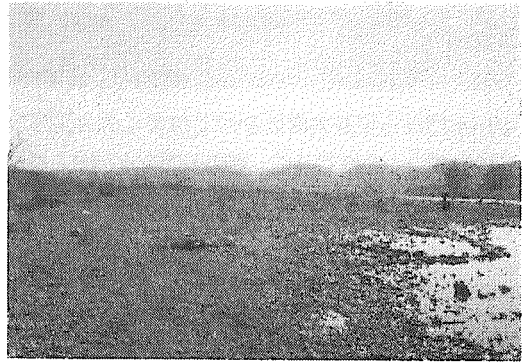
*2月20日 拝島橋～睦橋（46～49km 付近/左岸）

2年前には、拝島橋上流左岸に副流路があって、ヘラ釣りの人も見かけたが、今は水が枯れて砂利河原になっていた。300mほど上流の右岸は洗掘を受けて崖状になっており、木の根が露出している。水道橋前の第三期露頭ではアオサギの群れが休んでいる。



拝島第四小学校前の排水溝には工事用の仮橋が掛けられていた。昭和水堰までの水辺は、あちこちで湧水が染み出していて、いつもじめじめしている。堰では工事をしていて、ハンマードリルのついた車両がコンクリートの堰堤を削っていた。ここから福生南公園前にかけては、非常に広い石河原となっているのだが、水鳥公園横の小橋を渡って、大きくまわりこまないとアクセスできない。河原に出て堰まで戻ると、かつての滞筋がよくわかる。秋川の合流点は、今は堰より500mほど上流だが、以前は堰のすぐ上流だったと聞く。流れが大きく変わったのは何年前なのだろうか。秋川合流点に来ると、そこより上流の本流の水量よりも、秋川の水量の方がかなり多いことに気付く。本川は川幅が数mしかないところもある。多摩川の水が支川に支えられていることを実感できる場所である。また、左岸の広い石河原と右岸の洗掘による「崖」の様子から、洪水時には相当な影響を受けていることが想像できる。福生南公園沿いには車道が整備されていて、河川敷の奥まで車が進入してくる。

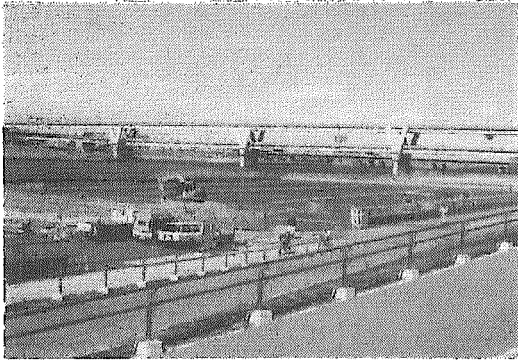
特にこの河原の前は駐車場になっているので、暖かくなればバーベキューをする人や水遊びの親子連れなどでいつも賑わっている。



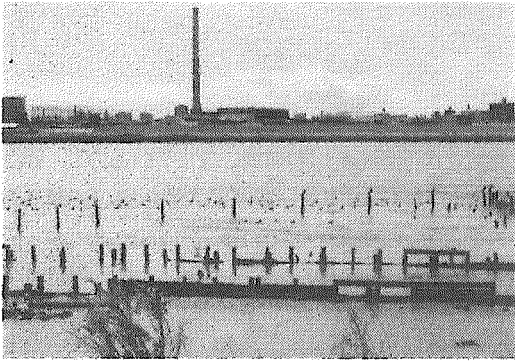
観察できた野鳥は、カワウ、コサギ、アオサギ、カルガモ、トビ、セグロカモメ、キジバト、ヒメアマツバメ、コゲラ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、アカハラ、ツグミ、ジョウビタキ、ホオジロ、アオジ、スズメ、カワラヒワ、ムクドリ、シジュウカラ、ハシボソガラス。

*2月25日 荒川：平井大橋～堀切橋
多摩川の自然を守る会の自然観察会。先週の暖か

さが嘘のように北風の冷たい1日だった。堀切橋を渡って、左岸を下流に歩いていくと、河川敷はずっと先まで工事中で歩けるところは限られている。



堤防の反対側には綾瀬川が流れていて、キンクロハジロやヒドリガモ、ホシハジロなどのカモ類が観察できる。



中川水門から平井大橋にかけては多くの人エウンドや池がつくられていて、潮の干満で水が出入りしている。



今日歩いた他の場所は、工事中かグラウンドがほとんどで、多摩川下流部の方がずっと自然が多くて変化に富んでいるように思えた。観察できた野鳥は、

カワウ、コガモ、カルガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、セグロカモメ、ウミネコ、ユリカモメ、ドバト、ハクセキレイ、ツグミ、オオジュリン、スズメ、ムクドリ、メジロ、ハシブトガラス。

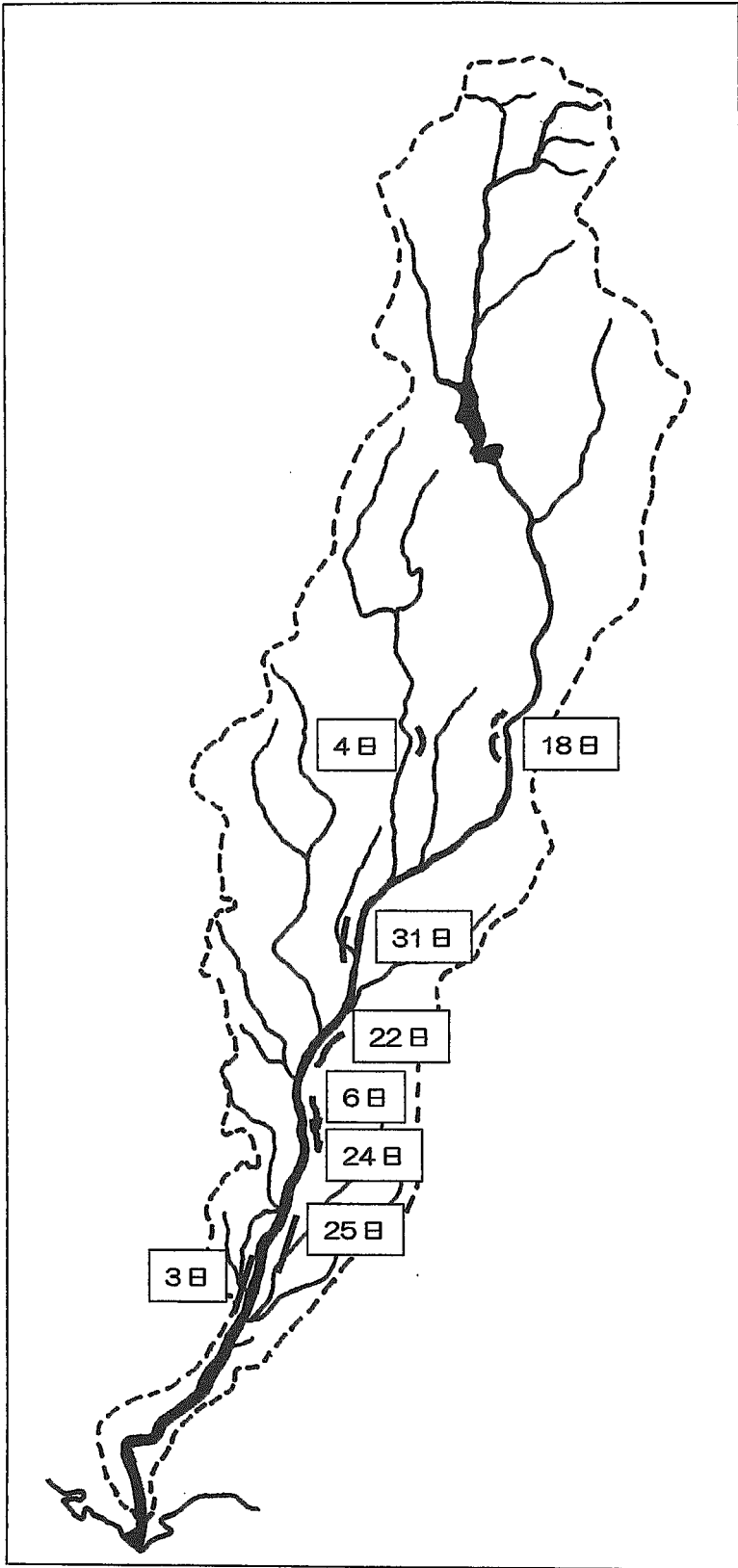
***2月28日 谷保**

JR 南武線谷保駅前の寒桜が満開。



3 月
March





***3月3日 二子橋～宿河原堰（18～22km 付近/右岸）**

3月に入り、多摩地区の梅は満開、河原にはオオイヌフグリの青に加えて、ヒメオドリコソウやホトケノザのピンクの花も目立つようになってきた。しかし、今日は雲が厚く垂れこめ肌寒い。宿河原堰下流の石積み護岸がやっと少し風景に馴染んできた。付近には多くの種類のカモがいる。500mほど下流に行くと石河原に伏流水が湧き出して流れができており、クレソンが青々と茂っている。

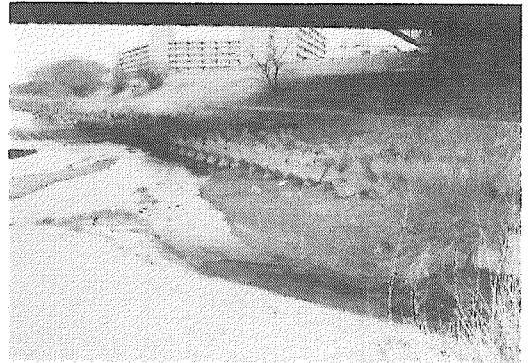


一方河川敷にモトクロッサーが数人侵入していて気になる。その先の石河原は、何故かカラスの溜まり場となっている。白バイ練習所前の左岸は、98年の増水で、水際が遊歩道のところまで大きく洗掘された。今は蛇籠の護岸をつくり直している最中で、工事の様子がよくわかる。

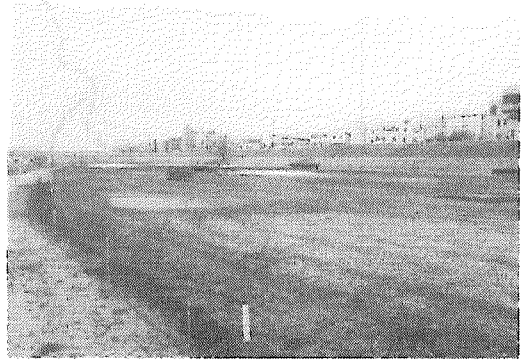


東名高速の下にも以前から湧水の流れがあり、100mほどで本川に合流している。こうした場所は、他と異なる動植物が見られ、観察会や子どもたちの水遊びの場としても大変貴重だと思う。余計な手を加えずにうまく付き合っていきたい。東名高速を過ぎると、宇奈根の森と呼ばれる河畔林があるものの、

河川敷のほとんどはグラウンドやワイルドフラワーばかりでつまらない。



パークゴルフ場まで造成中である。水際を下流に歩いていくと石河原やヨシ原が細く帯状に続いている。

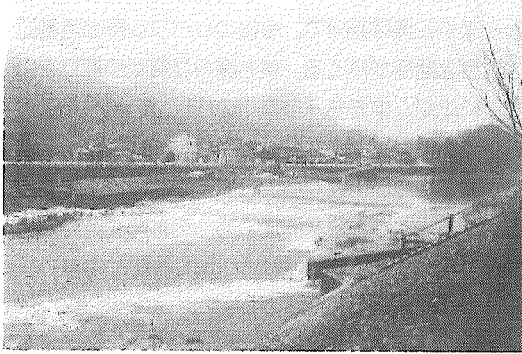


平瀬川との合流点では、カンムリカイツブリを見ることができた。新二子橋付近から下流は、緊急河川敷道路も整備されていて、より人工的な景観になる。二子橋を渡って、帰りがけに兵庫島に寄った。兵庫橋ではカワセミを見ることができた。ここでは何回も見かけるので、近くに巣があるのかもしれない。観察できた野鳥は、カンムリカイツブリ、カワウ、コサギ、アオサギ、マガモ、コガモ、カルガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、キンクロハジロ、イソシギ、セグロカモメ、ウミネコ、ユリカモメ、キジバト、ドバト、ヒメアマツバメ、カワセミ、ハクセキレイ、キセキレイ、タヒバリ、ツグミ、ホオジロ、スズメ、カワラヒワ、ムクドリ、ハシブトガラス。

***3月4日 秋川（秋川橋～小和田橋/左岸）**

朝起きたらひどい雨降りだったが、午後からは日

が差してきたので、秋川へ出掛けた。川は午前中の雨の影響か、かなり濁っている。5年前に来たときには、小和田橋下流の小庄用水堰に、とても魚がのぼれなさそうな魚道がつけられていたので、どうなっているか気になっていた。行ってみると、ちょうど東京都労働経済局による魚道整備工事が行われている。



今月いっぱいまで完成することになっているので、また来てみたい。左岸の左手沿いには桜の古木が20本ほどあり、花の時期が楽しみだ。右岸の水際(崖)は以前から護岸工事をしていたが、今日も重機が入っている。少し下流の右岸の河原は、秋川橋河川公園というバーベキューランドになっていて、夏は大変な賑わいである。さらに、現在「交流のかけ橋」の架橋工事が行われており、人工的な景観に拍車をかけている。



小和田橋上流の落ち着いた眺めとは対照的である。左岸側は秋川橋の上流200mほどのところに崖と小川があって、直進はできない。今日はあまり時間がないので切り上げたが、景観、利用、生物などについて、いろいろ考えさせてくれる場所である。観察できた野鳥は、カワウ、コサギ、ダイサギ、マガ

モ、カルガモ、トビ、イカルチドリ、キジバト、カワセミ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ツグミ、ホオジロ、カシラダカ、スズメ、カワラヒワ、ハシブトガラス。

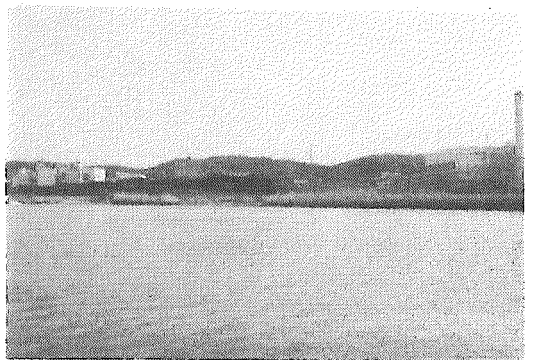


*3月5日 多摩川市民フォーラム第3「いきもの・学習」研究会

研究会の4月以降の取り組みについて話し合われ、勉強会各回ごとにテーマを決めて議論しようということになった。

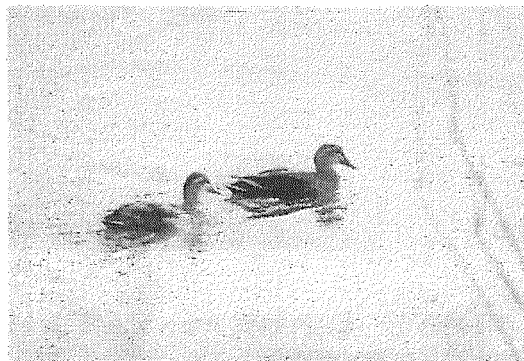
*3月6日 大丸用水堰上流(32~33km付近/左岸)

大阪府池田市の中学校から、修学旅行で多摩川に来たいので場所やメニューなどのコーディネートをして欲しい、という依頼が多摩川センターに入った。先生が下見に見えたので、多摩川ふれあい教室と周辺の多摩川を案内しながらアイデアを出し合った。子どもたちの興味に合わせてテーマごとに班を分け、実験や観察をしてはどうでしょうかと提案した。



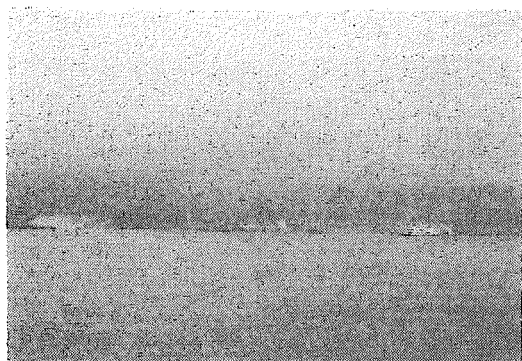
その後、大丸用水堰付近で観察をしていると、コイ

釣りをしている人が、白くて臍猛な鳥がいて、サギを襲って食べたりしていると言う。双眼鏡で見ると、カラスの群れの中に1羽、オオタカが枝に止まっていた。観察できた野鳥は、カワウ、コサギ、ダイサギ、カルガモ、ヒドリガモ、オオタカ、ユリカモメ、セグロセキレイ、ツグミ、ホオジロ、スズメ、ハシブトガラス。



*3月10日 琵琶湖：大津市

瀬田川の改修100周年を記念して、国土交通省琵琶湖工事事務所が呼びかけて結成した市民ネットワーク「リハブレ隊」の総括集会在、琵琶湖のほとり大津市で行われた。僕は多摩川での、市民と行政のパートナーシップによる川づくりの取り組みを紹介するために参加した。少し早めに着いたので、ちょっと琵琶湖を見学してきた。市街地沿いのためか、親水公園や遊歩道が整備され、駐車場や自然石護岸なども目立つ。今回訪れた大津市は琵琶湖の南端にあたるが、東西南北、それぞれに湖岸の風景はまったく異なっている。



前回琵琶湖を訪れたのは8年前のことで、沖の島に渡り、十日間ほどバスフィッシングに明け暮れた。

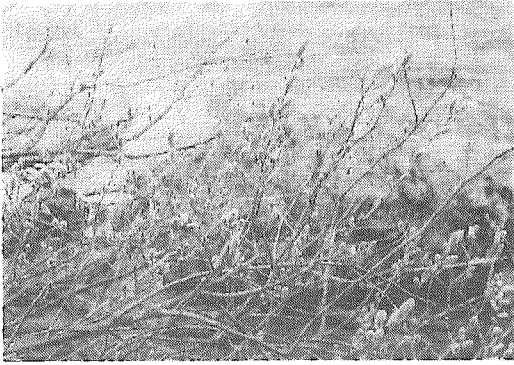
バスが在来魚に及ぼす影響については、当時から深刻な問題となっており、地元の漁民が地引網でバスの駆除をするところに出くわし、小学校の給食では「ピワバスのソテー」なるものを食べているという話を聞いたものである。さてシンポジウムは、参加者（市民）一人一人がとても個性的で、素朴な疑問や意見がどんどん出てくる。「学ぶ」、「実践する」、「広報する」の3つのテーマで討論が進められたが、みんなやる気は充分で、今後のリハブレ隊の活動には大きな期待が持てる。僕も様々な質問や意見をいただいたが、中でも「多摩川の住民は自分の命よりも川の環境を選ぶのか？」という質問が印象に残った。瀬田川は琵琶湖から流れ出す唯一の河川であり、古くから治水が大きな課題であったと聞く。身近な自然を守ろうという多摩川の市民活動との違いについて考えさせられた。

*3月16日 多摩川市民フォーラム第7回セミナー

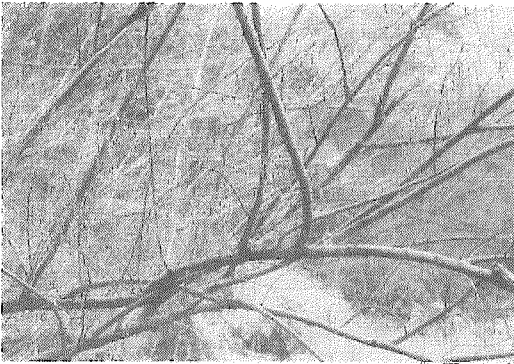
多摩川市民フォーラムがつくっている「市民行動計画」は、3月中にまとめることを目指しており、それに向けて内容確認と意見交換を行った。市民行動計画（案）は、流域行動計画に源流や支川の提案が加わり、研究会で議論してきたテーマ別行動計画もかなり充実してきた。この日はさらに加筆・修正をすべき点について具体的な議論ができた。また今後の多摩川市民フォーラムの活動に関しては、テーマ別研究会を継続・発展させよう、多摩川流域の市民団体が実施している自然観察会に積極的に参加しよう、などの意見が出された。

*3月18日 釜の淵公園付近（60～61km 付近/右岸）／和田橋上流（64km 付近/右岸）

2月に水辺で見つけた柳が見頃だと思いき掛け。溪流釣りが解禁になり、青梅付近の多摩川は朝からかなりの人出である。鮎美橋下の二次流路跡には、伏流水が湧き出して流れができていますが、水量は少なく、水がたまっているので、あまりきれいではない。本流の水質は2月に来たときよりもかなり良くなっているが、郷土博物館横の排水路から非常に汚れた水が流れ込んでいて気になる。河原に下りると、ちょうどネコヤナギの可愛らしい花が盛りだった。



丸石河原に紫の小さな花がたくさんあり、一瞬在来のイヌノフグリかと思ったが、葉の鋸歯の数は多く、オオイヌノフグリであった。雨上がりで、花がまだ閉じていたので見間違ったようである。ほかに目立った植物はフキノトウ、キブシの花房。



和田橋の300mほど上流(右岸)には、人家の脇から河原に下りられる小道があり、高校時代からのお気に入りである。浅瀬では、カワウや鶺鴒が小魚を狙っている。日が差してきて、暖かくなってきた。今日は吉野梅郷に出掛けた人も多いことだろう。

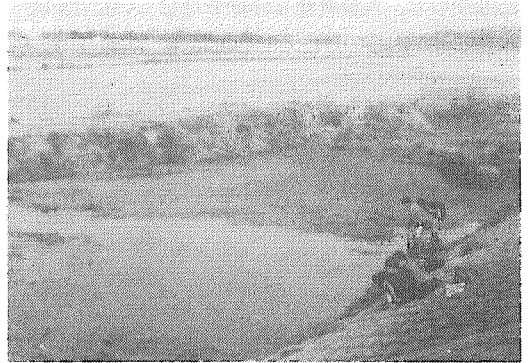


観察できた野鳥は、カワウ、コサギ、ダイサギ、アオサギ、コジュケイ(声)、キジバト、コゲラ、ハ

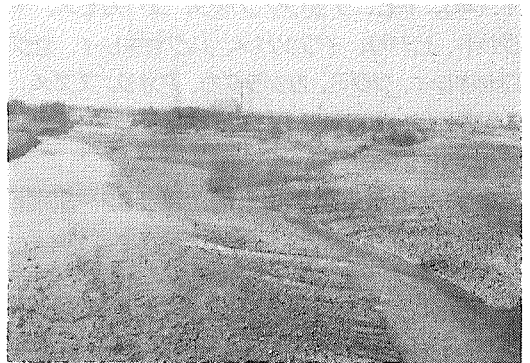
クセキレイ、セグロセキレイ、キセキレイ、ヒヨドリ、ツグミ、ジョウビタキ、ホオジロ、スズメ、カワラヒワ、シジュウカラ、ハシボソガラス。

*3月22日 京王線鉄橋～浅川合流点上流(35～37km付近)

明治大学の倉本先生のカワラノギク種まきの手伝いに行く。よく晴れて暖かくなり、柳の芽吹きが眩しい。ヒバリがあちこちから飛び立ち、とても賑やかだ。京王線鉄橋上流右岸の護岸(根固め?)工事は終了したようだが、対岸の関戸橋付近はまだ施工中である。一の宮公園前の土手に、新たにスロープを付ける工事をしている。府中四谷橋の手前にはワンドには伏流水が湧いているようで、水はとても澄んでいる。オオフサモガびっしりと繁茂しているが、地元の子もたちが靴を脱いで水に入り、魚とりに夢中になっている。



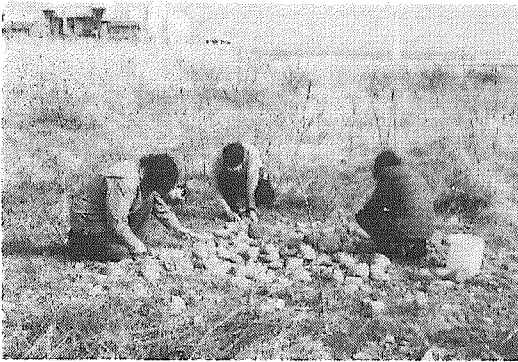
僕ら小さい頃もこうした「秘密の場所」を見つけでは遊んでいた。守っていききたい場所だ。浅川下流部の「災害復旧」工事はまだ進行中で、根川合流点付近で重機がうごめき、茶色く濁った水が府中四谷橋付近まで流れてきている。



橋を渡って浅川合流点の対岸に出る。カワラノギクの発芽率は数パーセントということで、昨年まいたところも見せていただいたが、丈夫に育っているのは数えるくらいであった。



種まきの手順は、草と土を除いた丸石河原に石を増やし、大き目の丸石の横に砂と混ぜた種を置いて、最後に水をかけてなじませる。初めて知ることばかりで、大変貴重な体験をさせていただいた。本当に芽が出るのかとても心配だ。

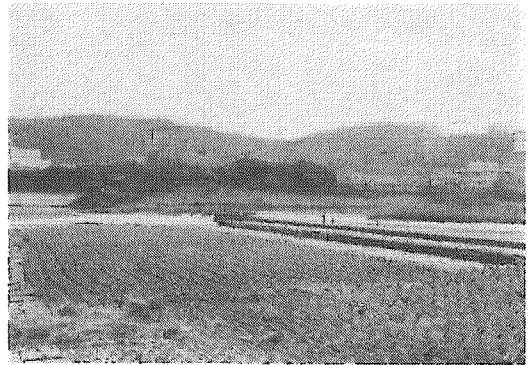


ハクモクレンが満開、ウグイスの囀りも。観察できた野鳥は、カワウ、コサギ、ダイサギ、カルガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、コジュケイ（声）、トビ、チョウゲンボウ、ユリカモメ、キジバト、ヒバリ、イワツバメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ツグミ、カシラダカ、アオジ、スズメ、カワラヒワ、ムクドリ、ハシブトガラス。

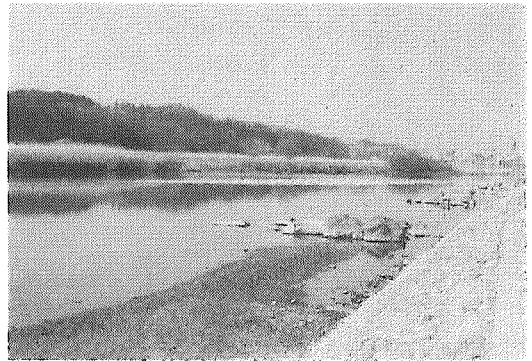
*3月24日 大丸用水堰上流(32~33km 付近/左岸)

一気に春めいてきて、昨日咲き始めた桜が一日でかなり開いた。コブシの花は五部咲きといったところ。今日は多摩川ふれあい教室勤務なので、仕事の

合間の昼休みで多摩川観察。大丸用水堰は、中央部のゲート5門中3門を開けて流している(先日までは5門とも閉まっていた)。



そのため堰の上流側はぐっと水が減って浅くなり、陸化した部分も多く見られる。



堰の際は、水に入っている親子連れも目立った。観察できた野鳥は、コサギ、コガモ、カルガモ、キジバト、ドバト、カワセミ、コゲラ、ヒバリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ウグイス（声）、ツグミ、スズメ、ムクドリ、ハシブトガラス。

*3月25日 粕江水辺の楽校~五本松(21~24km 付近/左岸)

多摩川の自然を守る会の自然観察会。水辺の楽校の下流にある早瀬では、マルタウグイが産卵の真っ最中だ。ウグイの産卵を見たことはあるが、マルタウグイは初めてである。50cmほどの大物が何百とひしめきあって産卵する光景は、コイの産卵とはまた違った迫力がある。水辺の楽校付近は、ゴミがなくなってきれいになった。また、土手から川に下りるスロープが工事中である。



車椅子でも水辺に近づけるようにという配慮だと思うが、多摩川中がスロープやトイレだらけになってしまったらどうだろうか。



多摩水道橋は4車線化工事が終了し、ちょうど記念イベントが行われている。狛江と対岸川崎との交流をテーマとしているようで、橋周辺は人出がすごい。



けやき出版の出店があったので、多摩川絵図を買う。五本松前で見かけたダイサギは、すでに夏羽で、目の周りが鮮やかな青緑色になっていた。午後は西河原公園前の公民館で、総会とビデオ鑑賞をした。観察できた野鳥は、カイツブリ、カワウ、コサギ、ダイサギ、アオサギ、コガモ、カルガモ、ヒドリガモ、

オナガガモ、ハシビロガモ、コチドリ、イソシギ、セグロカモメ、ユリカモメ、キジバト、ドバト、カワセミ、ヒバリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス(声)、ツグミ、スズメ、カワラヒワ、ムクドリ、シジュウカラ、ハシブトガラス。

*3月26日 多摩川流域懇談会第17回運営委員会

宿河原堰付近の桜は5~6部咲きになり、ニヶ領用水の水面に映って美しい。多摩川水系河川整備計画は間もなく策定されるが、多摩川流域懇談会の今後の活動について、活発に意見交換がされた。計画にうたわれている、水流実態解明プロジェクトやリバーミュージアムを実現していくためには、テーマ部会や、プロジェクトチームの設置が不可欠である。計画の実施状況は、流域セミナーなどできちんと公開して、議論していくことが重要である。市民と行政とが多摩川を共に歩き学ぶフィールドワークを続けていきたい、等。多摩川流域懇談会の目的は、河川整備計画づくりではなく、様々な立場の人々のパートナーシップによって、多摩川流域のいい川づくりを実現していくことにある。今後の活動の鍵は、その精神のもとに、どれだけ多くの人が行動し、盛り上げていけるかにかかっている。

*3月29日 府中

各地から桜満開との報告が届くが、今日は非常に寒く、冷たい雨の一日である。府中の桜通の桜は、間もなく満開になろうというところで、花を散す無常の雨にはならなかったようだ。

*3月31日 中央線鉄橋~谷地川浄化施設上流(41~43km 付近/右岸)

桜の咲く頃は寒暖の差が激しく、またしても非常に寒い一日となる。昼過ぎには冷たい雨がなんと雪に変わった。そういえば1988年にも桜が満開のときに雪が降ったことがある。多摩川に出ると、春の吹雪の中を、渡ってきたばかりのイワツバメが川面を飛び交っているが寒そうだ。谷地川合流点上流には、植生豊かな原野が広がり、一帯は生態系保持空間に指定されている。



その原野を横切って谷地川に出る途中、キジのオスに会う。すぐ近くだったが、あわてる様子もなく悠然と歩いていて、その鮮やかな模様を存分に楽しませてくれた。タチヤナギの芽吹きと、カキドオシの花も目を引く。



僕の大好きな「ワンド」は、ぱっと見た限りでは、昨年から大きな変化はなさそうだ。形状からして多摩川の旧河道だと思うが、本流とは増水時以外は分離している。もう一方は谷地川に流れ込むが、その水量の多さからすると、ワンド内には伏流水が湧いているのだろう。この辺の河川敷には伏流水が多く見られ、冬の冷え込んだ早朝にはもやが立ち昇ることがある。少し上流の多摩大橋には、それを狙って多くのカメラマンが集まる。谷地川の水質は決して良くないが、多摩川との合流点から浄化施設付近までは、くねくねと曲がって流れ、ワンドあり、河原あり、中州あり、実に自然豊かである。しかし、浄化施設から上流の東京都管理区間では、コンクリート護岸のまっすぐでつまらない川になってしまう。今日は天候が悪くて、さっと歩いて切り上げたが、この場所には自然が多く残されており、いろんな発見がありそうだ。晴れて暖かな日にゆっくりと歩い

てみたい。



観察できた野鳥は、カワウ、アオサギ、コガモ、カルガモ、キジ、セグロカモメ、カワセミ、コゲラ(声)、イワツバメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ウグイス(声)、ツグミ、ホオジロ、スズメ、カワラヒワ、シジュウカラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス。

「た ま がわ ちゆうりゅうぶ ほんりゅう多摩川中流部(本流)における^こ子どもの^{かわあそ}川遊びと
みずべ こうどう水辺行動じつたいちようさについての実態調査」

(研究助成・一般研究VOL. 24-No.133)

著 者 うえ だ ひろ し 上田 大志
発行日 2003年3月31日
発 行 財団法人 とうきゅう環境浄化財団
〒150-0002
渋谷区渋谷 1-16-14 (渋谷地下鉄ビル内)
TEL (03)3400-9142
FAX (03)3400-9141
